

第6回

和牛甲子園

結果報告書



和牛甲子園

令和5年1月19日・20日

全農

主催：全国農業協同組合連合会

後援：文部科学省
農林水産省
独立行政法人農畜産業振興機構
独立行政法人家畜改良センター
東京都中央卸売市場食肉市場
東京食肉市場株式会社
全国農業高等学校長協会
日本学校農業クラブ連盟
公益財団法人全国学校農場協会
公益社団法人全国食肉学校
一般社団法人全国農業協同組合中央会
JA全農ミートフーズ株式会社

協賛：三洋貿易株式会社
共栄火災海上保険株式会社
全農畜産サービス株式会社
株式会社科学飼料研究所
全農サイロ株式会社
ホクレンくみあい飼料株式会社
JA全農北日本くみあい飼料株式会社
JA東日本くみあい飼料株式会社
JA西日本くみあい飼料株式会社
ジェイエイ北九州くみあい飼料株式会社
南日本くみあい飼料株式会社
公益社団法人全国食肉学校
全農チキンフーズ株式会社
JA全農たまご株式会社
JA全農ミートフーズ株式会社

第6回和牛甲子園ホームページ

<https://wagyukoushien.com>



大会当日の様様

1日目：<https://youtu.be/Lq2ACjyBcu4>

2日目：<https://youtu.be/txTxkQxoFq4>



1日目



2日目





和牛甲子園

目次

開会あいさつ	1
大会概要／タイムスケジュール	2
開催意義・目的／出場校一覧	3
和牛飼育体験発表会 タイトル	4
出品牛一覧	5～6
選手宣誓／審査委員一覧	7
祝辞紹介（開会式）	8～9
褒賞式あいさつ	10
祝辞紹介（褒賞式）	11～13
大会結果	14
総合評価部門 最優秀賞 岐阜県立 大垣養老高等学校	15～16
枝肉評価部門 優秀賞	
取組評価部門 最優秀賞 鹿児島県立 市来農芸高等学校	17～18
優秀賞 北海道 倶知安農業高等学校	19
優秀賞 広島県立 西条農業高等学校	20
優良賞 栃木県立 栃木農業高等学校	21
優良賞 神奈川県立 中央農業高等学校	22
優良賞 京都府立 農芸高等学校	23
審査委員特別賞 鹿児島県立 鹿屋農業高等学校	24
高校牛児特別賞 愛知県立 渥美農業高等学校	25
審査講評	26～27
体験発表会カンファレンス	28
枝肉評価部門 最優秀賞 栃木県立 矢板高等学校	29～30
優秀賞 鹿児島県立 加世田常潤高等学校	31
優良賞 福島県立 磐城農業高等学校	32
優良賞 岐阜県立 飛騨高山高等学校	33
優良賞 島根県立 出雲農林高等学校	34
審査委員特別賞 愛知県立 渥美農業高等学校	35
審査講評	36～40
枝肉評価部門 成績一覧	41
褒賞及び受賞結果	42
先輩“高校牛児”講話	43～44
特別授業 サトウ食品(株)佐藤理香社長 講演	45～46
和牛甲子園に参加して	47～72
大会風景	73～81
第6回和牛甲子園 開催要領	82～90
審査基準・褒賞について	91～93
協力者一覧	94





和牛甲子園

開会あいさつ

ただいまご紹介いただきました、全農の齊藤でございます。主催者を代表しまして、ひとことごあいさつ申し上げます。

本日、第6回 和牛甲子園の開催にあたりまして、文部科学省様、農林水産省様、ほか関係機関・団体のご来賓のみなさま、ならびに畜産・食肉業界からも多数のご参加をいただきましたことを心より御礼申し上げます。

また、東京都中央卸売市場 食肉市場様、全国農業高等学校長協会様をはじめとする学校関係のみなさま、東京食肉市場 株式会社様をはじめ、ご後援を頂戴したみなさま、ならびに審査委員の先生方には、企画の段階から格別のご指導を賜りましたことに重ねて御礼を申し上げます。

ご案内のとおり、わが国には300校を超える農業高等学校があり、そのうち数十校において、授業やクラブ活動の一環として、高校生の手による和牛飼育がおこなわれています。昨年10月には、「和牛のオリンピック」の名で知られる全国和牛能力共進会が鹿児島県で開催されましたが、この鹿児島大会から設定された「高校及び農業大学校」の部には、こうした農業高校から24校が出場し、日ごろの研鑽の成果を競い合ったのは記憶に新しいところです。

和牛甲子園は、2018年1月の第1回から数えると、早いもので今年が6回目となりました。振り返りますと、この第1回に先立つ2017年9月の宮城全共において、復興特別区として、農業高校で牛の飼育を学ぶ学生のみなさまのひのき舞台が設定されました。そして本日は、この宮城全共と第1回和牛甲子園の2冠を達成した、いわゆる「レジェンド牛児」に会場にお越しいただいています。畜産を一生の仕事として歩みはじめた若者の姿を、これまでの和牛甲子園の歩みと重ね合わせるとき、非常に深い感慨を覚えます。

新型コロナウイルスの感染拡大は、私たちの仕事や生活様式を大きく変えました。和牛甲子園もオンライン開催を余儀なくされましたが、一方でSNSを介して高校牛児のネットワークづくりが一層すすむという思いがけない収穫もありました。しかし、実開催を望む声が多かったのも事実です。そこで今回は、万全のコロナ対策を講じたうえで、3年振りとなる実参加を含むハイブリット開催といたしました。

本大会には、新たに4道府県から、5校の参加があり、合計23道府県、40校と、過去最大の規模となり、主催者として大変嬉しく思っているところです。品川で実参加されるみなさまも、地元からオンラインで参加されるみなさまも、同じ目標を持つ学生同士がそれぞれ存分に力を発揮され、この和牛甲子園を心から楽しんでいただければと思います。

さて、この大会の主人公である学生のみなさまに、和牛甲子園のねらいと私たちの思いについて少しお話しさせていただきます。

一つ目のねらいは、高校で和牛を飼育されているみなさまに、ぜひ将来の担い手になってほしいということです。わが国で肉牛を飼養する農家は年々減少しています。高校に入学して、たまたま和牛と出会ったという方も少なくないと思いますが、そうしたみなさまにも、和牛甲子園という目標を通して、「和牛飼育は楽しい、一生の仕事にしてみよう」と、是非思ってもらいたいということです。

二つ目のねらいは、日頃みなさまが取り組まれている活動内容の共有化を通じて、牛飼いの楽しさを分かちあえる仲間を作ってもらいたいということです。同じ世代の仲間たちの創意工夫あふれる取組みを学ぶことは、必ずみなさまの成長につながると確信しています。この大会がそのようなきっかけになってほしいと心から願っています。

そして、こうした次の世代を担う若いみなさまに、私たちJAグループをはじめ、畜産関係者みんなが心から応援していることを伝えたい、これが私たちの思いです。

むすびに、今日からの2日間は、みなさまにとって有意義なものとなりますことを祈念して、第6回 和牛甲子園開会の挨拶といたします。

本日は、よろしく願いいたします。



令和5年1月19日

全国農業協同組合連合会 常務理事

齊藤 良樹





和牛甲子園

大会概要／タイムスケジュール

和牛甲子園とは

全国には農業高校が300校余りあり、その中でも畜産学科が設置されている学校を中心に、授業やクラブ活動の一環として高校生の手によって和牛が飼育されています。そんな、全国の高校生と、彼らが育てた和牛が集まり、日ごろの和牛飼育の取り組みを発表し、その成果としての枝肉の肉質を競い合う大会、それが「和牛甲子園」です。

日程：令和5年1月19日（木）・20日（金）

1日目：和牛飼育体験発表会 他／2日目：和牛枝肉 勉強会・共励会 他

会場：品川グランドホール（THE GRAND HALL）／東京都中央卸売市場食肉市場

主催：全国農業協同組合連合会

後援：文部科学省、農林水産省、独立行政法人農畜産業振興機構、独立行政法人家畜改良センター、東京都中央卸売市場食肉市場、東京食肉市場株式会社、全国農業高等学校長協会、日本学校農業クラブ連盟、公益財団法人全国学校農場協会、公益社団法人全国食肉学校、一般社団法人全国農業協同組合中央会、JA全農ミートフーズ株式会社

協賛：三洋貿易株式会社、共栄火災海上保険株式会社、全農畜産サービス株式会社、株式会社科学飼料研究所、全農サイロ株式会社、ホクレンくみあい飼料株式会社、JA全農北日本くみあい飼料株式会社、JA東日本くみあい飼料株式会社、JA西日本くみあい飼料株式会社、ジェイエイ北九州くみあい飼料株式会社、南日本くみあい飼料株式会社、公益社団法人全国食肉学校、全農チキンフーズ株式会社、JA全農たまご株式会社、JA全農ミートフーズ株式会社

タイムスケジュール

1日目 1月19日（木）

時間	次第	場所
13：00～13：40	開会式	品川グランドホール (THE GRAND HALL)
14：00～15：20	和牛飼育体験発表会 (結果発表・入賞校発表・講評)	
15：30～16：10	先輩“高校牛児”講話	
16：30～17：30	体験発表会カンファレンス	
17：30～18：00	学校交流会（中止）	
	1日目終了	

2日目 1月20日（金）

時間	次第	場所
8：00～9：30	枝肉勉強会	東京都中央卸売市場食肉市場
9：30～10：30	枝肉共励会	
10：30～11：15	移動	
11：30～12：00	特別授業（講演）	品川グランドホール (THE GRAND HALL)
12：00～13：00	昼食・休憩	
13：00～13：30	枝肉部門入賞牛解説 枝肉勉強会まとめ	
13：45～14：45	褒賞式	
14：45～15：30	入賞校写真撮影・取材	
	解散	



開催意義・目的／出場校一覧

1 参加生徒の目標・目的意識の場の設定

農業高校において和牛飼育実習を行っている生徒に対し、目標となる場を設定し、「和牛甲子園大会出場」という目標・目的意識をもたせることにより、学習効果の向上と合わせ、畜産業界への関心を高めてもらう。

2 将来の担い手候補である高校生間のネットワーク作り

“高校牛児”として同じ志を持つライバルを日本各地に見出し、お互いに切磋琢磨し合うような同世代との交流の場を創出する。

第6回和牛甲子園出場校一覧

学校 No.	出品 No.	道府県名	出場校	出場回数	出品頭数	(参考) 第5回和牛甲子園の結果
1	1	北海道	北海道俱知安農業高等学校	初	1	
2	—		酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校	初	※	
3	2,3	青森県	青森県立三本木農業高等学校・ 青森県立三本木農業恵拓高等学校	3	2	
4	43	岩手県	岩手県立水沢農業高等学校	6	1	
5	4,5		岩手県立盛岡農業高等学校	3	2	
6	—		岩手県立花巻農業高等学校	2	※	
7	6	宮城県	宮城県農業高等学校	2	1	取組評価部門 高校牛児特別賞
8	44,45	福島県	福島県立会津農林高等学校	4	2	取組評価部門 優良賞
9	7		福島県立磐城農業高等学校	3	1	
10	—	茨城県	茨城県立水戸農業高等学校	初	※	
11	46,47	栃木県	栃木県立宇都宮白楊高等学校	6	2	枝肉評価部門 審査委員特別賞
12	8		栃木県立鹿沼南高等学校	6	1	
13	9,10		栃木県立栃木農業高等学校	6	2	枝肉評価部門 優良賞
14	11		栃木県立那須拓陽高等学校	6	1	枝肉評価部門 優良賞
15	48,49		栃木県立真岡北陵高等学校	5	2	
16	12,13		栃木県立矢板高等学校	6	2	
17	14,15	群馬県	群馬県立利根実業高等学校	4	2	
18	—		群馬県立吾妻中央高等学校	初	※	
19	16	神奈川県	神奈川県立中央農業高等学校	4	1	
20	17	富山県	富山県立中央農業高等学校	6	1	
21	18,19	岐阜県	岐阜県立大垣養老高等学校	5	2	枝肉評価部門 優秀賞
22	20,21		岐阜県立加茂農林高等学校	6	2	
23	22,23		岐阜県立飛騨高山高等学校	6	2	
24	24,25	愛知県	愛知県立渥美農業高等学校	4	2	総合評価部門 最優秀賞 取組評価部門 優秀賞 枝肉評価部門 優秀賞
25	26,27	滋賀県	滋賀県立長浜農業高等学校	5	2	
26	28	京都府	京都府立農芸高等学校	初	1	
27	29	島根県	島根県立出雲農林高等学校	6	1	
28	—	岡山県	岡山県立瀬戸南高等学校	4	1	取組評価部門 審査委員特別賞
29	30,31	広島県	広島県立西条農業高等学校	4	2	取組評価部門 最優秀賞
30	32	山口県	山口県立大津緑洋高等学校	3	1	
31	51	佐賀県	佐賀県立唐津南高等学校	6	1	
32	52	長崎県	長崎県立諫早農業高等学校	3	1	
33	53,54	熊本県	熊本県立南稜高等学校	4	2	
34	33,34	宮崎県	宮崎県立高鍋農業高等学校	2	2	
35	55		宮崎県立都城農業高等学校	2	1	
36	35,36	鹿児島県	鹿児島県立市来農芸高等学校	5	2	取組評価部門 優秀賞
37	37,38		鹿児島県立鶴翔高等学校	6	2	取組評価部門 優良賞
38	39,40		鹿児島県立鹿屋農業高等学校	6	2	取組評価部門 優良賞 枝肉評価部門 優良賞
39	41,42		鹿児島県立曾於高等学校	5	2	枝肉評価部門 最優秀賞
40	56		鹿児島県立加世田常潤高等学校	4	1	

※第3回大会より、次年度の和牛甲子園に出場予定の高校については、和牛飼育体験発表会のみでの出場も可能としている。



和牛飼育体験発表会 タイトル

和牛飼育体験発表会

発表 順番	学校名	題 名
1	北海道倶知安農業高等学校	ようてい和牛プロジェクト～地域と歩む、後世に残り続ける畜産業～
2	酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校	M&M農業～複合経営から北海道の新しい畜産のかたちを探る～
3	青森県立三本木農業高等学校・ 青森県立三本木農業恵拓高等学校	エコフィードを活用して持続可能な和牛生産をしてみた。
4	岩手県立水沢農業高等学校	「藤光号」いざ、出陣！～愛情+SDGsでつくる私たちの「いわて牛」～
5	岩手県立盛岡農業高等学校	「もりのうモチモチ牛 五ッ星」～美味しい牛肉はお米から PART2～
6	岩手県立花巻農業高等学校	肥育初心者集団の挑戦 ～系統比較とリアルタイム検査で肥育のセオリーを探る～
7	宮城県農業高等学校	宮農肥育物語 ～俺らの青春 仙台牛～
8	福島県立会津農林高等学校	んめえ牛肉を！～黒べこと対話した日々～
9	福島県立磐城農業高等学校	目指せ！いわきブランドの確立！～牛とつながる先輩との絆～
10	茨城県立水戸農業高等学校	Challenge ～安心・安全な和牛生産を目指して～
11	栃木県立宇都宮白楊高等学校	宇都宮白楊高校の畜産分会活動
12	栃木県立鹿沼南高等学校	牛が教えてくれたこと～ありがとう、そしていただきます～
13	栃木県立栃木農業高等学校	持続可能な和牛生産を目指して
14	栃木県立那須拓陽高等学校	私たちの「匠」生産物語
15	栃木県立真岡北陵高等学校	SDGs×北陵新時代～輸入飼料に頼らない、足腰の強い畜産経営を目指して～
16	栃木県立矢板高等学校	持続可能な肉牛生産を目指して～地域資源と自給飼料のフル活用～
17	群馬県立利根実業高等学校	SDGsで上州和牛の飼育・地産地消に挑戦！
18	群馬県立吾妻中央高等学校	吾妻中央高校における遺伝子解析と6次産業化による地域貢献に関する取り組み
19	神奈川県立中央農業高等学校	家畜と環境に配慮した飼養管理～発情抑制による肥育成績向上に向けて～
20	富山県立中央農業高等学校	校地区連携～ZEROから始める、地域酪農家との牧草地大改造～
21	岐阜県立大垣養老高等学校	岐阜県の優良雌牛の系統で最優秀賞を ～岐阜県立大垣養老高等学校5年間の集大成!!～
22	岐阜県立加茂農林高等学校	New Twins Production
23	岐阜県立飛騨高山高等学校	肉屋に好まれるお肉づくりを目指して～胃液で始める腸内改善作戦！～
24	愛知県立渥美農業高等学校	いま始まる“牛のため”を考え続けた私達の最終章～みかわ牛の知名度向上を目指して～
25	滋賀県立長浜農業高等学校	牛のポテンシャルを活かしたより良い肉質を目指して
26	京都府立農芸高等学校	和牛でつなぐ地域の輪 ～チーム京都の挑戦～
27	島根県立出雲農林高等学校	ストレスフリーで最高の肉質へ！ #チーム和牛女子
28	岡山県立瀬戸南高等学校	目指せ!! 800kg以上 ～笹の葉の力を借りて育った珠平茂～
29	広島県立西条農業高等学校	短期肥育の鍵はペレット！？
30	山口県立大津緑洋高等学校	“ちろる”のためにできること
31	佐賀県立唐津南高等学校	地元を活かした歩美君の飼育
32	長崎県立諫早農業高等学校	「ながさき和牛」を全国へ！！
33	熊本県立南稜高等学校	大切に育てたい！ストレス軽減を目指した取り組み
34	宮城県立高鍋農業高等学校	もっともつとをモットーに！！～夏太郎、旭桃にとつとのもつとも解を求めて～
35	宮城県立都城農業高等学校	「輝真」の成長日記～A5ランクの美味しいお肉生産を目指して～
36	鹿児島県立市来農芸高等学校	次代の和牛づくりへの挑戦
37	鹿児島県立鶴翔高等学校	牛にも人にもよりよい環境で パートII ～ストレス軽減に向けた私たちの取り組み～
38	鹿児島県立鹿屋農業高等学校	和牛新時代!和牛の魅力をさらなる高みへ～地域の力 高つけーコストを竹で解決～
39	鹿児島県立曾於高等学校	目指せストレスフリー！ 獲るぞ日本一！ 我らが育てた鹿児島黒牛 vol.4
40	鹿児島県立加世田常潤高等学校	常潤牛ブランドの食と命が未来へつなぐ



出品牛一覽

和牛甲子園

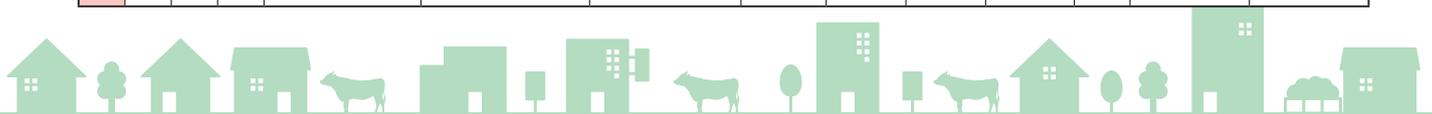
出品番号	枝肉番号	性別	県	農協名	学校名 (出品者氏名)	住所	素牛産地	血統			生後月齢	生年月日	個体識別番号
								父	母の父	母の祖父			
1	51	去勢	北海道	JAようてい	北海道 俱知安農業高等学校	北海道虻田郡	北海道	第1花藤	北乃大福	福谷福	28	R2.8.28	14304-15037
2	52	雌	青森	JA全農青森県本部	青森県立 三本木農業高等学校 三本木農業恵拓高等学校	青森県十和田市	青森県	安茂勝	優福栄	第1花国	30	R2.7.7	15909-20235
3	53	雌	青森	JA全農青森県本部	青森県立 三本木農業高等学校 三本木農業恵拓高等学校	青森県十和田市	青森県	第1花国	安平照	優福栄	29	R2.7.22	15909-20242
4	54	去勢	岩手	JA新しいわて	岩手県立 盛岡農業高等学校	岩手県滝沢市	岩手県	茂晴花	百合茂	安福久	32	R2.5.4	16142-12186
5	55	去勢	岩手	JA新しいわて	岩手県立 盛岡農業高等学校	岩手県滝沢市	岩手県	安亀忠	芳之国	美津照重	32	R2.5.13	16142-12193
6	56	去勢	宮城	JA名取岩沼	宮城県 農業高等学校	宮城県名取市	宮城県	安福久	百合茂	第1花国	29	R2.8.5	14832-14830
7	57	雌	福島	JA福島さくら	福島県立 磐城農業高等学校	福島県いわき市	福島県	花国白清	幸紀雄	美津照重	29	R2.7.29	16194-41284
8	58	去勢	栃木	JAかみつが	栃木県立 鹿沼南高等学校	栃木県鹿沼市	栃木県	勝乃幸	安福久	百合茂	30	R2.6.27	13830-70062
9	59	去勢	栃木	JAしもつけ	栃木県立 栃木農業高等学校	栃木県栃木市	栃木県	百合芳	茂勝栄	第1花国	31	R2.6.10	15909-50881
10	60	雌	栃木	JAしもつけ	栃木県立 栃木農業高等学校	栃木県栃木市	栃木県	聖香藤	北国茂	平茂勝	29	R2.8.2	15977-50910
11	61	去勢	栃木	JAなすの	栃木県立 那須拓陽高等学校	栃木県那須塩原市	栃木県	幸紀雄	安福久	第1花国	28	R2.9.17	15655-32081
12	62	去勢	栃木	JAしおのや	栃木県立 矢板高等学校	栃木県矢板市	栃木県	秋忠平	金幸	北国7の8	30	R2.7.6	16264-11492
13	63	去勢	栃木	JAしおのや	栃木県立 矢板高等学校	栃木県矢板市	栃木県	秋忠平	安福久	金幸	29	R2.7.28	16140-68431
14	64	去勢	群馬	JA利根沼田	群馬県立 利根実業高等学校	群馬県沼田市	群馬県	美津照重	芳之国	安福久	32	R2.5.13	15140-04065
15	65	去勢	群馬	JA利根沼田	群馬県立 利根実業高等学校	群馬県沼田市	群馬県	美津照重	第1花国	平茂勝	30	R2.7.17	15140-04089
16	66	雌	神奈川	JAさがみ	神奈川県立 中央農業高等学校	神奈川県海老名市	神奈川県	美津百合	福安照	平茂勝	31	R2.6.2	15737-40973
17	67	去勢	富山	JAあおば	富山県立 中央農業高等学校	富山県富山市	富山県	美津百合	勝忠鶴	松福美	30	R2.7.6	16180-63777
18	68	雌	岐阜	JAにしみの	岐阜県立 大垣養老高等学校	岐阜県養老郡	岐阜県	福平国	白清85の3	光平福	32	R2.5.1	15019-02664
19	69	去勢	岐阜	JAにしみの	岐阜県立 大垣養老高等学校	岐阜県養老郡	岐阜県	花清光	花福桜	白清85の3	31	R2.5.21	15019-02671
20	70	去勢	岐阜	JAめぐみの	岐阜県立 加茂農林高等学校	岐阜県美濃加茂市	岐阜県	白清85の3	福之国	飛騨白清	30	R2.6.19	16130-68968
21	71	雌	岐阜	JAめぐみの	岐阜県立 加茂農林高等学校	岐阜県美濃加茂市	岐阜県	白清85の3	福之国	飛騨白清	30	R2.6.19	16130-68975
22	72	雌	岐阜	JAひだ	岐阜県立 飛騨高山高等学校	岐阜県高山市	岐阜県	花福桜	白清85の3	忠富士	28	R2.8.27	14277-82654
23	73	雌	岐阜	JAひだ	岐阜県立 飛騨高山高等学校	岐阜県高山市	岐阜県	広茂清	光平福	護熙王	28	R2.9.1	14277-82661
24	74	雌	愛知	JA愛知みなみ	愛知県立 渥美農業高等学校	愛知県田原市	愛知県	美国桜	忠富士	安平	30	R2.7.15	14449-74353
25	75	雌	愛知	JA愛知みなみ	愛知県立 渥美農業高等学校	愛知県田原市	愛知県	美国桜	安福久	平茂勝	29	R2.7.21	14449-74360
26	76	去勢	滋賀	JA全農滋賀県本部	滋賀県立 長浜農業高等学校	滋賀県長浜市	滋賀県	福之姫	安茂勝	貴安福	30	R2.7.9	16140-62705
27	77	去勢	滋賀	JA全農滋賀県本部	滋賀県立 長浜農業高等学校	滋賀県長浜市	滋賀県	福之姫	百合勝安	福安照	28	R2.9.6	16140-62712
28	78	去勢	京都	JA全農京都府本部	京都府立 農芸高等学校	京都府南丹市	京都府	直太郎	安福久	隆之国	32	R2.4.28	15843-97005



和牛甲子園

出品牛一覧

出品番号	枝肉番号	性別	県	農協名	学校名 (出品者氏名)	住所	素牛産地	血統			生後月齢	生年月日	個体識別番号
								父	母の父	母の祖父			
29	79	去勢	島根	JAしまね	島根県立 出雲農林高等学校	島根県出雲市	島根県	百合五月	久茂福	安福久	33	R2.3.21	15641-50514
30	80	去勢	広島	JA広島中央	広島県立 西条農業高等学校	広島県東広島市	広島県	立烏帽子	沖茂神竜	安福久	24	R3.1.2	16178-32923
31	81	去勢	広島	JA広島中央	広島県立 西条農業高等学校	広島県東広島市	広島県	福之姫	田安照	安茂勝	22	R3.2.22	16178-32947
32	82	雌	山口	JA山口県	山口県立 大津緑洋高等学校	山口県長門市	山口県	隆之国	東平福	平茂勝	32	R2.5.5	16127-09077
33	83	去勢	宮崎	JA宮崎経済連	宮崎県立 高鍋農業高等学校	宮崎県児湯郡	宮崎県	耕富士	美穂国	福之国	30	R2.7.2	15879-57114
34	84	去勢	宮崎	JA宮崎経済連	宮崎県立 高鍋農業高等学校	宮崎県児湯郡	宮崎県	旭幸福	安重守	忠富士	29	R2.7.20	15879-57138
35	491	去勢	鹿児島	JAさつま日置	鹿児島県立 市来農芸高等学校	鹿児島県 いちき串木野市	鹿児島県	金吉幸	安福久	百合茂	29	R2.7.27	15429-13605
36	86	去勢	鹿児島	JAさつま日置	鹿児島県立 市来農芸高等学校	鹿児島県 いちき串木野市	鹿児島県	土瀬波	美国桜	忠茂勝	30	R2.6.27	15429-13582
37	87	雌	鹿児島	JA鹿児島いづみ	鹿児島県立 鶴翔高等学校	鹿児島県阿久根市	鹿児島県	安亀忠	諒太郎	美津福	31	R2.6.3	13680-77253
38	88	雌	鹿児島	JA鹿児島いづみ	鹿児島県立 鶴翔高等学校	鹿児島県阿久根市	鹿児島県	若百合	美国桜	華春福	31	R2.6.13	13680-79370
39	89	去勢	鹿児島	JA鹿児島きもつき	鹿児島県立 鹿屋農業高等学校	鹿児島県鹿屋市	鹿児島県	喜亀忠	金幸福	安福久	30	R2.7.13	13663-66748
40	90	去勢	鹿児島	JA鹿児島きもつき	鹿児島県立 鹿屋農業高等学校	鹿児島県鹿屋市	鹿児島県	若百合	華春福	安福久	29	R2.8.16	15895-35815
41	492	去勢	鹿児島	JAそお鹿児島	鹿児島県立 曾於高等学校	鹿児島県曾於市	鹿児島県	秀幸福	華春福	平茂勝	31	R2.6.17	16215-19056
42	92	去勢	鹿児島	JAそお鹿児島	鹿児島県立 曾於高等学校	鹿児島県曾於市	鹿児島県	華春福	安福久	金幸	29	R2.7.31	16215-19063
43	93	去勢	岩手	JA岩手ふるさと	岩手県立 水沢農業高等学校	岩手県奥州市	岩手県	安亀忠	光平照	福之国	31	R2.6.4	15843-82056
44	94	雌	福島	JA会津よつば	福島県立 会津農林高等学校	福島県河沼郡	福島県	福之姫	幸紀雄	安福久	30	R2.6.24	15098-96170
45	95	雌	福島	JA会津よつば	福島県立 会津農林高等学校	福島県河沼郡	福島県	美国桜	勝忠平	平茂勝	30	R2.6.29	14129-51911
46	96	去勢	栃木	JAしおのや	栃木県立 宇都宮白楊高等学校	栃木県宇都宮市	栃木県	礼美茂	幸紀雄	平茂晴	31	R2.5.31	15819-28172
47	97	雌	栃木	JAしおのや	栃木県立 宇都宮白楊高等学校	栃木県鹿沼市	栃木県	礼美茂	安福久	勝忠平	29	R2.7.26	15819-28189
48	98	雌	栃木	JAはが野	栃木県立 真岡北陵高等学校	栃木県真岡市	栃木県	福之姫	福華1	北国7の8	29	R2.8.5	15857-89137
49	99	去勢	栃木	JAはが野	栃木県立 真岡北陵高等学校	栃木県真岡市	栃木県	幸紀雄	美国桜	百合茂	29	R2.8.17	14121-28627
51	101	去勢	佐賀	JAからつ	佐賀県立 唐津南高等学校	佐賀県唐津市	佐賀県	美国桜	安福久	平茂勝	33	R2.4.4	16140-03494
52	102	去勢	長崎	JAながさき県央	長崎県立 諫早農業高等学校	長崎県諫早市	長崎県	百合幸	安平栄	平茂晴	33	R2.4.14	14227-95222
53	103	去勢	熊本	JAくま	熊本県立 南稜高等学校	熊本県球磨郡	熊本県	福之姫	喜亀忠	華春福	29	R2.7.30	15641-59999
54	104	去勢	熊本	JAくま	熊本県立 南稜高等学校	熊本県球磨郡	熊本県	安亀忠	安福久	華春福	28	R2.8.20	13909-60042
55	105	去勢	宮崎	JA宮崎経済連	宮崎県立 都城農業高等学校	宮崎県都城市	宮崎県	白隆鶴	美穂国	福之国	31	R2.6.5	16192-12099
56	106	去勢	鹿児島	JAみなみさつま	鹿児島県立 加世田常潤高等学校	鹿児島県南さつま市	鹿児島県	秀幸福	美国桜	勝忠平	31	R2.5.31	13713-61226





和牛甲子園

選手宣誓／審査委員一覧

選手宣誓



富山県立 中央農業高等学校（開会式）



愛知県立 渥美農業高等学校（枝肉共励会）

審査委員

	所属	役職	審査委員名
総合審査委員長	全国農業協同組合連合会	畜産総合対策部長	高橋 龍彦
審査委員長 （取組評価）	東京農業大学	農学部 教授	多田 耕太郎
審査委員 （取組・枝肉評価）	独立行政法人 家畜改良センター	鳥取牧場 場長	河村 正
審査委員 （取組評価）	公益社団法人 全国食肉学校	専務理事 学校長	小原 和仁
審査委員 （取組評価）	東京都立農産高等学校	校長	江森 忍
審査委員 （取組評価）	東京都立瑞穂農芸高等学校	農場主任 主任教諭	伊勢 博祥
審査委員 （取組評価）	全国農業協同組合連合会	参事	落合 成年
審査委員長 （枝肉評価）	公益社団法人 日本食肉格付協会	専務理事	芳野 陽一郎
審査委員 （枝肉評価）	帯広畜産大学	畜産学部 教授	口田 圭吾
審査委員 （枝肉評価）	東京食肉市場株式会社	専務取締役	倉林 康樹
審査委員 （枝肉評価）	東京食肉市場株式会社	常務取締役	大塚 勇
審査委員 （枝肉評価）	JA全農ミートフーズ株式会社	牛肉事業統括本部 副本部長	前田 信吾



和牛甲子園

祝辞紹介（開会式）



本日は、誠におめでとうございます。また、お招きをいただき、ありがとうございました。

コロナ禍によって、各学校では大変な状況であるにも関わらず、今回は過去最多の申し込みがあったと伺っております。全国の農業高校生が、日々熱心に和牛について学び、技術の習得と向上に取り組んでいることを大変嬉しく、ま

た、頼もしく感じます。

生徒の皆さんは、日頃、仲間とともに大切に牛を育てる中で、飼育技術にとどまらず、優しさ、たくましさ、あるいは、「我々はいのちをいただいて生かされている」といったことなど、たくさんの大切なことを学んでおられることと思います。

その成果を遺憾なく発揮され、全国の高校牛児が心をつなぎ、日本が世界に誇る和牛の未来をたくましく作っていただきたい、そんなふうに、思っているところです。

本大会のために大変なご尽力をいただいております関係の皆様、日頃より熱心に指導に当たられている先生方に心より敬意を表するとともに、生徒の皆さんにとって、実り多い大会となることを期待し、祝辞とさせていただきます。

令和5年1月19日

文部科学省 初等中等教育局 参事官（高等学校担当）付
産業教育振興室 教科調査官
国立教育政策研究所 教育課程研究センター
研究開発部 教育課程調査官

遠藤 友治



和牛甲子園

祝辞紹介（開会式）



皆さまこんにちは。御紹介いただきました、全国農業高等学校長協会理事長を務めております、東京都立園芸高等学校校長の並川でございます。

全国農業高等学校長協会と日本学校農業クラブ連盟を代表して、一言御挨拶を申し上げます。

私は12時前に品川駅に到着しましたところ、キャリーバッグをもって会場に向かうであろう高校生を多数見つけました。直感的に高校牛児の皆さんだなどの思いをもちながら会場でお会いできることを楽しみにしてこちらに参りました。

日頃から和牛の肥育をはじめとしてさまざまに農業に関する学習に熱心に取り組んでおられると思っております。

農業に関する学習はとても幅広く、総合科学とも言われますが、ただ単に1つの知識や技術ではなく、さまざまな知識や技術を応用しながら学んでいることかと思えます。

先ほど主催者の御挨拶にもありましたが、昨年鹿児島全共の会場に4日間滞在いたしまして、鹿児島大会から新設された特別区「高校及び農業大学校」を中心に拝見し、実況中継などもさせていただきました。また、牛舎も連日回って生徒さんたちの様子を拝見しました。

やはり感じた事は、ただ単に和牛の肥育ということだけではなく、そこに至るさまざまな過程があることがよくわかりました。チームとして協働していく、あるいは地域の応援なしに成しえないということもたくさん感じました。また、県内外の農家さんとの交流を見て、力強く思ったところです。

日ごろ学んでいる事の最大のアウトプットの機会として本大会が開催されております。これまでの成果を存分に発揮していただくとともに、新しい気づきや発見も見出していただき、新たな学習のモチベーションとスパイラルにつなげてください。

本大会の体験発表の題目を見ますと、時代を映す鏡とも言えます。社会課題の解決という面では、アニマルウェルフェアや持続可能性、SDGsがキーワードになります。また、地域課題の解決という面では地域の特産品開発であったり、地域の課題を地域とともに解決しようとする姿がみられます。農業系高校の強みが発揮されていると思えます。

農業校長会としては、畜産・動物、あるいは和牛肥育に関わる高校生を応援しています。未来の担い手として皆さん自身の経験を深めていただくとともに、本大会には全ての仲間が参加できているわけではないと思えます。学校に戻ったらぜひこの2日間の体験を横展開していただき、一層畜産業界を盛り立てていただくことを期待しています。

結びに、本大会の開催にあたり、主催者でありますJA全農様をはじめ関係の皆さまにこの機会をいただきましたことを心より感謝を申し上げます。ありがとうございます。

それでは2日間、大いに活躍されることを期待しています。

令和5年1月19日

全国農業高等学校長協会 理事長

並川 直人





和牛甲子園

褒賞式あいさつ



褒賞式にあたり、ひとことごあいさつを申し上げます。

高校牛児のみなさま、2日間にわたっての熱い戦い、大変お疲れさまでした。また、指導にあられた先生方には、大会の運営に何かとご協力いただきありがとうございました。

昨日の体験発表では、みなさまの牛の飼育に懸ける熱い思いに圧倒され、また本日の枝肉審査では、プロの農家顔負けの高い技術レベルに大変驚かされました。

さて、わが国の畜産を取り巻く環境は、今、急激に変化しています。ウクライナ危機や為替の急変動などを背景にした、配合飼料をはじめとする生産資材価格の上昇、鳥インフルエンザや豚熱など、経営を危うくする重要家畜疾病の続発、さらには地球温暖化やアニマルウェルフェアといった社会的課題への対応など、畜産経営は日を追うごとに厳しさを増しております。

こうしたなかで、この和牛甲子園において若いみなさまの熱意を肌で感じたことで、わが国の畜産を、みなさまのためにも、この先数十年にわたって持続可能なものにしなければいけない、全力を挙げてサポートしていかなければいけない、そのようにあらためて心に誓ったところです。

これから褒賞式に移りますが、結果に手応えを感じている方がおられる一方で、もう少しやれたのではないかと思う方もおられるかもしれません。この2日間の思いはそれぞれだと思いますが、結果のみにとらわれることなく、全国の仲間たちとのつながりを大切にしながら、これからも切磋琢磨していただければと思います。そして、この大会をみなさまの高校生活の思い出の1ページとしていただければ、主催者としてこれほど嬉しいことはありません。

むすびに、本大会の開催にご尽力いただいた関係者のみなさまに心より感謝申しあげ、ごあいさついたします。

ありがとうございました。

令和5年1月20日

全国農業協同組合連合会 常務理事

齊藤 良樹



和牛甲子園

祝辞紹介（褒賞式）



今年度も、我が国における畜産業の将来を担う「高校牛児」の皆様が集い、「第6回和牛甲子園」が無事開催され、本日、成功裡に終えられたことに対し、心よりお慶び申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、感染防止対策を徹底しながら、この「和牛甲子園」という企画の実行にご尽力されました、全国農業協同組合連合会を始め、関係者の

皆様方に対しまして、心から敬意を表します。

さて、高校牛児の皆様、第6回和牛甲子園への御出場、誠におめでとうございます。今回、それぞれの目標を達成できた皆様も、惜しくも一步及ばなかった皆様も、新たな次の目標に向かって、引き続き、頑張ってくださいと思います。

大会での成績にはそれぞれに思いがあると思いますが、本大会への参加を通じ、和牛の肥育技術に関する知識や技術、肉質の評価方法等を学ぶとともに、これまでの和牛生産に関わる体験を、このような晴れの舞台上で発表することにより、さらに自信を深めることができたものと思います。

さらに、同じ志を持つ全国の高校牛児との交流を深められ、和牛に対する思いを分かち合う等、高校生活のすばらしい思い出の1つになったのではないのでしょうか。

皆様もご存じの通り、今や和牛は、日本の伝統的な食文化を代表する食材として、国内だけではなく、海外からも高く評価されており、我が国の農林水産物の輸出の主翼を担う重要品目となっています。農林水産省としても、国内外の旺盛な和牛肉の需要に着実に応えていくため、和牛の生産基盤の一層の強化と、輸出の拡大に積極的に取り組んでいるところです。

本日ここに集われた高校牛児の皆様には、高校を卒業された後も、この和牛甲子園の出場で培った知識や経験、仲間との繋がり等を活かし、是非、地域の畜産業の発展、そして、我が国の畜産業全体の発展にご尽力いただきたいと、心から期待しております。

そのためにも、皆様のような若い方々が、今後、新たに畜産業を始めたい、安全でおいしい国産牛肉の生産に貢献したいといった思いで進路を選択する場合には、未来に希望をもって畜産業に携わっていただけるよう、私たち政府としても、様々な形で皆様を応援していきたいと考えています。

最後に、「和牛甲子園」の開催が今後も回を重ね、高校牛児の皆様の学びや感動を分かち合う場として、さらに発展・成熟していきますことを心より祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

令和5年1月20日

農林水産省 畜産局長

渡邊 洋一





和牛甲子園

祝辞紹介（褒賞式）



高校牛児の皆様、こんにちは!ただ今ご紹介に預かりました農畜産業振興機構の庄司です。

受賞された高校の皆様、おめでとうございます。また、惜しくも受賞を逃された高校の皆様も、本当に素晴らしい成果を出されたと思います。

私ども農畜産業振興機構（alic(エーリック)）は、国の政策に基づき、肉用子牛生産者補給金制度や牛マルキンなど生産者の経営安定を図るための業務、台風などの自然災害や家畜疾病発生時の緊急対策などを行う団体です。皆様の取組みを応援するため、この和牛甲子園において理事長賞を贈らせていただいております。参加校は第1回の8県15校から、第6回となる今回は23道府県40校と着実に増加し、皆様の先輩方は既に全国の畜産の現場で活躍されているとも伺っております。本大会に向けた皆様のご努力が着実に実を結んでいるものと思います。

和牛の生産は、肥育期間が長く、日々の細やかな飼養管理技術も必要となり、とても難しいものです。共励会の結果は、5等級4等級に格付けされた高い評価のものが多く、その技術の高さに感心しています。

また、その取組みは体験発表会で報告されていますが、国際的な飼料価格高騰に対するコスト削減の取組、ブランディング等による販売促進、地域資源を活かした持続可能な肉牛生産への挑戦といった、和牛肥育および畜産の喫緊の諸課題の解決に向けて、真摯に取り組んでいる姿に心底感銘を受けました。

和牛は世界に誇る日本の宝です。世界中から高い評価を受け、輸出も今後益々増えていくことでしょう。この宝を次世代に継承していくため、また、高校牛児の皆様が将来の畜産現場で夢と希望をもって安心して働けるよう、私どもは、今後も様々な形で現場を支援していきたいと思っています。

皆様も、このような熱意あふれる素晴らしい取組みを是非続けていっていただきたいと思います。それが、畜産農家や関係者の皆様の力と希望になり、畜産の現場の活性化につながるでしょう。

改めて、本日は、本当におめでとうございます。高校牛児の皆様と大会関係者の皆様のご努力に心から敬意を表します。

来年もまた和牛甲子園で、皆様のご活躍ぶりに触れることを楽しみにしています。そして、将来、畜産現場で働く皆様に、再び、お会いできることを祈念して、私の挨拶とさせていただきます。

令和5年1月20日

独立行政法人農畜産業振興機構 副理事長

庄司 卓也



和牛甲子園

祝辞紹介（褒賞式）



第6回和牛甲子園の開催に当たり、心よりお慶び申し上げます。

リモート参加の方もいますが、まずは、3年ぶりに高校牛児の皆さんが一堂に会すことができたことを喜ばしく思います。

第1回から、私たち東京都中央卸売市場食肉市場もこの大会を応援していますが、今回の出場校は40校にもなり、

初回の15校から倍以上の学校が参加する大会に成長しました。

今後も更に大会が発展し、より多くの和牛飼育実習を行う農業高校生がここ芝浦を目指して、切磋琢磨してくれることを思うと胸が躍ります。

1日目の体験発表会で披露された皆さんの取組を、私もウェブで拝見させていただきました。出品された和牛、一頭一頭に対して皆さんが工夫し、手塩にかけて育て上げてきたことが、いずれの発表からもよく伝わりました。

受賞された皆さんも、そうではなかった方も、牛を育てる中で目指していた目標は達成できたでしょうか？

実習の中で、皆さんは、様々な研究と実践をしていました。

肥育技術の向上に加えて、飼料の高騰に対応するために行った「低コスト飼料」の開発や、今後求められる持続可能な経営への挑戦など、様々な取り組みがありましたが、まずはやってみようという姿勢が素晴らしいと感じ入りました。

また、地域の方々から学び、協力を仰ぎながら進めた取り組みもありました。

今回、支えてもらった部分もあったかと思いますが、これから皆さんが社会に出ていけば、支える側に回ることもあると思います。地域や関係する方々と、共に知恵を出して課題に取り組むことは、この先もとても大切なことと思います。

この経験を是非、将来への糧として大切にしていきたいと思います。

少しだけ、ここ芝浦の東京食肉市場についてお話をさせていただきます。

この市場は、全国で最も多くの和牛が上場される基幹市場です。

また、銀座をはじめ首都圏に、最高の食肉を届けるという役割も担っています。

このため、全国から選りすぐりの和牛が当市場に集まってきます。

皆さんが将来、畜産関係の仕事に就職された際は、是非この芝浦に最高の和牛を出荷していただきたいと思います。私どもも準備を整えてお待ちしております。

最後になりますが、次代を担う生徒の皆さんをはじめ、ご指導に当たられた先生方、そして和牛甲子園の開催に当たりご尽力された関係者の皆様の今後のご活躍とご健勝を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

本日は、おめでとうございます。

令和5年1月20日

東京都中央卸売市場食肉市場 場長

船木 克彦





和牛甲子園

大会結果

【総合評価部門】

褒賞	学校名
最優秀賞	岐阜県立 大垣養老高等学校

【取組評価部門】

褒賞	学校名
最優秀賞	鹿児島県立 市来農芸高等学校
優秀賞	北海道 倶知安農業高等学校
	広島県立 西条農業高等学校
優良賞	栃木県立 栃木農業高等学校
	神奈川県立 中央農業高等学校
	京都府立 農芸高等学校
審査委員特別賞	鹿児島県立 鹿屋農業高等学校
高校牛児特別賞	愛知県立 渥美農業高等学校

【枝肉評価部門】

褒賞	学校名
最優秀賞	栃木県立 矢板高等学校 (出品番号13)
優秀賞	岐阜県立 大垣養老高等学校 (出品番号19)
	鹿児島県立 加世田常潤高等学校 (出品番号56)
優良賞	福島県立 磐城農業高等学校 (出品番号7)
	岐阜県立 飛騨高山高等学校 (出品番号22)
	島根県立 出雲農林高等学校 (出品番号29)
審査委員特別賞	愛知県立 渥美農業高等学校 (出品番号24)

※優秀賞、優良賞に序列はなく、それぞれ体験発表順、出品番号順に記載

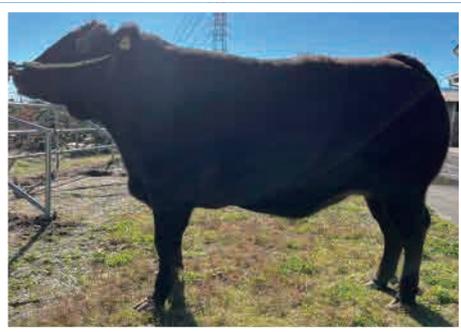


和牛甲子園

総合評価部門 最優秀賞
枝肉評価部門 優秀賞

岐阜県立 大垣養老高等学校

モウ神様にはたよらない
～自分たちの力を信じて「ひまり」と「優李」でNo.1



出品番号：NO.19 BMS：12
等級：A5 性別：去勢
枝肉重量：582kg



和牛甲子園

総合評価部門 最優秀賞 枝肉評価部門 優秀賞

岐阜県立 大垣養老高等学校

体験発表内容 「岐阜県の優良雌牛の系統で最優秀賞を

～岐阜県立大垣養老高等学校5年間の集大成!!～

岐阜県の優良雌牛の系統で最優秀賞
～岐阜県立大垣養老高等学校5年計画の集大成!!～

岐阜県立大垣養老高校
発表者 動物科学科 養牛専攻(肥育班)
3年 栗田 煌斗、川島 月子

岐阜県は「鹿児島全共 特別区(高校・農大の部)」
「ともみ系」で出品を決めた。

令和4年8月撮影
本校管理牛

「今年度の出荷予定牛」と「予想された課題(リスク)」

「優幸」号

父:花清光 母:やよい
2代祖:花権裕
3代祖:白清85の3

「ひまり」号

父:福平國 母:あかり
2代祖:白清85の3
3代祖:光平福

「なぎさ系」肥育牛2頭

肥育後期の体重増加の停滞

「うみ」号と目標値の体重の推移

飼料摂取量に波があった
肝機能障害への対策

ウソゾー給与
18ヶ月、21ヶ月、24ヶ月、27ヶ月

GOT(肝機能)の推移

正常範囲 68~89 IU/dL
(基準値未満データあり)

採血の様子

肝機能を維持しつつ、肥育管理を継続できた。

尿石症の対策

項目	優幸	ひまり
年齢	19.9	22.5
ロース芯直径(cm)	55	70
骨格幅厚(cm)	2.6	3.1
皮下脂肪厚(cm)	1.9-1.4	2.1-1.3
ハラ厚(cm)	8.0	8.2
膀胱脂肪厚(cm)	7.1	7.3
BMSNo.	8	10

エコー検査
「知多大動物病院」

2年間の視察・交流

本市 3件
岐阜市 1件
岐阜県 1件
岐阜市 1件

鹿児島全共研修会等
での情報交換

鹿児島全共 特別区集畜 (関子牛市場) 令和4年5月
鹿児島全共 研修会 (取組発表の家演) 令和4年5月
鹿児島全共 集畜訓練 (高山子牛市場) 令和4年8月
鹿児島全共 集畜訓練 (高山子牛市場) 令和4年8月

校外の視察の様子

農家視察を含め、学んだこと
添加剤、角カパー、JGAP等

角カパー装着

アニマルウェルフェア
～JGAP 管理点7.1～

作業者の労働安全
～JGAP 管理点16.1～

角カパー装着

人も牛も安全に

食品安全上及び家畜衛生上の危害要因の評価
～JGAP 管理点6.2～

臭いものを食べさせたい!!

糞物・カビの確認

計画・実績の比較
～JGAP 管理点3.4～

飼料生産・管理の責任者
～JGAP 管理点13.3～

筋肉の厚みが違う!!

雌牛の高タンパク飼料給与プログラム
8ヶ月～18ヶ月齢 1.0～1.4kg/日
26ヶ月～28ヶ月齢 1.2kg/日

「ひまり」号

飼料生産・管理の責任者
～JGAP 管理点13.3～

人材育成
～JGAP 管理点13.11～

1日200g(1回100g)増やして失敗すること...

TDN 78%以上

「脂肪の質」向上のために

アニマルウェルフェア
～JGAP 管理点7.1～

朝 昼 夕

水温40度以上

1日3回以上

ウォーターカップの水交換

岐阜県の風土に「飛騨牛」を

目標
父系「なぎさ系」
母系「ともみ系」

岐阜県立大垣養老高等学校



和牛甲子園

取組評価部門 最優秀賞 鹿児島県立 市来農芸高等学校

牛と共に夢を追い、牛と共に夢叶える。
夢を叶えるために青春を捧げる我ら畜産部。



体験発表内容 「次代の和牛づくりへの挑戦」

次代の和牛づくりへの挑戦



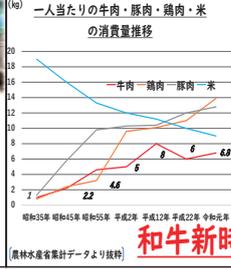
鹿児島県立市来農芸高等学校 畜産部

<はじめに>

私たちの思い

- ☆和牛発展に貢献したい
- ☆牛のストレス軽減に努めたい
- ☆健康な牛に育てたい

<はじめに>



昭和 牛肉消費量 1kg/年間
平成 外食・中食の増加 8kg/年間↑
令和 消費者の幅広 6.8kg/年間↓

少子高齢化で牛肉づくりが必要

和牛新時代の幕開け!!

<これまでの取り組み>

アニマルウェルフェアを意識し、健康な優良生をつくる

<過去 和牛甲子園 発表内容>

第2回	臭気調査と地域連携
第3回	牛と人の生活環境の研究
第4回	尿石症コントロールの実験(健康牛づくり)高オレイン酸含有を目指す
第5回	ワクチン接種による効果の実験 麹による健康牛づくり 実験開始

<今大会の挑戦(挑戦1~3)>

挑戦1 美味しい赤身づくり
肉質の改良

挑戦2 光合成細菌の活用
持続可能な畜産業

挑戦3 麹の給与(継続実験)
健康牛づくり

次世代の和牛づくりへの挑戦

<挑戦1 美味しい赤身づくり>

従来 美味しい肉の条件

- ・BMS評価が高く サシは、くちどけに関わる
- ・オレイン酸含有量も高いもの 脂質をはかる目安

しかし...



和牛甲子園

取組評価部門 最優秀賞 鹿児島県立 市来農芸高等学校

<挑戦1 美味しい赤身づくり>

美味しい肉

高い脂肪交雑
オレイン酸(脂質)
アミノ酸(赤身)

良質な脂肪
オレイン酸含有量を高める

赤身の旨味
アミノ酸含有量を高める

調和

＜おから＞
・代謝障害を予防
・アミノ酸UP

＜きな粉＞
・細胞の活性化
・オレイン酸UP

総給餌量 1~1.5kg
(総飼料量の約5%)

※やりすぎはよくない

<挑戦1 美味しい赤身づくり>

本校の **きな粉**、**トウモロコシ**
給餌による **オレイン酸含有量・BMS評価**の変化

項目	給餌前2年	給餌後2年
出荷頭数	14頭	37頭
オレイン酸含有量	54.5	54.2
BMS 45	71.4%	83.2%
BMS 48	28.5%	16.7%

UP!!

「令和4年12月現在」

<挑戦1 美味しい赤身づくり> 結果 未利用資源活用

くきな粉
タンパク質：細胞のもととなる栄養豊富
イソフラボン：細胞の活性化に働く

＜おから＞
食物繊維：良質な食物繊維が代謝障害の予防に働く

廃棄産物の **おから**

細胞・代謝の活性化で極上の赤身になるのでは…

食い込みも良好

<挑戦1 美味しい赤身づくり> 結果 肉質改善傾向 未利用資源活用

赤身1 おから給餌1か月 (千代号 A5-10 内臓廃棄なし)

赤身2 おから給餌4か月 (彦蔵号 A5-12 内臓廃棄なし)

赤身3 おから給餌6か月 (種太号 A4-7 内臓廃棄なし)

苦味雑味
旨味
旨味コク
塩味

①口に含んだ旨味と塩味は差がない。
②甘味と旨味コクの伸びが確認できた。

鹿児島県経済産 食品総合研究所に検査依頼
検査日令和4年10月

<挑戦1 美味しい赤身づくり> 結果 肉質改善傾向 未利用資源活用

おから給餌による **アミノ酸組成の旨味変化**

肉の旨味の指標
・アスパラギン酸
・グルタミン酸
・イノシン酸

旨味 UP!!

アスパラギン酸
グルタミン酸
イノシン酸
= 熟成後の旨味

鹿児島県経済産 食品総合研究所に検査依頼
検査日令和4年10月

<挑戦2 光合成細菌の活用>

持続可能な開発 (SDGs)
私たちのできること…

産業と技術革新の基盤をつくる
住み続けられる町づくり
つくる責任・使う責任
陸の豊かさを守ろう

光合成細菌の効果を確認してみよう!

光合成細菌って何?
(安心して活用できる有用細菌)

①糸状菌の繁殖を抑制する。
＜フカフカな床でストレス解消＞
＜皮膚病予防に効果あり＞

②免疫力UP、ワクチン効果がある。
＜健康な身体づくり＞

<挑戦2 光合成細菌の活用>

肥育舎 19 区画

50

深さ0.25m
幅2m
長さ5m

菌を試験区A・Bに散布

搬運

肥育舎床に光合成細菌
2回/月 散布・耕運

<挑戦2 光合成細菌の活用> 結果 経費削減 より良い循環

放線菌促進による成果
(1)床交換費用削減
(2)床交換作業軽減 (3回/年→1回/年)
(3)牛のストレス軽減

＜床替えにかかるおがくず代概算＞

部屋数	床替え	金額
19部屋	1回おがくず代	182,875円
	2回おがくず代	365,750円
	3回おがくず代	548,625円

＜一部屋当たりおがくず床立米概算＞
0.25(m)×2(m)×5(m) 2.5 (立米)
1部屋あたり9,625円

＜購入おがくず・代金＞
数量 16 (立米)
金額 61,600 (円)

床替え 3回→1回
365,750円 削減!!

<挑戦2 光合成細菌の活用> 結果 経費削減 より良い循環

(1)床替えの回数down ↓ (2)敷床で堆肥生産可!!

光合成細菌散布温度比較

散布区 温度差14.13℃

光合成細菌散布による堆肥成分比較

窒素 リン カリ

鹿児島環境測定分析センター検査依頼 検査日令和4年10月

<挑戦3 麴の給餌>…昨年より継続突破

肝機能の低下は、脂肪交雑や肉ジマリに影響し、枝肉成績に関わるんですよ。
(食肉センターの方より)

健康な牛づくりをしたい!

免疫力の向上、細胞活性化、
内臓環境改善のため麴を給餌

目標の目安は **内臓廃棄をゼロ!**

(前回大会は、結果報告まで至らず…)

<挑戦3 麴の給餌>…昨年より継続突破 結果 健康牛づくりに前進

麴の給餌による **内臓廃棄率比較**

37.50% (6/16頭) → 9.52% (2/21頭)

27.98% 大幅減!!

「令和4年12月現在」

<挑戦1・2・3の結果> 肉質改良成功・SDGsによる循環 健康牛に前進

候補牛一日増体重

鹿児島県の目標 0.9

せいな 0.01

六兵衛 0.94

祐介 0.94

桃季 1.03

全頭、**県の目標増体重を越え!**

「令和4年11月現在」

<出品牛への期待>

生命力 強健力を補うために
交配(他系との掛け合わせ)を行う

出生で 骨をつくる
哺乳で 骨をつくる
育成で 筋肉をつくる
肥育で 脂肪をつくる

誕生 育成 出荷

誕生・育成・出荷を行い
畜産経営を学ぶ
一貫経営

<出品牛への期待> 「三大血統」のすそが和牛の魅力

今回の私たちの作品です!
落ち着いた性格 <裕介>
(現3年生、森川裕介が1年生の時、名前を付けた)

自己主張する活発な性格 <桃李>

「三大血統」のすそが和牛の魅力

金吾卓(栄光系)×安福久(但馬系)×百合茂(筑高系)系種雄牛

土淵波(但馬系)×美園桜(系種系)×忠茂勝(栄光系)系種雄牛

<和牛新時代の後継者として>

牛と共に夢叶えるために挑戦し続けます!



和牛甲子園

取組評価部門 優秀賞 北海道 倶知安農業高等学校

町づくりは私達の手から！ 牛歩のようにゆっくりと、地域と共に進めた”私たちの歩み”



体験発表内容 「ようてい和牛プロジェクト～地域と歩む、後世に残り続ける畜産業～」

地域と歩む、
後世に残り続ける畜産業

全道肉用牛共進会 出場

ジェネティクス北海道和牛共励会
後代検定の部 優秀賞

大量に廃棄される
ジャガイモデンプン粕

青木農場 代表への取材

副産物であるデンプン粕が
年間456tも大量廃棄...

ようてい和牛プロジェクトの概要

～ようてい和牛を軸とした地域貢献ビジョン～

知作農家 畜産農家 消費者

資源循環 飼料費削減 地域活性化雇用創出

実践1 「乳酸菌添加」が繁殖に及ぼす影響

～バレイショデンプン粕とフスマの混合サイレージの繁殖品質と栄養価（東京農業大学・ユース株式会社）～

	牧草	デンプン粕
空気	繊維状	泥状
形状	繊維状	ペースト状
結込密度	低 (空隙が多い)	高 (空隙が少ない)

結込密度が高く
嫌気状態が保たれたためか

実践2 「給与試験」で飼料価値を算る

慣行区	試験区
<p><参考資料></p> <ul style="list-style-type: none"> 家畜改良増殖目標（農林水産省） 飼養マニュアル（酪農畜産協会） 	<p>開始時月齢：12ヶ月齢 父：第一花藤 × 母：あさひ42</p>
<p>配合飼料</p> <p>制限給餌</p>	<p>配合飼料</p> <p>デンプン粕S</p> <p>制限給餌</p>
<p>不割</p>	<p>不割</p>

飼育・飼料への“こだわり”

生まれも育ちも 倶知安農高産

- 自家産牛
- 種雄牛
- 第1花藤
- 山みえ
- 空乃大橋
- あさひ42
- あさひ29

外部評価 【公的機関】からの評価

第4回 飼料用米活用推進型フロント
日本ーコンテスト

飼料自給率向上を評価され
審査員特別賞 受賞！

管理点21.5 エコファードの使用【必須】 CLEAR

「食品残さ等利用飼料の安全確保のためのガイドライン」を遵守している。

持続可能な農業経営に向け、
JGAP認証 初取得！

ようてい和牛プロジェクト

地域と歩む、後世に残り続ける畜産業

- 2年 山内彩花 南川幸純 内田輝斗
- 3年 南谷俊介 横山颯大 降谷裕一郎 野澤輝仁



和牛甲子園

取組評価部門 優秀賞 広島県立 西条農業高等学校

美味しいお肉のヒミツのレシピ



体験発表内容 「短期肥育の鍵はペレット!？」



取組の背景
 MUFA値の改善を目指して・・・
 → オレイン酸豊富な赤ぬかの給与開始!

第5回和牛甲子園の成果

月齢	27ヶ月
出荷体重	738kg
枝肉重量	457kg
歩留等級	A
肉質等級	4
BMS	6
MUFA	62.3

赤ぬか給与による
MUFA値向上に成功!

2 赤ぬかの給与割合の見直しと給与開始のタイミングを検討

新樹

種牛 立烏帽子の産肉成績 (平均)			
出荷月齢	BMS	MUFA	予測値
23.5	6.3	53.2	

新樹の成績と比較
 → 赤ぬかの効果を検証

【新樹の赤ぬか給与量】
 これまでの採食量のデータから算出 → 朝 300g/日

まとめ

1 **市場調査による消費者ニーズの把握**

消費者が購入時に肉に求めるもの
 → 脂肪の量が適度で、色がきれいな和牛肉

見た目の好み (BMS)
 → BMS 7~8

まとめ

3 保存性・利便性向上を目指したペレット化

保存性の向上
 → 表面積が減ることで酸化を防ぐことができた

利便性の向上
 → 嗜好性を向上させ増減が簡単にできるようになった





和牛甲子園

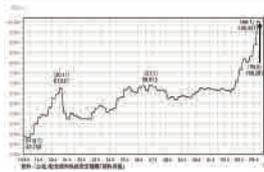
取組評価部門 優良賞 栃木県立 栃木農業高等学校

鹿児島全共のリベンジだ!!



体験発表内容 「持続可能な和牛生産を目指して」

はじめに



飼料価格の高騰

ウクライナ情勢による物資不足
円安の進行
→ 畜産農家の経営はひっ迫

畜産農家を維持し、日本の食料生産を守る！
持続可能な和牛経営を目指して

栃木県立栃木農業高校



1. 飼料自給率向上の取り組み



2. 畜産物の理解醸成に関する取り組み



小学生との交流授業

「持続可能な和牛生産」には
人々の**理解が不可欠**

- ・価格転嫁を容認してもらえるか
- ・担い手を確保できるか

食育の重要性

2. 畜産物の理解醸成に関する取り組み

R4年度「栃農給食DAY」は、本校産の和牛を使用



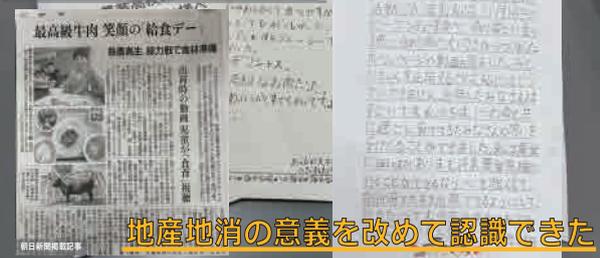
生産状況を発信
食材への理解促進

掲示用ポスター作製

給食だよりへの掲載

2. 畜産物の理解醸成に関する取り組み

学校HPを小学校の授業で活用
小学生からのお手紙



地産地消の意義を改めて認識できた



これからの畜産を担うのは私たち
ともに頑張っていきましょう!



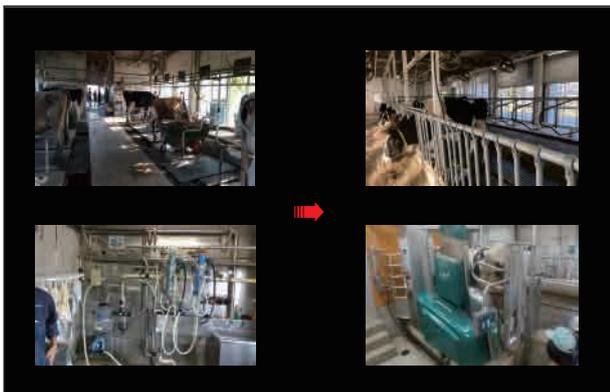
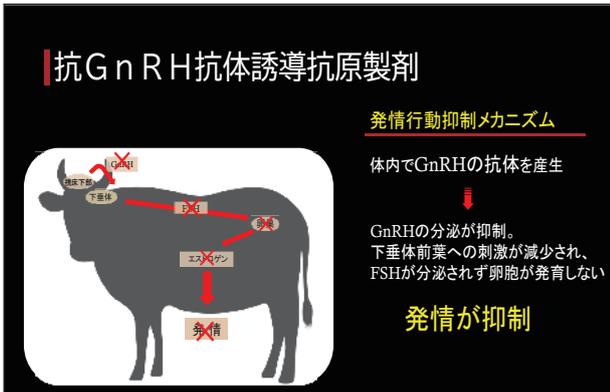
和牛甲子園

取組評価部門 優良賞 神奈川県立 中央農業高等学校

わー!!牛がいっぱい!! -WAGYU- ~私たちの夢と希望を乗せて~



体験発表内容 「家畜と環境に配慮した飼養管理～発情抑制による肥育成績向上に向けて～」





和牛甲子園

取組評価部門 優良賞 京都府立 農芸高等学校

挑戦と達成!新しい歴史を刻む 目指せNEXT Stage!!



体験発表内容 「和牛でつなく地域の輪 ～チーム京都の挑戦～」





和牛甲子園

審査委員特別賞 鹿児島県立 鹿屋農業高等学校

和牛肥育への情熱100%!!受け継がれる技で育てた愛情満載「鹿児島黒牛」を全国へ



体験発表内容 「和牛新時代!和牛の魅力をさらなる高みへ～地域の力 高っけーコストを竹で解決～」



和牛新時代!

和牛の魅力をさらなる高みへ ～地域の力 高っけーコストを竹で解決～

鹿児島県立鹿屋農業高等学校
畜産科 肉用牛専攻班

活動内容

(1) チャレンジ①

和牛肉のうまさ と 脂肪の質向上



- ① 昔の「かごしま黒豚」は列車で東京まで生体出荷されていた
- ② そのおいしさで特に有名だった

理由



飼料に使用されていた魚粉に含まれるオメガ3脂肪酸が肉のうま味を高めていたのではないかと

新たなアイデアも!!

- ① 粗飼料としての利用
※飼料代コストダウン
- ② 乳酸菌・ビタミン剤としての添加剤
※添加剤購入費コストダウン
- ③ 敷料に散布することで雑菌の繁殖抑制, 善玉菌の活性を促す=病気の予防
※薬品代コストダウン

竹パウダー




南日本新聞の記事

3 出品牛について



【稜真号】
自家産子。第1回和牛甲子園で肉質最優秀賞になった牛の甥っ子です。よく寝ます。

若百合 — 華春福 — 安福久

【光号】
肝属家畜市場からの導入牛。本当によく寝る牛だが、餌の時は必ず起きてきます。

喜亀忠 — 金幸福 — 安福久

チャレンジ成果もしっかりと出ているこの2頭で、全国の高校牛児達に挑戦します!!

「未来の農業人育成プロジェクト」がスタート




学校産牛肉の地域子供食堂への寄付, 枝肉の見方勉強会




牛肉輸出勉強会, 枝肉共例会への出品, 枝肉評価勉強会



からは、消費者に好まれる和牛肉の「食味」という視点から、力を高める新しい時代を迎える。和牛新時代へ「気張っどー」

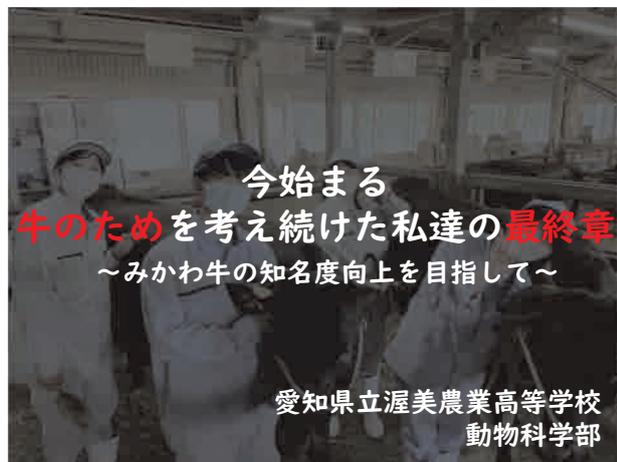


和牛甲子園

高校牛児特別賞 愛知県立 渥美農業高等学校

【参加校から寄せられた授賞理由コメント（抜粋）】

- ・十分に練られた発表内容で、耳に入りやすく、図表の使用も有効的
- ・無理のない論理展開で説得力ある発表内容
- ・聴きやすく、よくまとまった内容で、みかわ牛の魅力を伝えたいという強い意欲が伝わる
- ・知名度調査やシール・ポスターの作成など、具体性が備わった取組
- ・地元の特産物の不可食部位の活用など環境にも配慮した取組を盛り込む発表
- ・高校生らしい澁刺とした発表態度、他の発表より優れた資料の構成・編成



取組2 みかわ牛生産者訪問

いらご高木ファーム様	渡辺 義苗様
<input type="checkbox"/> 一貫経営の工夫	<input type="checkbox"/> 肥育の群編成
<input type="checkbox"/> 動物福祉への配慮	<input type="checkbox"/> 細かな健康観察

牛の見方・ステージごとの着目点を学習

取組3 全国和牛能力共進会



みかわ牛キャラクター



島根県立出雲農林高校の皆さん

出会った方にオリジナルステッカーを配布

農業高校間の交流&知名度向上に貢献

新たな取組み



乾燥



粉碎 (粉末化)




粉末化したことで長期保存が可能に！



和牛甲子園

取組評価部門 審査講評

第6回全国農業高等学校和牛枝肉共励会・和牛甲子園が、過去最多となる23道府県40校が参加し、品川グランドホールおよび東京都中央卸売市場食肉市場において、盛大に開催されましたことに対しお慶び申し上げます。

取組評価部門・体験発表について、審査委員を代表して審査結果についてご報告します。なお、審査は審査基準に則り、厳正中立かつ公平に実施しました。

体験発表の評価は、新型コロナウイルスの影響と参加校の増加から、一昨年、昨年と同様、事前提出された動画および資料を基に実施する方法となりました。生徒の皆さんは、日々の牛の管理、授業の合間を縫っての準備となり、大変だったかと思われそうですが、各校とも熱意が伝わる内容でした。

このうち、入賞を果たしたのは以下の各校です。

○最優秀賞 鹿児島県立 市来農芸高等学校

次世代の鹿児島黒牛づくりを目指し、肉質の改良、持続可能な畜産業、健康牛づくりに挑戦しました。美味しい赤身づくりに未利用資源であるオカラの給餌などが有効であること、床に光合成細菌を散布することで床交換の費用と労力が抑えられること、麴の給餌により内臓廃棄率が低減することなどを明らかにしました。その成果を聴者が理解しやすいように構成を工夫し発表しており、審査委員一同から大変に高い評価を得ました。

○優秀賞 北海道 倶知安農業高等学校

よい和牛生産の経営安定を図るため、地元の特産物から副生するジャガイモデンプン粕を活用した飼料自給率の向上について検討しました。先行研究文献を調べて試験区を設定するなど、計画的に取り組み、データ収集しました。その成果を解りやすく図にまとめ、考察も含めて構成良く発表しており、審査委員一同から高い評価を得ました。

○優秀賞 広島県立 西条農業高等学校

飼料費削減と病気などのリスク回避が望める短期肥育に取り組みました。市場調査により和牛肉への消費者ニーズを把握し、オレイン酸を豊富に含む赤ぬかの利用について、給与条件を明らかにするとともに、現場への普及を考慮したペレット化についても検討しました。精力的な取り組みで、発表も優れており、審査委員一同から高い評価を得ました。

○優良賞 栃木県立 栃木農業高等学校

飼料自給率向上を目指し、クラフトパルプの活用を試み、中間検証まで進め、今後の課題も考察しました。また、畜産物の理解醸成を図るべく、小学生との交流、給食食材としての提供など、精力的に活動しており、審査委員の多くから高い評価を得ました。



多田 審査委員長





和牛甲子園

取組評価部門 審査講評

○優良賞 神奈川県立 中央農業高等学校

雌牛でのA5ランク獲得を目指し、ワクチン投与による発情行動抑制が飼料摂取量の低下止めと瑕疵の発生防止などに有効であることを示しました。チームの協調性と意欲が感じられる発表で、審査委員の多くから高い評価を得ました。

○優良賞 京都府立 農芸高等学校

地域農業を盛り上げ、京都和牛で笑顔を届けるべく、地域資源である飼料米、酒粕の給与方法検討、クラウドファンディング、食育活動に取り組みました。発表資料の構成が良く、熱意と成果がよく伝わる内容で、審査委員の多くから高い評価を得ました。

○審査委員特別賞 鹿児島県立 鹿屋農業高等学校

地元で問題となっている広大な竹林の資源の利用を図るため、笹サイレージの調製・給与を検討し、嗜好性、健康状態が良く、飼料費削減にも有効であることを明らかにしました。地域を巻き込んだ試みで、今後の展開を期待する高い評価を得ました。

惜しくも入賞を逃した各校も課題意識が高く、活力溢れる発表でした。また、その内容は年々レベルが向上しており、審査委員諸賢から称賛の声が多数上がりました。

発表に関しては、昨今のウクライナ情勢や円安などの影響からくる飼料や燃料の価格高騰に関連して、飼料自給率の向上を試みたものや、畜産物の生産は地球環境への負荷が大きいとされることから、環境への配慮を意識したものなど、現況に対応した内容が多くみられました。これらの取り組みは、高校牛児の皆さんの努力は勿論ですが、教職員および地域の方々がサポートし、熱心に指導されていることが窺えるものでした。関係の皆様にご敬意を表しますとともに、今後も我が国の畜産を担う若人のためにご尽力いただきたく存じます。

今大会のキャッチフレーズは「つなげ、ひろがれ！高校牛児のおもい」です。3年ぶりに実参加を主体とした開催となり、皆さんは、全国各地で同じ思いで頑張っている仲間と互いの熱意を直に感じながら繋がることができましたと思います。今後、その繋がりを益々広げ、強固なものにしていって欲しいと思います。

私たちが生きる上で食は欠かせません。和牛肉は栄養供給源であるのみならず、大変に美味しく、私たちの健康で心豊かな生活を彩る特別な存在で、幸せと笑顔を届けてくれます。「和牛」は先人からの努力の結晶です。どうか、皆さんで「和牛文化」そして「日本の農業」を盛り上げていってください。

主催者である全国農業協同組合連合会をはじめとする関係の皆様のご尽力により、全国の高校牛児のネットワーク構築を進める意義ある大会となりました。厚く感謝申し上げます。

本大会が末永く続くことを祈念し、取組評価部門・体験発表の審査講評と致します。

令和5年1月19日

東京農業大学 農学部 教授 多田 耕太郎





和牛甲子園

体験発表会カンファレンス

【目的】

次回に向けての自らの課題を明らかにし、かつ、さらなるモチベーション向上のため、全参加校が体験発表会の内容を審査委員から講評・指導を受ける場を設定

【進め方】

- (1) 審査委員から各校毎に、口頭で語りかける方式で講評・指導を実施
- (2) 取組評価部門審査委員長による全体振り返り・総括をおこない、課題とその解決方策について「深堀」

各審査委員の講評・指導対応校一覧

	審査委員	講評担当校						
①	多田	北海道 倶知安農業	酪農学園大学 附属とわの森 三愛	青森県立 三本木農業・ 三本木農業恵拓	岩手県立 水沢農業	岩手県立 盛岡農業	岩手県立 花巻農業	宮城県 農業
②	河村	福島県立 会津農林	福島県立 磐城農業	茨城県立 水戸農業	栃木県立 宇都宮白楊	栃木県立 鹿沼南	栃木県立 栃木農業	栃木県立 那須拓陽
③	小原	栃木県立 真岡北陵	栃木県立 矢板	群馬県立 利根実業	群馬県立 吾妻中央	神奈川県立 中央農業	富山県立 中央農業	岐阜県立 大垣養老
④	落合	岐阜県立 加茂農林	岐阜県立 飛騨高山	愛知県立 渥美農業	滋賀県立 長浜農業	京都府立 農芸	島根県立 出雲農林	岡山県立 瀬戸南
⑤	江森	広島県立 西条農業	山口県立 大津緑洋	佐賀県立 唐津南	長崎県立 諫早農業	熊本県立 南稜	宮崎県立 高鍋農業	宮崎県立 都城農業
⑥	伊勢	鹿児島県立 市来農芸	鹿児島県立 鶴翔	鹿児島県立 鹿屋農業	鹿児島県立 曾於	鹿児島県立 加世田常潤		

【取組評価部門審査委員長から高校牛児へのメッセージ】

ここ2年、コロナ禍のためリモート開催を余儀なくされましたが、今回は3年ぶりの実開催であり、初回から参加している私も期待感にみちた「ワクワク・ドキドキ」した大会となりました。

寄せられた体験発表の内容は、期待以上の出来栄で、きわめて高い水準の粒ぞろいのものでした。

加えて、今回の体験発表会の内容は、今大会のキャッチフレーズである「つなげ、ひろがれ！ 君たちのおもい」を具現化した内容のものが多く、開催から6回目で「よくぞここまで成長してくれた」というのが、和牛甲子園の草創期から立ち会ってきた私の正直な思いです。

今回の取組を通じて皆さんが得た一レベルの高い発表を成し遂げた一「達成感」、育てた家畜と指導された先生への一「感謝の念」。若くしてこの二つを知った高校牛児のみなさまは、「いい仕事」を成し遂げる立派な社会人となることを信じて疑いません。

今回、見事栄冠をつかんだ生徒さんも、惜しくも選に漏れた生徒さんも、まだ人生は始まったばかりです。和牛甲子園でつかんだことを糧に、次なるステージでも頑張ってください。

参加者の皆さんが、輝かしい未来をその手につかむものと、期待しています!!



多田審査委員長



河村審査委員



小原審査委員



落合審査委員



江森審査委員



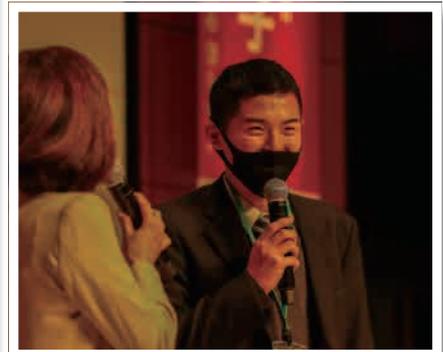
伊勢審査委員



和牛甲子園

枝肉評価部門 最優秀賞 栃木県立 矢板高等学校

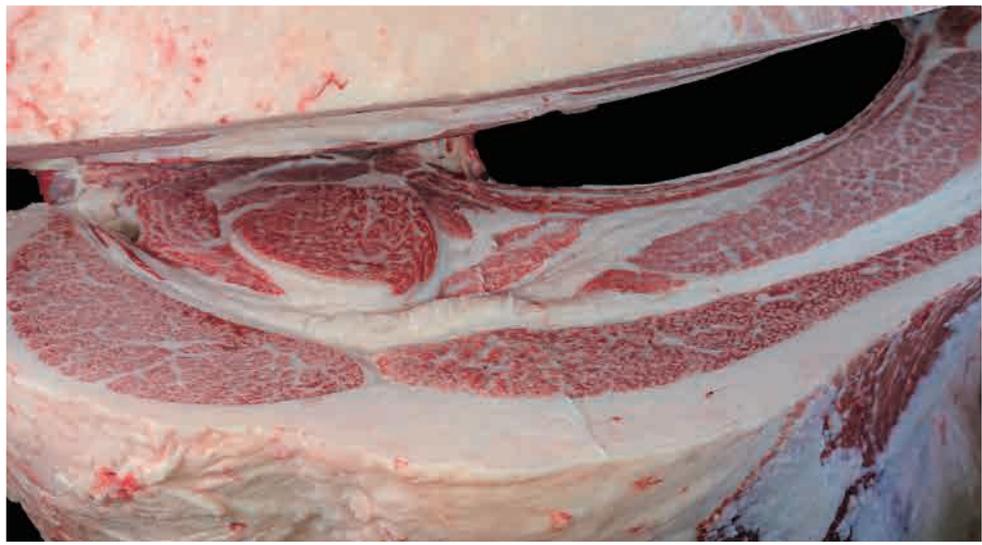
広大な放牧場や農場をフル活用した、
自然循環型畜産で育まれた矢高牛！





和牛甲子園

枝肉評価部門 最優秀賞 栃木県立 矢板高等学校



出品番号：NO.13 BMS：12
等 級：A5 性 別：去勢
枝肉重量：632kg



和牛甲子園

枝肉評価部門 優秀賞 鹿児島県立 加世田常潤高等学校

日本一の鹿児島黒牛の誇りと自信を受け継ぎ、
常潤牛でぎゅぎゅっと全国へ発信



出品番号 : NO.56 BMS : 12
等 級 : A5 性 別 : 去勢
枝肉重量 : 684kg



和牛甲子園

枝肉評価部門 優良賞 福島県立 磐城農業高等学校

磐農ガールズ！発信 和牛の魅力！



出品番号：NO.7 BMS：12
等級：A5 性別：雌
枝肉重量：360kg



和牛甲子園

枝肉評価部門 優良賞 岐阜県立 飛騨高山高等学校

飛騨牛に魅せられた3年間！
大切に育てたとわとみちこ絶対おいしいでさ食べてみて



出品番号：NO.22 BMS：11
等級：A5 性別：雌
枝肉重量：492kg



和牛甲子園

枝肉評価部門 優良賞 島根県立 出雲農林高等学校

全共に続け！島根県の牛は日本一だけん！



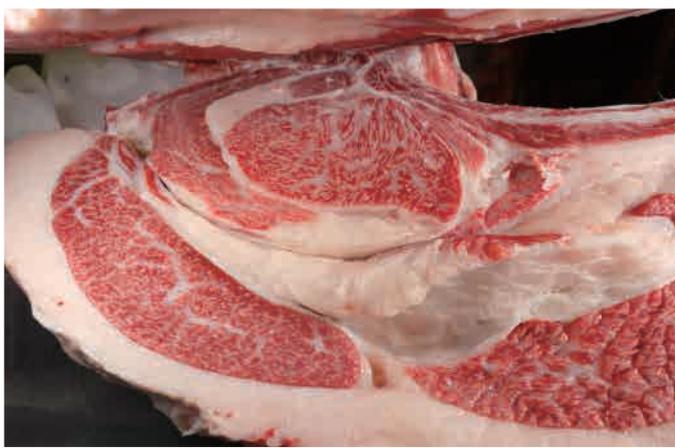
出品番号：NO.29 BMS：12
等級：A5 性別：去勢
枝肉重量：545kg



和牛甲子園

枝肉評価部門 審査委員特別賞 愛知県立 渥美農業高等学校

私達のみおとももは、きっと立派なみかわ牛！
2頭のためにも、最優秀賞は譲りません！



出品番号：NO.24 BMS：11
等級：A5 性別：雌
枝肉重量：459kg



和牛甲子園

枝肉評価部門 審査講評



芳野 審査委員長

全国で和牛を肥育する高校生による「和牛甲子園」も第6回目を迎えました。

新型コロナウイルス感染は未だ終息が見えない状況ですが、衛生対策を講じながら3年振りに対面形式での開催となりました。皆さんの学校におかれましても様々な制限があつて飼養管理においては、大変心配、ご苦労されたことと思います。このような苦難の中、高校生の情熱と想いを汲み取り、開催にご尽力されました全国農業協同組合連合会をはじめ、多くの関係者の皆様に敬意を表するとともに、この祭典が真の平常化への起点となることを願い、枝肉評価部門の審査委員を代表して審査の概要と結果をご報告申し上げます。

審査につきましては、開催目的でございます「我が国の畜産を担う高校生の育成とネットワーク作り」を、和牛の肥育をとおして創出するという「開催意義」を念頭に、「開催要領・審査基準」に基づき、その他に品質等を総合的に考慮し、審査委員一同、厳正かつ公平に行っておりますことをご報告いたします。

今回の枝肉評価部門出場校・出品頭数は、北は初参加の北海道から南は鹿児島県まで、23道府県35校より黒毛和牛雌18頭、去勢37頭の総計55頭となりました。

黒毛和牛去勢につきまして、全国格付結果の数値などを添えてご報告します。

【去勢：37頭 第5回33頭、4回36頭、3回30頭、2回18頭、1回13頭】

表 1

	枝重	ロース	ばら	皮下	基準値	歩留		肉質		B.M.S		B.C.S
						「A」率	「5」	「4」up	平均	10up		
前々回	539.3	75.6	8.6	2.9	75.6	97.2	63.9	91.7	9.0	50.0	4.0	
前回	554.5	71.5	8.8	2.9	75.1	97.0	81.8	93.9	9.8	63.6	3.8	
今回	561.9	77.6	9.3	3.1	75.9	94.6	81.1	100.0	10.1	64.9	3.4	
MAX	684.0	111.0	11.6	7.1	80.6							
MIN	390.0	50.0	6.6	1.7	70.7							
全国	512.9	68.1	8.4	2.4	75.3	96.9	62.6	91.2	8.5	37.8	3.7	

※全国値は CD 版牛枝肉格付情報：令和4年度第2四半期

歩留まりを上げる要因は、ロース面積大、バラの厚さ大、重量適度、脂肪付着薄です。

まず去勢ですが、「A」等級が94.6%という成績でした。全国平均は96.9%です。特に歩留基準値75以上が22頭59.5%、80以上が2頭5.4%出品されました。黒毛和牛は肉用専用種ですから、歩留まりにも十分気を配りましょう。去勢の場合70台後半が目標と言えます。今年の甲子園の平均値は75.9で、ほぼ全国平均、前回値を上回りましたが、「A」率は減少しました。

枝肉重量が561.9kg（前回554.5kg）前回より増加、全国平均重量の512.9kgよりも49.0kg大きくなっており年々増加しています。胸最長筋面積は、平均77.6cm²で全国平均68.1cm²を大幅に上回っており、バラの厚さは、枝肉重量を勘案しますとほぼ良好と評価しますが、脂肪付着の厚めの枝肉が散見されました。去勢牛全体としては枝肉重量を含め歩留項目に枝肉ごとのバラツキが大きかったと言えます。平均値とどかなかつた学校はまず、来年以降の大会の課題として枝肉重量（生体重量）の増加をお願いします。

増加に伴い、胸最長筋面積も大きくなり、バラも厚く、脂肪交雑も上昇する結果が報告されています。付着脂肪の厚脂に注意和払いながら、まずは各ステージに見合ったエサをしっかりと食べさせることが大事です。

・肉質についても、歩留項目と同様に枝肉間の品質格差が大きかったと思います。「5」等級率は前回同様で8割を超え、「4」等級以上率は100%と喜ばしい結果となりました。BMSNoの平均が10.1に上昇ついに2桁台に入りました。また、健康のバロメーターとも云える「肉の色沢」も良好なものが多く目に止まり、牛児の皆さんの愛情の賜物と申せます。脂肪質についてはやや硬めの枝肉も散見され、歩留項目同様にバラツキが大きい結果です。光学測定によるオレイン酸予測値では、MUFA平均値59.0%、オレイン酸平均値53.2%です。それぞれ一度に沢山の改善は難しいので、肉質項目では「健康な牛に鮮明な光沢あり」を念頭に、良好な「肉の色沢」「肉の締まり及びきめ」を目指して、しっかりと消化器官づくり、基礎づくりをお願いします。

黒毛和牛 雌

【雌：18頭 第4回11頭、第3回14頭、第2回10頭、第1回8頭】

表2

	枝重	コース	ばら	皮下	基準値	歩留	肉質		B.M.S		B.C.S
						「A」率	「5」	「4」up	平均	10up	
前々回	480.5	72.3	8.1	3.5	75.0	100.0	72.7	90.9	9.0	45.5	3.8
前回	478.9	68.2	8.0	3.5	74.5	82.4	58.8	88.2	8.7	47.1	3.6
今回	472.4	72.8	8.6	3.6	75.5	100.0	94.4	100.0	10.4	72.2	3.5
MAX	593.0	95.0	10.8	5.0	79.5						
MIN	338.0	46.0	6.4	2.0	72.0						
全国	428.4	59.8	7.4	2.6	74.5	82.6	43.7	69.9	7.0	23.4	4.0

※全国値はC D版牛枝肉格付情報：令和4年度第2四半期

雌では、「A」が100.0%、パーフェクトに戻りました。全国平均は82.6%です。雌の特徴として脂肪付着が厚くなる傾向が強いので、適正な飼養管理が求められます。今回「B」等級に格付された枝肉が無かったことは高評価です。歩留基準値も全国値を僅かですが上回りました。枝肉重量のバラツキは大きく最大と最小の枝肉では260kg近くありました。胸最長筋面積は大小ありましたが、平均72.8cm²と前回に比べ4.6cm²大きくなり全体的にはますますの高評価です。何より厚脂の抑制が一般出荷同様大切です。

・肉質ですが「4」等級以上率は100%のパーフェクトです。「5」等級は驚きの94.4%で35.6%増加し大会史上の最高の好成績となりました。特に雌は飼養管理が難しいと云われる中で、バラツキはあるものの去勢牛を上回る成績でした。BMSNoの平均は1.7ポイント上昇、去勢牛同様初めての2桁となりました。「肉の色沢」「脂肪の質」は良好な枝肉も多く見られました。前回の講評でバラツキが大きかったこともあり「雌牛の肥育は難しかったですか」との質問に、結果で答えた牛児の皆さんに脱帽です。また、去勢牛に勝る結果を出したことが、今大会の特色でした。

【瑕疵の発生】（単位：頭）

表3

	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	計
前々回		4	2	2	1	6	15
前回		3		3		1	7
今回			1(1.8)	2(3.6)		1(1.8)	4(7.2)



枝肉評価部門 審査講評

総合して瑕疵の発生が4頭ありました。7.2%の枝肉に瑕疵があったこととなりますが、前回に比べ半減しました。全国平均23.6%と比べても発生率が低く改善されています。外傷（アタリ）は少なく、牛への愛情と取り扱いの丁寧さを感じました。また最近増加傾向にある筋炎（シコリ）・その他（内臓癒着）の発生が無かったことは、しっかりとした飼養管理が行き届いた証拠です。高い評価をしたいと思いません。

この様な中、栄えある枝肉評価部門の最優秀賞に「栃木県立 矢板高等学校」の出品番号「13号」去勢牛を選抜いたしました。父は秋忠平です。

出品番号：13			受賞者：栃木県立 矢板高等学校						
等級	BMSNo.	枝肉重量	基準値	ロース	ばら	皮下	BCSNo.	腹鋸筋	オレイン酸(予)
A 5	1 2	632.0	78.0	93.0	11.3	3.5	3	5.8	50.0

生後月齢29か月、枝肉重量632.0kg、ロース面積93.0cm²、ばらの厚さ11.3cm（腹鋸筋5.8cm）と充実し、皮下脂肪の厚さは3.5cm、歩留基準値は78.0、大型牛ながら前・中・後軀の厚み、バランスとも理想的で迫力ある枝肉。一言で評すならば「立派に育て上げた牛」と言えます。切開面においては良型の胸最長筋（ロース芯）と、全ての筋肉が大きく、しっかりと存在しており、小ザシ・中ザシから成る「脂肪交雑」も満遍なく十分に分布して「肉の色沢」もまた素晴らしい枝肉です。若干脂肪質が固めな点が気になりましたが、審査委員全員の評価を受け最優秀賞に選ばれました。今後は脂肪質の改善に目を向けて頑張ってください。おめでとうございます。

優秀賞2点には出品番号19号、岐阜県立 大垣養老高等学校の去勢牛です。生後月令31か月、枝肉重量が582.0kg、胸最長筋面積87cm²、ばらの厚さ11.4cm、皮下脂肪の厚さが3.2cm。歩留基準値も78.2、オレイン酸予測値54.0%、BMSNo.12、BCSNo.3、腹鋸筋5.7cm。枝肉全体のバランスに優れ、脂肪の付着状態もなめらかで各部に厚みがあり、肉量感豊かな枝肉です。切開面の胸最長筋（ロース芯）の形状も良く、バラの厚みも圧巻で立派です。脂肪交雑は中ザシ・小ザシが十分でした。枝肉全体の迫力感において、残念ながら最優秀賞に一步届きませんでした。牛づくりの方向性も、結果もまとめて総合点の高い枝肉と思います。やや厚脂肪ですが、均等に付着しており問題ありません。前回に続き連続の優秀賞受賞です。

優秀賞もう1点は出品番号56号で、鹿児島県立 加世田常潤高等学校出品の去勢牛です。生後月令が31か月、枝肉重量684.0kg、胸最長筋面積108cm²、ばらの厚さ11.6cm、皮下脂肪の厚さ3.2cm、歩留基準値79.8、オレイン酸予測値52.4%、BMSNo.12、BCSNo.4、腹鋸筋5.5cm。出品牛の中で最大重量の鹿児島らしい迫力ある超大型牛です。最優秀賞牛同様に切開面に見られる各筋肉は大きく、肉量感や迫力の点では見劣りしません。周囲筋は細かな脂肪交雑で満たされており、胸最長筋（ロース芯）は中ザシ中心の分布状況です。「肉の色沢」はかなり良好ですが、各肉質項目でやや最優秀牛に及びませんでした。この肥育の方向性に間違いはありません、今後も頑張ってください。

優良賞1点目は出品番号7号で、福島県立 磐城農業高等学校出品の雌牛です。枝肉重量360.0kg、胸最長筋面積62cm²、ばらの厚さが6.4cm、皮下脂肪の厚さ2.9cm、歩留基準値74.6、オレイン酸予測値57.3%、BMSNo.12、BCSNo.3でした。枝肉全体の体型は、重量も小さいことからやや厚みに欠ける枝肉です。切開面においても同様にロイン部・バラ部の厚み、大きさにおいて物足りなさを感じました。ただ審査委員一同の目に入った第一印象は、何と言っても「肉の光沢」「肉の締まり及びきめ」の飛び抜けた良さ

です。「脂肪の色沢と質」もかなり良く、オレイン酸予測値も高値です。肉質は出品牛の中でトップといえ、この点が評価されました。雌牛といえども今後は肉量増を念頭の肥育を目指して下さい。

優良賞2点目は出品番号22号で、岐阜県立 飛騨高山高等学校出品の雌牛です。枝肉重量492.0kg、胸最長筋面積78cm²、ばらの厚さが9.2cm、皮下脂肪の厚さ3.1cm、歩留基準値76.7、オレイン酸値54.4%、BMSNo.11、BCSNo.3でした。各部には十分な厚みがあり、短めの体軀は和牛らしい体型を有し、やや腰部の脂肪の付着状態は気になるものの、肉量は十分な枝肉です。切開面は形の良い胸最長筋（ロース芯）、脂肪交雑は小ザシ中心で「肉の色沢」に優れ、その滑らかさから「きめの細かさ」を感じ取れる枝肉です。筋間脂肪の厚い点がマイナス評価となりました。肉質の良さを保ちながら今後の肥育力向上を期待しております。

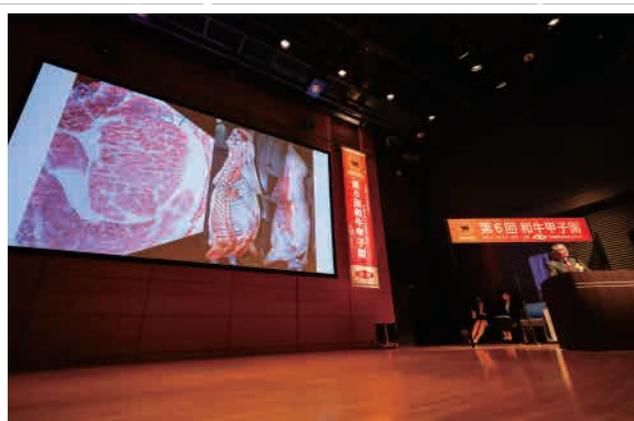
優良賞3点目は出品番号29号で、鳥根県立 出雲農林高等学校出品の去勢牛です。枝肉重量545.0kgで、胸最長筋面積82cm²、ばらの厚さ8.5cmで、皮下脂肪の厚さ2.1cm、歩留基準値77.1、オレイン酸予測値52.0%、BMSNo.12、BCSNo.4でした。この枝肉も各部のバランス、厚みとも良好で、脂肪付着もなめらかで良好といえます。胸最長筋（ロース芯）は中ザシ・小ザシで構成され、特に「肉の締まり」に秀でた枝肉です。総合評価は高いのですが、枝肉全体の充実度では、上位牛に一步届きません。

なお、審査委員特別賞には出品番号24号、愛知県立 渥美農業高等学校出品の雌牛を選びました。

枝肉重量459.0kgで、胸最長筋面積84cm²、ばらの厚さ8.4cmで、皮下脂肪の厚さ4.6cm、歩留基準値76.0、BMSNo.11、BCSNo.4、オレイン酸予測値60.2%です。出品牛のうち「A5」等級に格付された枝肉の中で、唯一オレイン酸予測値が60.2%と高く、脂肪の質は粘り、光沢とも最も優れ、口どけの良さを強く感じるとともに、「肉の色沢」にも特に優れた点を高く評価し審査委員特別賞としました。脂肪の質は今後も注目される評価法の一つとなって行くものと思います。脂肪質の良さを保持しながら、厚脂肪傾向の強い雌牛の脂肪付着のコントロールを次回は期待しています。

最後になりますが、2年生の参加も多かったと思いますが、新型コロナウイルス感染症がなかなか終息しない情勢下で、今春進学、就職、就農される3年生の皆さんは、大変ご苦労された高校生活だったと推察いたしますが、この『和牛甲子園』の場や、今までに得た貴重な経験と知見を後輩にしっかりと伝えて行っていただきたいと思います。そして高校3年間で培い、育てた、技術と友情を持って、新しい環境でのご活躍をお祈り申し上げます。

また、高校牛児の祭典「和牛甲子園」が、次の世代によって今後も更に活況を呈し末永く続くことを祈念して審査報告といたします。

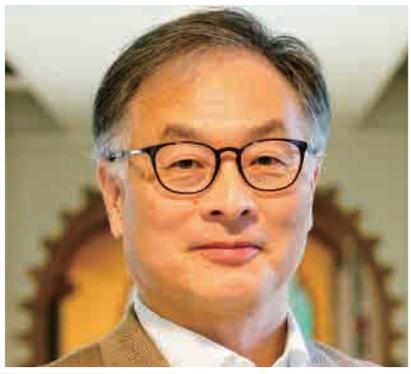


令和5年1月20日
審査委員長（枝肉評価部門）
公益社団法人日本食肉格付協会
専務理事 芳野 陽一郎



和牛甲子園

枝肉評価部門 「審査ならびに枝肉の撮影実施にあたって」



口田審査委員

和牛甲子園に参加していただきました高校牛児の皆様、開催をバックアップしてくださいました関係の皆様、大会の大盛況おめでとうございます。私は、今回で2回目の参加となり、私にとってはリアルに高校生とお会いできた初めての大会となりました。やはり、皆様と面と向かって会を実施するのは臨場感があり、よいものですね。

今回の和牛甲子園での体験は、高校牛児の皆さんや指導して下さった先生方が、手塩にかけて育てた和牛を、と畜し、枝肉となって日本食肉格付協会のプロの目で格付を受け、セリにかけるといった、一連の肉牛生産の行程を高校生のうちから実体験でき、また、その感動をみんなで共有できるという人生においてもそう無い経験だったかと思います。自分たちの思い描いていた肉質、枝肉の状態と同じかそれ以上に仕上がった枝肉もあったでしょうし、夢ではA5の枝肉となることを思い描いていたのに、実際にはそれよりも低い結果となったということもあったでしょう。私は帯広で、プロの肉牛生産者の方と日々意見を交わしておりますが、プロであっても、「思っていた枝肉と違ったものになった」ということが当たり前起きています。

最近、ゲノム評価が一般的に使われるようになってきました。また、超音波による肉質診断などの技術も飛躍的に上がってきております。育種改良、繁殖技術や飼養水準の向上は目を見張るものがあり、AI（人工授精ではなく人工知能です）の技術も日常的に活用されるようになってきました。皆様が、私と同じ年代になる40年後、肉牛生産は今とは全く違う技術が使われるようになっていくかもしれません。今回の経験を忘れずに、よりよい牛肉を確実に生産できるような技術を皆様の手で作上げていってください。

さて、今年は、全部で55頭の枝肉を審査させていただきました。それと同時に枝肉のロース芯や外貌の写真を撮影し、皆様方にお送りさせていただきました（^{※注}第6回和牛甲子園ホームページ（第6回和牛甲子園結果 枝肉断面覧）参照）。私は帯広畜産大学で肉質の育種改良に関する研究を実施しており、その一環で枝肉横断面の写真を撮影、解析し、客観的な数値をベースとした効率的な育種を目指しております。今回撮影に使用した機材は、ロース芯の撮影にMIJ-15撮影装置、枝肉外貌の撮影にはMIJ mobileというものを使っております。普段は北海道の枝肉市場をベースに活動しておりますが、今回は特別に和牛甲子園の場においてこれらの機材を東京食肉市場に持ち込み、使わせていただき、心を込めて撮影させていただきました。是非、格付結果と見比べながら、枝肉画像をご覧いただき、次の大会に向けてどういったところの改善が必要なのかなどの検討をしていただければ幸いです。

もしかしたら、本学に進学して下さる牛児の方もいらっしゃるでしょう。そうでなくても、大学に進学する人は学会でお会いできるかもしれません。また、社会人として畜産関係で働かれる人とも接点があるかもしれません。もし、どこかで私を見かけたら、「和牛甲子園参加しました」と声をかけていただければ大変うれしく思います。

帯広畜産大学 畜産学部 教授 口田 圭吾



和牛甲子園

先輩“高校牛児”講話

進路選択のための高校牛児OB・OG講話

目的：進学・就職を控えた現役高校生にとって関心の高い進路選択の事例研究として、和牛甲子園出場経験者が体験に基づく講話おこなうことで、参加生徒の進路選択のための一助とする。

講話者：第1回・第2回総合評価部門 最優秀賞受賞校 岐阜県立飛騨高山高等学校の卒業生3名

《先輩牛児のプロフィール》

加藤 大地さん (web参加)

私は飛騨高山高等学校を卒業した後、酪農学園大学に入学し、そこで家畜繁殖学を学びながら農家実習などで実践を積みました。現在は大学時代に取得した家畜人工授精師、移植師の免許を活かしながら、新規就農に向け北海道で研修中です。現役牛児の皆さんには、経験を積んだからこそできる体験談を中心にお話しをする予定です。

林 実佐子さん (会場参加)

宮城全共復興特別出品区、和牛甲子園第一回大会、共に賞を取らせて頂きました。

飛騨高山高等学校卒業後は「県外の牛を見てみたい」との思いから、兵庫県農業大学校に進学し2年の牧場就職をしました。昨年春からJA飛騨ミート（飛騨ミート農業協同組合連合会）で働いております。社会人経験はまだ浅いですが、高校時代の楽しくキラキラした話を中心に、楽しく、かつ、後輩牛児のお役に立てるような時間にしたいです。

田中 里佳さん (会場参加)

酪農学園大学4年生 田中里佳です。

高等学校時代は、岐阜県立飛騨高山高等学校で雌牛肥育の課題研究をしていました。

現在は農業高等学校の教員を目指して大学に通っています。現役牛児である皆さんとの交流を楽しみにしています。

何かと進路に悩む時期だと思いますので、ご質問等も受け付けます。なんでも聞いてください!

《講話要旨》

和牛甲子園出場を含めた「和牛」に没頭した高校生活の思い出、高校卒業後の進学選択の経緯とその後の学び、そして就職活動から現在に至るまで、現役高校牛児が「知りたい・聴きたい」ことを実体験に基づき親しみやすく、かつ、わかりやすく語っていただきました。

後輩牛児と同じ「目線」に立った温かく思いやりある語りと、常に前向きに人生を切り開く姿勢は参加した高校牛児に希望と勇気を与え、説得力ある心に響く講話となりました。

そんな先輩牛児に引き寄せられるかのように、参加者からの質問が続き、充実した時間となりました。



加藤 大地さん



林 実佐子さん



田中 里佳さん





和牛甲子園

先輩” 高校牛児” 講話



和牛甲子園出場時の先輩高校牛児の勇姿!!

先輩牛児から後輩牛児へ贈るメッセージ

加藤 大地さん

和牛甲子園お疲れ様でした。みなさんの発表は現代の課題に則したものが多く大変勉強になりました。これからも仲間と牛と共に学ぶ今の気持ちを大切に頑張ってください！

林 実佐子さん

5年ぶりの会場の熱気に圧倒された、刺激的な2日間でした。これから社会に出ると、嫌なことも辛いことも沢山ありますが、未来ある皆さんには夢と希望を持って、自分の心の声に正直に頑張っていって欲しいなと思います。素敵な時間をありがとうございました。

田中 里佳さん

これから生産者として、関係者として、消費者として、様々な形で畜産を支えてください！

そして今後皆さんと畜産を、さらに盛り上げていけることを楽しみにしています！

〔活躍される3名の現在の様子〕



加藤 大地さん



林 実佐子さん



田中 里佳さん



和牛甲子園

特別授業 サトウ食品(株)佐藤理香社長 講演

演 題：「私の進路選択と食肉業界」

—ステーキレボリューション世界3位からの挑戦—

講演者：サトウ食品株式会社 代表取締役 佐藤 理香 様



プロフィール：

1979年7月24日東京生まれ。麻布大学獣医学部動物応用科学科卒業。
大学在学中から2014年公開のフランス映画「ステーキレボリューション」で世界3位の名店と讃えられた世界の食通を唸らせるステーキの名店「築地さとう」で家業に入る。

2020年、代表取締役に就任し、老舗の3代目として、経営のトップに立つ。

赤羽本部で卸業務対応、ステーキの名店である高級レストラン築地さとう、「元祖 丸メンチ」が呼び物の吉祥寺さとう、惣菜販売に特化した銀座さとうといった基幹事業と直営店を中心とした企業運営をおこなう一方、ネットショッピングやキッチンカーによるメンチ販売といった新たな領域に事業を拡大している。

なお、先代社長である佐藤健一様は第1回和牛甲子園で特別授業を行い、初代高校牛児へ激励の言葉を贈っている。



第1回和牛甲子園の模様
初代高校牛児の前で熱演
先代社長 佐藤健一様



映画「ステーキ・レボリューション」世界第1位
スペインの名店
「ボデガ・エル・カプリッチョ Bodega El Capricho」
オーナー José Gordón様と
「築地さとう」で歓談する佐藤健一様



元祖丸メンチカツ



世界一位奪還の切り札
独自のブランド化を進める
「いにしえの牛肉」
書：武田双雲





和牛甲子園

特別授業 サトウ食品(株)佐藤理香社長 講演

講演要旨：

今回は、進学・就職を控えた現役高校生の進路選択のケーススタディとして、司会者との対話形式による初の試みとなりました。

新進気鋭の女性経営者として母校でも悩める学生の進路相談をされてこられた経歴もあり大学入学の志望動機と進路選択・職業選択の経緯から、大学時代の学習活動・勉強方法、社会に入って間もない若手社会人がなすべきこと、将来にむけてのアドバイスまで、進路選択の岐路に立つ参加生徒さんにとって示唆に富む、説得力のある「進路勉強会」となりました。

また、「理系女子」の先駆けとして、昔ながらの「徒弟社会」「男社会」の気風をのこした食肉業界で活躍されるのみならず、「働く一人の女性」「一児の母」としての思いも率直に語っていただいたことで、女性の高校牛児から多くの共感の声が寄せられ、高校牛児へ「将来への希望」「前に進む勇気」を与えてくれた講演となりました。

<佐藤社長より参加牛児へ贈るメッセージ>

こんなに多くの高校生の方々が和牛飼育に携わっている事を知り、とても喜ばしく頼もしく思いました。

今後も美味しい和牛を創りあげて頂きたいと思います。

高校牛児のみなさん、とくに女性牛児のみなさん！

一緒に日本の畜産と和牛を盛り上げていきましょう！





和牛甲子園

和牛甲子園に参加して

北海道 倶知安農業高等学校



この2日間は普段学ぶことが出来ない、他校の取組発表を見たり、枝肉の競りを見学しました。農業クラブとは違い、「和牛生産に力を注ぐ高校生」の大会だったため、取組評価部門で優秀賞を獲得できたのは大変嬉しく思いました。枝肉は思ったような成績を残せませんでした。他校の取組を参考に、リベンジしたいと思います。また休憩時間には、高校牛児との名刺交換会も行われ、全国にコミュニティが広がったことを実感しました。

(山内 彩花)

私は今回の和牛甲子園が初出場でした。全国の牛児たちも品川会場で参加しており、学校では話すことが出来ない、和牛飼育管理や将来はどのような畜産に係りたいかなど、畜産業に強い関心のある意見交換が出来ました。枝肉市場も初めて見学させていただき、自分たちが飼育した牛が、と畜され食肉となり、複雑な感情になりましたが、良い経験になりました。この経験を活かし、北海道の和牛生産に貢献したいです。

(横山 颯大)

酪農学園大学附属 とわの森三愛高等学校



初参加となった和牛甲子園。和牛飼育に始まり、共進会の参加など今までにない経験をした日々でした。そんな中開催された和牛甲子園。リモート参加となりましたが、全国の高校牛児達の熱意ある発表を観ることができ楽しかったです。今後の活動として2023年夏に和牛共進会の参加・視察、秋には2頭の出荷・販売

等の計画を立てています。来年度は枝肉部門でも参加できるように毎日頑張ります。そして、和牛甲子園上位入賞を目指します。

(新海 市郎)

第6回和牛甲子園に参加でき、自分たちの活動内容、今後の目標を全国の農業高校に広めることができ良かったと思います。

大会当日は、リモートでの参加でしたが、他校の発表を聞くことができ、新たな課題を見つけるきっかけにもなりました。

私の実家は苫前町の酪農家で将来は牧場を継ぐことが目標です。今後はクロスブリーディングを行ったり、共進会で勝てるような牛作り、交配を行っていきたいです。

(小林 悠之)

リモートでの参加になりましたが、全国には和牛飼育に一生懸命取り組んでいる高校生がたくさんいること、そしてこういう行事のおかげで、自分たちの取り組みを改善したり、新たなイメージがわいたりすることができました。来年度は両部門での参加を目指し頑張ります。現在も毎日の和牛当番を続けていますので、この肥育牛が高評価を得られるよう毎朝、頑張って管理していきます。

(吉田 章仁)





和牛甲子園

和牛甲子園に参加して

青森県立 三本木農業高等学校・青森県立 三本木農業恵拓高等学校



和牛甲子園に参加してみて良かったことは、行って見たかった東京都中央卸売市場の見学ができ、実際に自分たちが育てた牛が売れる所を見届けることが出来たので良かったです。そして、他校との名刺交換での交流など他校の人とも関わることが出来ました。将来は、地元で牛を育てたいと思っているので、牛についての知識をもっと増やして行きたいと思います。(工藤 誠)

高校生として学んでいる期間に、自分たちが実際に肥育に携わった牛の競りを見ることができたのは貴重な経験になった。それが、自分たちの思いや考えのもとに一生懸命研究活動を行った過程があることを踏まえると、その思い入れも非常に大きい。また、他校の地域性を生かしつつ肉質向上を目的とした活動には感嘆させられてばかりだった。交流を持ったことで知ることができたことも多く、和牛甲子園に参加できてよかったと思う。(坂部 白虎)

岩手県立 水沢農業高等学校



一つ、一つの講評を分かりやすくお話いただき、今回の課題も明確になり次回の大会に向けた取組みがしやすいと感じました。レジェンド牛児の方々の講話も聴くことができ、先輩方が学生時代に感じていたことなどを知ることができ良かったです。

私たちはリモート参加でしたが、他校それぞれの牛にかける熱い思いを実感する大会だったと思います。新型コロナウイルス感染症予防のため交流はできませんでしたが、沢山ためになるお話を聴くことができて良かったです。(佐藤 紫緒李)

2年間、和牛甲子園に携わることができたので良かったです。肥育牛との関わりは命の大切さ、当たり前のように牛肉を食べることができていることに感謝ということを実感しました。

他校の発表では地域のひと協力、小中学校に学校給食として提供し研究に繋げるという内容に驚きました。年々、和牛甲子園のレベルが上がっていることをひしひしと感じました。後輩達にも一番上を目指してほしいと思います。(松谷 直樹)

飼養管理では朝と放課後に給餌当番を2年間頑張ることができました。なかなか食べてくれない時もあり、皆で試行錯誤しながら肉質向上を考えて酒粕を給与し、出品に向けて精一杯取り組むことができました。

出荷の日は同県の盛岡農業高校さんと出発式を行いました。家畜車が出発する際には皆で手を振って見送りました。水農藤光号がお肉になるのは悲しいですが、命の大切さを教えてくれた大切な牛です。これからも経済動物に感謝し、食べ残しをしないようにしたいです。(照井 晴香)

日々の管理では敷料替えやブラッシングなど牛にストレスを与えないことを心がけました。特にも毎日牛舎に通い、牛をよく観察することで観察眼を鍛えました。

出荷の日は同県の盛岡農業高校さんと出発式を行いました。盛農牛は全体的に幅も深みもあり凄い牛だと感じました。そして、2年間愛情込めて育ててきた水農藤光号は出荷した東京でも頑張ってくれると信じて送り出しました。

将来は家業の肥育農家を継ぎ、これからも質の高い肉を生産できるように日々頑張ります。(猪苗代 大智)

岩手県立 盛岡農業高等学校



今回和牛甲子園に参加をして、まずどの高校さんも取り組みのレベルが高く、自分たちとの差を感じました。どうしたら上手く育てられるのか、どうしたらもっと牛を知ってもらえるのかなど各校の取り組みに驚くことばかりでした。またセリ場で枝肉を見たときは他校の枝肉と比較をしながら見る貴重な機会でした。一生に一度の素晴らしい経験となりました。和牛甲子園事務局の皆さん、出場校の皆さん、本当にありがとうございました。

(高橋 淳一)

各校の発表を聞き、取り組み内容はもちろんのこと、発表練習や伝えるための工夫がされており、自分たちももっと出来たんじゃないかと考えさせられました。他校の良い点をしっかりと後輩に伝えていきます。枝肉共励会では、セリ場という普段は目にするのできない所へ入れましたし、ずらっと並んだ魅力的な枝肉たちを見るなど素晴らしい経験をしました。入賞はならずとも2頭ともA5という最高の評価で嬉しい結果となりました。

(苗代澤 銀大)

和牛甲子園に参加して他校の皆さんやレジェンドの皆さんとお話が出来、とても良い刺激になりました。地域資源を活用したオリジナルの飼料づくりなどアイデアの多さに学ぶことばかりでした。将来、家の畜産を引き継ぎたいと思っています。先の見えない現状をどのように切り開いていくか。私たちも真剣に考えていかなければなりません。今大会で、繋がった皆さんとの縁を大切にしながら若い力を生かして経営をしていきます。

(新田 悠治)

岩手県立 花巻農業高等学校

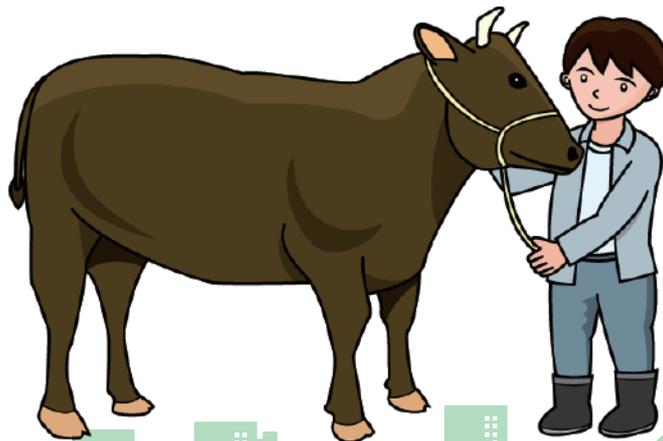


今回和牛甲子園に参加できてよかったことは、普段の学校生活では体験できない枝肉市場の見学及び講演会や、レジェンド牛児の方によるお話、そして他校との交流で色々な人と関わることができました。今後は和牛甲子園で学んだ枝肉の知識やレジェンド牛児の方などが話して下さった畜産との関わり方を考えながら残りの実習を頑張っていけたらとおもいました。

(藤原 蓮)

今回第6回和牛甲子園に参加してみて、他の学校の発表や先輩高校牛児、サトウ食品株式会社さんの講話や枝肉のことなど、普段だったら聞くことのできない貴重なお話を聞くことができ多くのことが学べ、とても充実した二日間でした。ただ、入賞校の発表しか聞けなかったのが残念でした。また、他校の人たちとも関わりを持つことができてたのしかったです。

(大湊 美涼)





和牛甲子園

和牛甲子園に参加して

宮城県 農業高等学校



今回和牛甲子園を通して自分にとってすごく成長する事が出来ました。今回、目標に向かって取り組んで来ましたが、改めて家畜動物を育てる難しさを知りました。和牛甲子園で賞を受賞する事は出来ませんでしたがこれからの自分にとって勉強になる事も多く学べる機会となりました。今回「とうふ」をA5ランクに格付けされて嬉しい気持ちとまだ何か出来たのではないかと後悔した気持ちは少しありましたが和牛甲子園で学んだ事を次に活かして後輩にも繋げていきたいです。
(長井 鳳成)

今回初めての和牛肥育に挑み、色々な経験をさせていただきました。和牛甲子園という素晴らしい機会を頂き、自ら研究テーマを決めて1から和牛肥育に取り組むことができました。今回の和牛甲子園では賞を受賞することは出来なかったですが、目標であったA5仙台牛を生産することができ、とても嬉しく思います。

また、他校との交流から様々な肥育方法を学ぶことができました。今回の学びを次の世代、後輩達に伝えていきたいです。

(布袋 聖侑)

今回初めて和牛甲子園を経験してみて、牛を育てる大変さを知りました。私たちが愛情を込めて育てた「とうふ」が目標としていたA5ランクの仙台牛に格付けされて嬉しいです。賞をいただくことは出来ず残念ですが、来年はどうすればよいか、今回はまた違うやり方を考える機会が出来たと思うので、良い経験になりました。

今回学んだことを活かし来年の後輩には賞をとってきてほしいと思います。
(入間川 綾乃)

初めて和牛甲子園を経験してみて、和牛生産者としての責任の重さや命を育てることの大変さ他校の高校牛児達と接することで、次の和牛甲子園での課題が何かを学ぶことが出来ました。

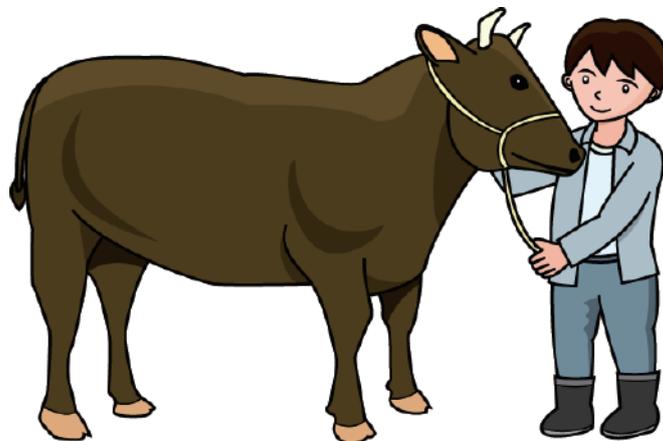
今回はどの部門でも、賞をいただくことが出来ませんでしたが、目標であったA5ランクの仙台牛に格付けされとても嬉しく、安心しました。

今回学んだことを、しっかり次の後輩達へ繋いでいきたいと思っています。
(佐藤 史奈)

今回の和牛甲子園を通して改めて肥育の大変さ、ブランド牛の生産の一部始終を学ぶことが出来ました。

先輩方の想いも受け継ぎ、目標としていたA5ランクに無事格付けされ本当に嬉しく思います。仙台牛を全国へというスローガンをもとに自分たちの手で育てあげた仙台牛を多くの方々手に取って頂きたいです。また、未来の高校牛児となる世代にも今回の私たちの取り組みが何か手助けになれば良いなと思います。

(尋田 莉央)



福島県立 会津農林高等学校



和牛甲子園への参加を通して、放課後や週末の時間も使い、自分たちの研究をしっかりとまとめ、発表することができました。また自分たちが愛情をこめて飼育した和牛もA5のBMSNo.12を獲得することができて良かったです。他校の取り組みや枝肉を見る機会は貴重なもので、大変勉強になりました。結果として「会津農林高校」と呼ばれることは無く、入賞を逃しましたが、他校の取組や和牛を見て大変勉強になりました。第7回和牛甲子園では、入賞できるように後輩には頑張ってもらいたいです。

(荒井 維莉哉)

和牛甲子園に参加して、感じたことが2点ありました。1点目は発表についてです。

他校の発表はゆっくりで聞き取りやすく、スライドも厳選され、大変見やすいものが多く参考になりました。2点目は肉質についてです。私たちの生産した和牛もA5 BMSNo.12を獲得できました。入賞校に比べ、どこが足りないのかを見極めて入賞を目指したいです。また今後販売会の販売会も通して、会農牛の良さをさらに伝えられるように今後も頑張っていきたいです。

(五十嵐 滉斗)

今回は入賞を逃してしまいましたが、個人的には、取組評価も枝肉評価も入賞している学校と大きな差はないのではないかと感じました。そのため大変残念に感じます。取組評価の講評では良い点、改善点をご指導いただきました。枝肉評価でもA5 BMS No.12を獲得できました。これらを糧として来年は入賞に繋げてほしいと感じます。

(大関 仁之)

今回はオンラインとなり、電波不良や現地で枝肉を見ることができずに残念でした。取組評価部門で、自分たちの発表は入賞してもおかしくない内容だと感じました。講評ではスライドの作成が課題であり、取組内容は良いと評価いただいたので来年に繋がりたいです。枝肉評価部門ではA5ランクを生産することができました。結果として両部門で入賞できず大変悔しい結果でした。ですが今までの取組をしっかりとまとめ、評価されたことで、達成感を得ることができました。昨年の先輩方を超えることはできませんでしたが、来年度は入賞を目指して頑張ってもらいたいです。

(小林 暖人)

昨年度と同じくオンラインでの参加となりました。オンラインが接続され、開会式が始まり、徐々に緊張してきました。取組評価部門になり、いままでの研究をしっかりとまとめ、入賞できるのではないかとというドキドキがありました。しかし名前を呼ばれることは無く、入賞した学校の発表はどれも素晴らしいものでした。2日目の枝肉評価部門では入賞をすることはできませんでしたが、いい評価をいただきとても嬉しかったです。今回の和牛甲子園では入賞をすることができませんでしたが、大変勉強になりとても良い経験でした。後輩たちには頑張ってもらいたいです。

(二瓶 太良)





和牛甲子園

和牛甲子園に参加して

福島県立 磐城農業高等学校



私は第4回の時に「しげき215号」を出品しましたが、格付け結果はA3で悔しい思いをしました。今年の出品牛は、「あさがお40号」で、2頭飼いや醤油粕給与に挑戦し、29ヶ月愛情込めて大切に育ててきました。枝肉評価部門で優良賞、A5の格付けをいただけて思わず涙が出てしまうほど嬉しかったです。高校牛児として大好きな牛と過ごした3年間、最高の思い出を沢山作ることができました。とても貴重な経験をありがとうございました。
(瀧澤 咲良)

今回の和牛甲子園は2年生がメインで出場し、私を含めた3年生2人、2年生が4人の合計6人でこの大会に向けて頑張ってきました。結果は優良賞という結果でとても喜びました。第4回の時に出品した「しげき215号」の結果を踏まえ、地域の方々の協力もあり、今回はA5ランクでリベンジが果たせました。このような成績を今後の和牛甲子園でも残せるように、後輩たちに頑張ってもらいたいです。
(清水 優華)

私が和牛甲子園に取り組んで良かったと思うことは二つあります。まず一つ目は、先輩や仲間との協力を経て絆を深められたことです。二つ目は、他校の発表や枝肉などをその場で見れたこと

です。コロナ禍でなかなか開催が難しかったとは思っていますが、十分なコロナ対策の上で開催できたことは、とても良かったと思いました。他校との交流では、名刺交換などしたのでコミュニケーションがとれました。他の高校でもみんな牛に対する思いは同じなので、牛の話で盛り上がり楽しい時間でした。

また、取り組み発表では最優秀を受賞した高校の内容を見てみると、聴きやすかったり、見やすかったりととてもわかりやすい内容でした。
(岡部 美知留)

今回の甲子園に参加した中で、良い牛を育て続けるには自分でも味を知っておくことが大切だとわかりました。どんな餌を与え続けたらこのような味の牛ができるや、育成環境によって硬さが変わる?など、そんなことを自分の中でも知っておくことで、食べてみた際に次はこんな事をやってみようとなり、どんどんチャレンジして行けます。それは、次回だけではなく、将来自分が教員になった時にも生かせると思うからです。
(清水 凜心)

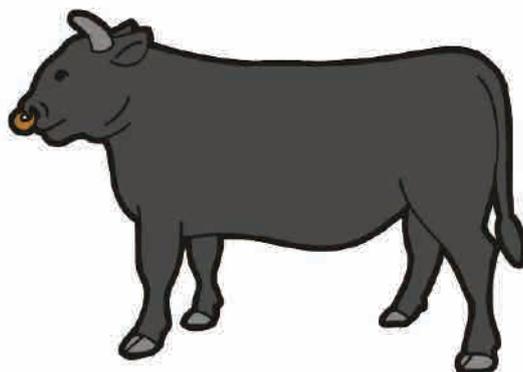
私が和牛甲子園に取り組んで良かったことは、和牛について詳しくわかったことです。私は、家畜審査競技(乳牛の部)に出場するために昨年の6月まで乳牛について学んでいました。そのため、黒毛和種については知識が少なく詳しいことはわかりませんでした。今回、和牛甲子園に出場してもっと和牛と関わって行きたいと思うようになりました。

交流では、北海道の倶知安農業高校の方々とは話をしました。交流することで考え方に変化があったように思います。

将来は、動物と関わる仕事に就きたいので、これからも沢山の経験ができるように努力していきます。
(佐藤 心結)

和牛甲子園に取り組んで良かったことは、初めての参加でわからないことが沢山ありましたが、先輩が優しく教えてくれ、また他校が取り組んでいる内容や、自分達に足りないものを知ることができたことです。

他校との交流での感想は、名刺交換をしてもあまり話すことができなかったのですが、他校の先輩牛児の方々に質問しているいろいろ聞いたことが良かったです。
(宇佐美 香苗)



茨城県立 水戸農業高等学校



今回初めて和牛甲子園に挑戦しました。私にとって初めてのことばかりで、とても勉強になる1年でした。甲子園牛は多くの方のご協力の元、2頭導入することができました。第6回大会では体験発表会へのみの参加ではありましたが、和牛飼育についてまとめ、発表動画を作成することがとても大変でした。次回大会では、体験発表と自分たちが育てた牛を評価していただきます。残り1年、自分たちなりの飼育方法で、頑張って取り組みたいと思います。(小豆畑 翔平)

第6回大会にリモートで参加しました。初めての参加でしたが、受賞した高校の発表を聞いて、自分たちの牛をとて丁寧に飼育していることに、驚きました。中でも勉強になったのは、飼料に注目して工夫をした給餌を行っていた点です。餌の改善は自分たちだけで行うのは難しいと思っていましたが、今回他校の給餌方法や飼料調製方法を知り、これからのヒントになると感じました。次回大会では私たちが飼育した牛を評価してもらうことになりま。残りの飼育期間を大切に、評価の高い牛を生産したいです。(田谷 嘉一)

今回初めて和牛甲子園に参加し、他校の素晴らしい活動内容を知ること、私たちの日々の取り組みにおける改善点に気づくことができました。私たちの学校で甲子園牛は部活動で飼育管理を行っています。部員全員でよく話し合い、次回大会の甲子園牛出展に向けて、明確な目標を設定しそれを実現するための手段を丁寧に検討し実行したいと思いました。また、SDGsについての理解を深め、これからの飼育管理に生かしたいと思います。大会に向けて、牛の飼育管理をがんばります。(松原 萌夏)

栃木県立 宇都宮白楊高等学校



普通高校では体験できない貴重な体験ができてすごく勉強になりました。1つ1つの高校の評価があり、その上で自分たちの高校の良いところや悪いところを聞くことができよかったです。また、今年は2頭出品してBMS10、12という結果を残すことができ良かったです。(野澤 光流)

3年かけて育てた和牛がB5、A5と良い評価を受けることができた。また他校の研究発表をみることができ、とても勉強になった。肉質品評会では、どの肉が良いか、サシの入り具合は、などとても勉強になった。皮下脂肪が厚くなってしまった原因やそれを防ぐ方法など多くのことを学ぶことができとても良い機会となった。(加藤 彩人)

今回の和牛甲子園は、会場に行くことはできませんでしたが、リモートで参加することができ、とても嬉しく、とても勉強になりました。コロナウイルスの影響で様々な行事がなくなってきた

したが、高校生活最後の年に和牛甲子園に参加できてよかったです。今後も講評を元に飼育管理して来年リベンジしてもらいたいです。(星 陽南乃)

初めて和牛甲子園にリモートで参加となり会場の雰囲気はわかりませんが、同じ高校生が行っている研究内容などを聞くことができとても良い経験となりました。また、枝肉評価部門で同じ栃木県の矢板高校が最優秀賞を受賞し誇りに思いました。今回和牛甲子園で得たものを後輩に引き継ぎ来年は上位入賞を目指して頑張りたいです。(東原 瑠乃)

自分たちが飼育に携わったひとみ、義君牛の評価が良くとても嬉しかったです。また、他の学校生徒素晴らしい発表を聞くことができ勉強になりました。私が課題研究のテーマがなかなか決まらなかったことを考えると皆さんいろんな研究をされていてすごいいいと思いました。(砂田 萌花)

私たちが、入学した時から育てた、義君、ひとみが和牛甲子園に参加したことで、全国のたくさんの高校の牛をみることができ牛への思いがさらに強くなりました。他校の生徒の皆さんがそれぞれに愛情込めて育てている様子も見るのができ良かったです。後輩たちには来年の和牛甲子園でリベンジできるように頑張りたいです。(谷田部 里菜)

和牛甲子園では、高校1年生の頃に私たちが名付けて、3年間たくさん愛情を注いで育てた義君号、ひとみ号を出品しました。結果はB5、A5で賞は取れなかったことは悔しかったですが、多くの方々においしく食べていただき笑顔になってくれたらとても嬉しく思います。(カンボス アンリ)



和牛甲子園

和牛甲子園に参加して

栃木県立 鹿沼南高等学校



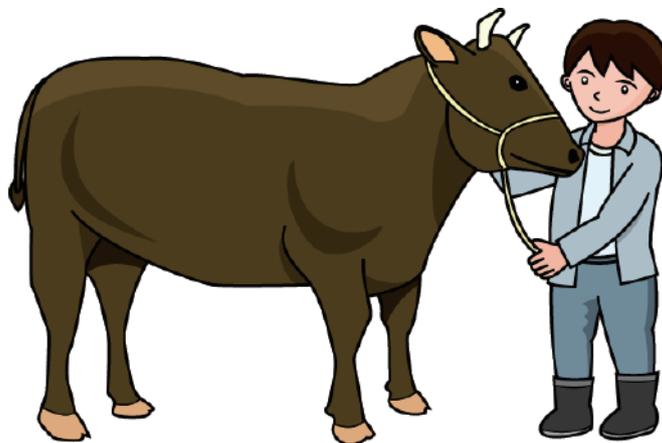
私は初めて和牛甲子園に参加して、どの学校も自分たちの牛を見もらうために飼養管理の工夫をしていることや牛への愛情が深いことが分かりました。そして、他の高校が実施している飼料選択や黒毛和種以外の牛の品種を管理するなど、私たちも挑戦したいことがたくさんできました。また、競りでは、私たちが飼養管理した枝肉は603kgでA5という肉質評価をいただき、とちぎ和牛の匠となりました。競りの時間は、約30秒で1kg単価が3,050円となり、約184万円になったのは、とても驚きました。先輩方から受け継ぎ一生懸命育てた牛だったので、その瞬間は手が震えてしまいました。牛を育てることは、私たちがだけが行っているのではなく、多くの人たちがかかわり出荷され、消費者のもとに届いています。私がかかわる時間は短いかもしれませんが、これからも精いっぱい牛の世話をしたいと思いました。そして、来年の大会に向け、仲間と相談しながら、来年も出荷できるように頑張りたいです。(川口 咲弥)

今回、私は和牛甲子園でよい枝肉の作り方や分かりやすい体験発表の仕方を学ぶことができました。体験発表において肉質向上をするためには、飼料に赤ぬか、クラフトバルブを混合したり、竹粉を使用してサイレージにするなど工夫していることが分かりました。飼料内容を生徒が考え実践している高校もすごいと思

ました。特に、鹿児島県立市来農芸高等学校の発表は、自信に満ち溢れ牛への愛情が深いと思いました。枝肉の競りでは、単価が少しずつ高くなるさまを電光掲示板で見ることができ、「こんなに高く買ってくれるんだ」と手が震えてしまいました。今回の大会では、牛の能力を引き出す飼養管理や体験発表の改善点などを勉強することができました。勉強したことを生かして、来年の大会では入賞できるように頑張りたいです。(山川 巧)

私は、和牛甲子園にオンラインで参加しました。出荷した牛の肉質を見ることは叶いませんでしたが、和牛の肉の評価の仕方について講話を聴くことができ、肉質や脂肪の質などが評価されることを知ることができたことは良かったです。また、牛の外貌と枝肉になってからの評価が違うことも理解できました。私は、畜産部に所属していますが、先生方の指示で餌を与えていたことで満足してしまい、良い牛を育てるという意識は低かったと思いました。今回の大会に参加し、良い枝肉の評価を知ること、「自分たちの力で良い牛を育てたい」と思うようになりました。今後は、部活動への取組の意識を変え、来年の大会には、今年よりも良い肉質の枝肉ができるように頑張っていきたいと思います。(部屋 和己)

私は、和牛甲子園にオンラインで参加することができ、本当に良い経験をすることができました。特に、枝肉評価の講義では、筋肉のつき方、硬さ、脂肪の質など様々な点から評価されていることが分かりました。今の知識では枝肉の評価をつけることはできませんが、いつか自分で枝肉の評価をつけることができるぐらいの知識を身に付けたいと思いました。また、他校生たちの牛への熱量にも驚かされました。私は、畜産部に所属し「楽しく牛を育てられればいい」と思うことで、牛に関する問題や良い牛をつくるという意識が低かったと思います。しかし、今回の大会に参加するために体験発表の説明文章を作成したところ、ホルスタインの共進会や全国和牛能力共進会栃木県予選会への参加、種雄牛候補牛の出荷など様々なことを体験していることを思い出しました。この経験が、次へのステップになるように意識を変え、部活動に取り組み、来年の大会では良い結果をいただけるように頑張りたいと思います。(部屋 光己)



栃木県立 栃木農業高等学校



今回の和牛甲子園は、実際に東京へ行き、参加することができました。そこでは、他県の高校牛児が育てた枝肉を見ることができ、良い経験をする事が出来ました。発表では最優秀賞を取った高校の発表はとても迫力があり、圧倒されました。また、県内、県外の高校牛児と名刺交換やコミュニケーション、写真をとる事ができました。高校卒業後は、県内の肉牛農家へ就職をします。そこで、和牛甲子園や、全共、3年間学んできたことを活かして、経営に貢献していきたいです。（島田 菜穂美）

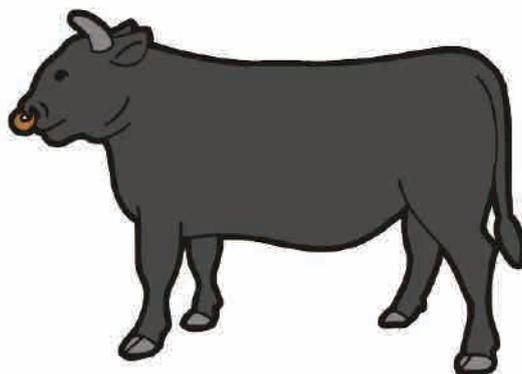
この度第6回和牛甲子園に参加させて頂きました。今年度は現地での開催ができとても嬉しかったです。実際に全国の高校生との交流を行い、和牛に対する熱意や考えに刺激を受け、自分自身が学ぶことができました。また沢山の研究テーマや課題があり、美味しい和牛を作るには労力やコスト、そして時間がかかることを再認識しました。将来は農業関係の教育機関の先生を目指しています。今回学んだことを活かして、和牛の良さを伝えるように日々勉強に励みたいと思います。（藤沼 日南）

栃木県立 那須拓陽高等学校



私の実家では酪農を営んでいますが高校に入学してから初めて肥育管理を学び、和牛にも魅力を感じたため和牛甲子園に参加しました。各校の体験発表会は私が思いつかないようなものが多く、とても勉強になりました。また枝肉を見るのが初めてで、ドキドキしていました。本校の幸紀久3号はローズのサシの入りが荒く賞を取ることはできませんでしたが、良い体験ができました。来年度はクラフトパルプの研究を軸に最優秀賞をとれるように頑張りたいです。（佐藤 寿己）

今年度の和牛甲子園は3年ぶりに品川で開催され、リモートではなく実際に会場へ行き参加することができたため、とても良い経験になりました。特に他県の高校生と交流することができてとても良かったです。私は高校卒業後、酪農学園大学に進学予定ですが、和牛甲子園の会場で同じ大学へ進学する人と交流することができ、友人も多く作ることができました。コロナ禍の3年間で多くのイベントがなくなり、様々な方との交流が少なかった中で和牛甲子園に参加させていただき、とても良い体験になりました。ありがとうございました。（白井 佑典）





和牛甲子園

和牛甲子園に参加して

栃木県立 真岡北陵高等学校



今回の和牛甲子園も私たちの学校はズームでの参加だったので、現地で、私たちが育てた牛の枝肉を実際に見られなかったのが、非常に残念でした。来年は、現地で他校との交流、体験発表、枝肉の見学、セリが見られれば、もっと勉強になるかと思いました。

また、私たちの体験発表、枝肉の入賞はありませんでしたが、来年は入賞できるよう、今から頑張りたいです。（高松 誠）

今回、和牛甲子園に参加することができ、他校の取り組みを知ることができ、大変勉強になりました。リモートでの参加でしたが、レジェンド牛児の講話や体験発表の各校一校丁寧な審査講評などを聞くことができ、貴重な経験ができました。来年は結果を残せるよう頑張りたいです。（篠塚 玄基）

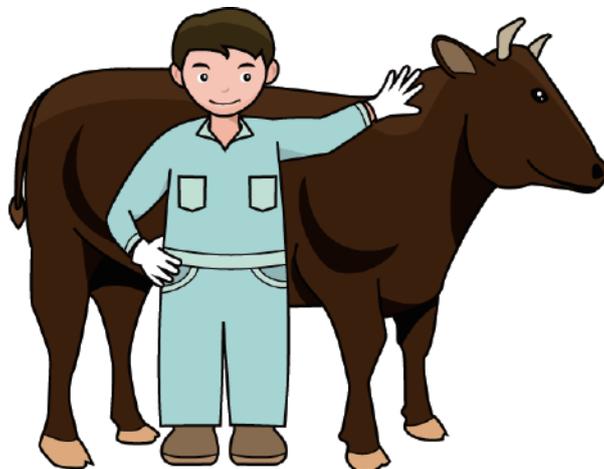
栃木県立 矢板高等学校



今回は生徒を代表して私一人だけの参加でしたが、他校の参加者と交流することができました。牛を愛し、懸命に日々の飼養管理に取り組む仲間が全国にたくさんいるのだと知り、感激しました。

自信はあったものの、最優秀賞に選ばれるなど夢にも思っていなかったのが、驚きと興奮で2日目の記憶がありません（笑）。開催して頂いた多くの関係者の皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。

進学して更に知識と技術を磨き、将来は地域を代表する酪農家になります。和牛甲子園を通してその想いがますます強くなりました。（針生 雄央）



群馬県立 利根実業高等学校



和牛甲子園に参加して、他校の飼育管理や飼料の与え方を知ることができたと共に各校の枝肉を見ることができ貴重な体験をさせていただくことができました。今回出品させていただいた虹翔と飛翔は2頭とも二千元以上で購入して頂くことができとても嬉しかったです。和牛甲子園を通して産業動物とされている動物への感謝の気持ちと牛を育てる大変さ楽しさを感じることができました。次回は最優秀賞を獲得できる様頑張ってください。

(猪熊 雪乃)

高校で和牛と出会い、友人と勉強をしていく中で、和牛甲子園に出場できたことが、とても嬉しいです。全国和牛能力共進会和牛審査競技に出場することもでき、勉強すればするほど牛に関わる人の多さと情熱を感じることができました。私は高校卒業した後は、就職することが決まっていますが、和牛のことに注目して、他の銘柄牛のブランドなどを調べて、上州和牛の普及に協力していきたいと考えています。今回は、このような機会を与えていただき、ありがとうございました。

(大澤 柚香)

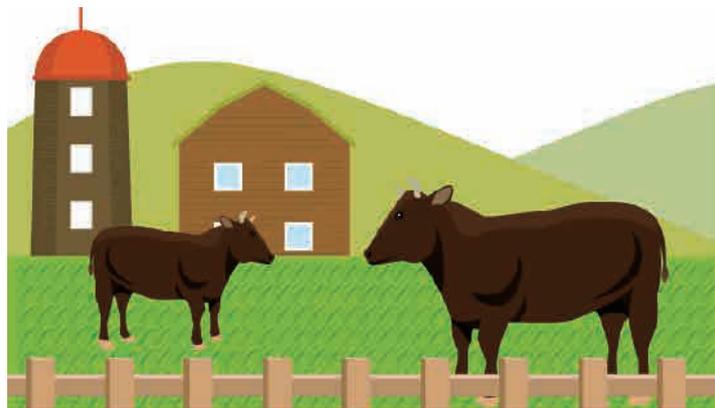
2日間の和牛甲子園に参加して、参加している全員から和牛への愛が溢れていて楽しむことができました。取組評価部門受賞者の発表では、どの学校の発表も、作成者の熱意が伝わる内容で、スライドも見やすいものばかりで圧倒されました。

自分の学校の牛がA4等級となってしまったこと、奨励賞をいただくことが出来ましたが、入賞できなかったのは悔しかったですが、貴重で素晴らしい経験をする事が出来ました。後輩には利根実の和牛が賞を貰えるように頑張ってください。

(臺目 香果雅)

和牛甲子園に参加するに当たって、飼育体験発表動画を撮影する時に、新型コロナウイルスの影響がでてしまい、あせりと期待と不安の中、なんとか撮影することができました。和牛甲子園二日間は、あっという間に時間が流れ、充実した時間を過ごすことができました。また、全国の高校牛児との出会いも楽しかったです。これまでに多くの方に協力していただき、出場できたことはとても感謝しています。コロナ禍の中で、よい思い出の一つとなりました。

(田川 遥果)





和牛甲子園

和牛甲子園に参加して

群馬県立 吾妻中央高等学校



初めての参加でしたが、他校の取組内容や枝肉の評価を知ることができ、大変貴重な経験となりました。入賞は逃したものの努力をしてきた過程は決して無駄ではないと思っています。ただ、リモートでの参加だったため、他校の方々とあまり交流が出来ず残念でした。このコロナ禍の中、画面越しで手を振り合うだけでもとても嬉しく感じました。将来は畜産の道から離れ、建築の道に進みますが、努力を怠らずに挑戦していきたいです。

(二口 心寧)

初出場でリモート参加だったため、当日は不安でしたがリモートで参加している他校の方に手を振ったら手を振り返してくれたのでとても嬉しかったです。また、和牛甲子園に参加したことによって枝肉について無知だった私が少しでも知識を付けられたので参加して良かったと思いました。

私は将来、畜産分野に進むかは考え中ですが、動物関係の仕事には必ず就きたいと考えているので和牛甲子園で学んだことを生かしてこれからも頑張っていきたいです。(狩野 千亜希)

今回和牛甲子園に初めての参加でした。取り組み発表や枝肉勉強会など普段できない貴重な体験をすることができました。特に枝肉部門では、知らないことが多かったので良い肉の見方や脂肪の状態などを勉強する事ができたので良かったです。最優秀賞の矢板高校の枝肉も見せてもらいましたが他のものと比べ圧倒的に重量がありレベルの高さを思い知らされました。自分の高校も来年度初出品となるのでとても参考になりました。

また、レジェンド牛児の先輩方のお話も畜産関係の進路を目指している身としてはとても参考になりました。自分は3年なので来年はありませんが、後輩たちに頑張ってもらいたいです。

(高橋 尚汰)

和牛甲子園では、先輩たちの発表練習の手伝いやビーフカレーの販売所の写真を一緒に撮ったりしました。大会はリモート参加でしたが、全国各地の高校牛児たちの取組内容や和牛の評価について知ることができ、いい勉強となりました。また先輩たちとする最後の行事に参加することができ、良い思い出ができました。

(小池 明美)

和牛甲子園でさまざまな高校の取り組み発表を見て、来年は私たちが発表をする立場となるため参考になりました。今まで和牛は食べることでしか関わらなかったため、初めは和牛に興味はなかったけど、お世話をしていくうちに愛着が湧いてきました。

将来は、動物や農業とは全く違う道に進もう思っていました。やっぱり動物とも触れ合っていたいなど改めて感じました。

(須藤 美咲)



神奈川県立 中央農業高等学校



和牛甲子園には1年生の頃から参加させて頂いており、1,2年時は先輩のお手伝いという形でした。今回は自分達を中心となって研究内容や発表の構成をしていく中で難しさを感じました。

取り組み評価部門では優良賞を、肉質評価部門では賞をもらうことはできませんでしたが、A5ランクを獲得することができ、自分達が考え取り組んできたことが評価されたのだと、とても嬉しく思います。

また、今年は実開催ということもあり他校の生徒との交流や大人数の前での発表など様々な体験ができて良い経験になったと感じています。来年、再来年と後輩達にも頑張らせて欲しいです。

(石田 知颯)

今回、和牛甲子園を通して会場での雰囲気や、枝肉を生で見ることができ、自分にとって大変貴重な体験ができたと感じています。自分たちで仔牛の頃から、肥育してきた牛がこんなにも大きくなったのかと実感すると同時に、他の学科ではもっと大きな肉牛がいたり、肥育の取り組み方法にも様々なものがありそのような事を実際に感じることでできとも勉強になりました。また、他の農業高校の生徒の方々と交流することもでき新鮮でとても楽しかったです。

(女屋 メイ)

1年生から参加している和牛甲子園、3年生の最後の年に、願っていた高校牛児と顔を合わせた開催になりとても楽しかったです。私たちが入学した頃に生まれ、たくさんの時間を共に過ごしたなのは号と、切磋琢磨してきた仲間達と共に賞をいただくことができ、とても嬉しい気持ちでいっぱいです。後輩たちには今回の和牛甲子園で学んだことを活かし、私たちの代で取る事の出来なかった枝肉評価部門での入賞を目指して欲しいと思います。

(高木 櫻子)

和牛甲子園には牛と学んできた三年を懸ける思いで取り組んできました。一年生の夏に会って、それからずっと一緒に過ごしてきたつばとなのは、語りきれない思い出がある二頭です。そんな二頭は本校で始めてのA5ランクを取って帰ってきて、優良賞まで頂いて。仲間たちと、先生と、牛たちと、高校で過ごした思い出深い三年間の最後にこんな経験が出来て、本当に嬉しい思いで胸がいっぱいです。和牛甲子園を目標に駆け抜けた、短くも濃い三年でした。本当にありがとうございました。(濱野 優希)

今回の和牛甲子園では取組評価部門で優良賞をとることができ、今まで行ってきたことがすべて報われたようでとても嬉しいです。後輩たちには、講評で言われたことを参考に優良賞にとどまらず、さらにいい取り組みを行ってほしいです。枝肉評価では入賞することはできませんでしたが、A5ランクをとることができとても安心しています。今回の発表、活動で経験したことは今後の人生の糧になると私は感じています。(矢原 碧海)

今回初めて会場に参加させていただき、他校の皆さんのやる気や緊張感を感じて、とてもレベルの高い発表や枝肉を見て刺激を受けました。特に枝肉はどの高校のも大きくて立派で迫力があり感動しました。今年は先輩がたが優良賞を取っていたので先輩方に負けないように来年、さらにいい賞とA5の12番を目指して日々肥育に取り組みみたいです。(伊澤 幸花)

私は前年はウェブ開催だった為、今回初めて実会場に足を運んで参加することができてとても新鮮な気持ちでした。2日目の枝肉見学では枝肉の迫力に驚きました。また出荷した自分の学校の牛が見事A5ランクを獲得することが出来て涙が出る程嬉しく、感動しました。来年度の和牛甲子園では先輩方に負けないように取り組み部門、そして枝肉部門共に入賞できることを目指して今から全力で肥育に取り組みしたいと思います!(関 菜々子)

実際に全国の高校牛児に会い、発表をきいたり、交流したことによって、牛にかける思いや和牛甲子園のレベルの高さを身に染みて感じる事が出来ました。また、同じような思いで日々牛と向き合っている人が全国にいることを改めて感じ「和牛甲子園で入賞できるようないい牛をそだてたい!」とさらに強く思うようになりました。取り組み評価部門優良賞という素晴らしい結果を残してくださった先輩方を越えられるようこれからも頑張ります!

(宗政 小陽)

私は今回初めて和牛甲子園に参加しました。初めての他校生との交流ということで少し緊張していましたが、たくさんの農業高校生がいることに少し感動しました。体験発表会動画では取り組んだことだけではなく発表の仕方も学校によって工夫がありとても勉強になりました。初めてと場に入り枝肉を見て思っていたよりもはるかに大きく迫力がありました。またホルスタイン種と黒毛和種を掛け合わせた枝肉もありすごく興味を持ちました。

(石塚 実尋)

まだ1年生で和牛についてまだまだ知らない事も多かったですが、他校との交流もあり、他の学校がどのような事を行っているのかを知ることができとても勉強になりました。また、自分の先輩達が日頃の牛の世話をしている姿を見て今までどのような取り組みを実施していたのかを、発表している姿がとてもかっこよく感じました。普段見ることのない枝肉も実際に見ることができ、自分達が育てた牛がこんな姿になってせりに出され、普段私たちの食卓に出されてるんだなと思い、より命の大切さやありがたさを感じました。改めて牛への想いが強くなり、これから牛についてもっと学び実際に牛と関わって、色んな事に挑戦し一生懸命頑張っていきたいと思います。(土佐 道香)





和牛甲子園

和牛甲子園に参加して

富山県立 中央農業高等学校



今回、和牛甲子園が現地開催されることとなり、高校に入って牛を育ててきて自分の高校の牛が結構大きい方だと思っていたのに、東京食肉市場で参加校の枝肉になっているところを見て中農の牛はとても小さいのだと気が付きました。和牛甲子園に参加して色々な高校の人と話したりしてその高校がどのようにして牛の飼育を行っているのかなど互いの高校のことを話したりしてとても勉強になりました。

(中田 歩夢)

私が今回和牛甲子園に参加して良かったことは、一生懸命育ててきた牛がA5のBMSNo.9という結果が出て「酒粕育ち」を名乗れるということです。また、他の農業高校の牛の飼養方法なども聞けることができ興味が増えました。今回入賞は叶いませんでしたが、来年の和牛甲子園の開催までに念入りに肥育し、枝肉重量が500kgを超えることを目標としていきたいです。

(金山 大介)

今年の和牛甲子園を通して、牛という生き物に対する愛情がさらに深まったように感じました。特に肉牛は、私たちが普段口にしている牛肉を生産してくれています。そのため、鎮魂と感謝の意を込め、ウシのためにも改めて、今後お肉を残さず食べていきたいと強く思いました。私の将来の夢は、乳や乳製品を生産する酪農家になることですが、今回の甲子園を通して肉牛のよさを知ることができて良かったです。

(田之岡 晴輝)

和牛甲子園に参加するのは二回目でした。現地開催となる今大会は、過去最多の40校の参加があり、とても大会が盛り上がりました。どの発表もとても素晴らしく、自分たちに足りなかったことや牛舎の改善点がたくさん見つかりました。このことは、後輩の畜産専攻生に受け継ぎ、次回の和牛甲子園に役立ててほしいと思います。今年の出品牛は枝肉重量が軽かったことが悔しいですが、それでも無事にA5を取ることができ「酒粕育ち」に認定されたので、とても嬉しかったです。

(三浦 颯真)

岐阜県立 大垣養老高等学校



第5回の和牛甲子園をオンラインで視聴し、私もこの大会に行きたい、みんなに今回の出品牛の「優季」号と「ひまり」号を見てほしいと思い、今までよりも熱心に取り組むことができました。総合評価部門の発表の時、まさか呼ばれると思っていなかったのが驚きました。ステージにあがった時も頭の中は真っ白でした。優勝旗をいただいたとき、やっと、最優秀賞をとれたという実感がわきました。和牛甲子園を通して、様々な方と関わり、牛を育てるやりがい、難しさを知り、全国の農業高校生と交流することができました。先生方、肥育班のみんな、「優季」号と「ひまり」号に出会えて本当に良かったです。

(川島 弓子)

岐阜県は大垣養老もすごいんだぞ！と全国に名を知らしめた瞬間でした。先輩方から譲り受けてきた「優季」号と「ひまり」号。名前を呼ぶと、重たい体を起こして、一生懸命に歩いてこちらによってきた2頭。私たちが共に高校生活を歩んできた大切な子たちです。表彰されているときは今までの日々の活動が頭の中によぎり、感動で胸がいっぱいになりました。岐阜に戻ってから、出品したお肉を食べました。とろけるような質の良い脂を口に、「私たちの飼料設計の効果かな…」なんて思いながらいただきました。今まで食べたものの中で1番おいしかったのは、私たちが育てた「飛騨牛」です！と自信を持って言えます。そして、第7回となる和牛甲子園では、かわいい後輩たちを卒業生として心から応援します。

(栗田 煌斗)

朝、学校の牛舎に行くと、必ず牛の健康観察、ブラッシングをしている先輩の姿がありました。放課後も牛舎に来て、自分たちの牛の管理を毎日欠かさずに行っていました。もちろん、休日の日も欠かさずに牛舎に来ていました。自分たちの牛をより良くしようと思った毎日の努力の積み重ねが実を結び、枝肉評価部門で優秀賞、総合評価部門では最優秀賞を獲得しました。エコー検査の結果や地域の畜産農家の方々に出品牛の「優季」号、「ひまり」号を見てもらった時の評価を聞いて、枝肉評価部門では入賞できると確信していました。しかし、総合評価部門で最優秀賞をとれるとは思っていませんでした。これが正直な感想です。

(鈴木 聡)

岐阜県立 加茂農林高等学校



私の将来の夢は自分の牧場を持つことです。その夢のために今回出場させていただき、とても良い経験になりました。

特に、枝肉の解説を聞くことができ、これからは生かせることばかりで充実した2日間でした。また、普段はあまり関わることのない、和牛を飼育している他校の生徒とも話すことができて良かったです。

今回の和牛甲子園で良い枝肉を見ることができたので、このような牛を肥育できる農家を目指して努力していきたいです。

(松永 蒼羅)

和牛甲子園に参加して、全国の高校で様々な取り組みが行われており、興味深い内容がたくさんありました。私は進学しますが、進学先でも生かせる内容が多くありました。

本校の出品牛は2頭ともA4でした。もっと良い牛に肥育できるよう今後も学習に励みたいと思います。今後は、進学先で学んだ内容を後輩にも伝えていきたいです。

(安江 壮史)

岐阜県立 飛騨高山高等学校



今回3年ぶりに現地で和牛甲子園が開催されたことで、他校の生徒と直接交流することができたので嬉しかったです。発表では多くの学校がSDGsや地域の小中学校と関わった研究をしていたことが印象に残っています。

枝肉は近くで見ることができず残念でしたが、モニター越しで

は有りましたが他校の枝肉も見ることができて、自分たちの和牛飼育の課題等を知る良い機会になりました。今大会で得た成果・課題を後輩たちに引き継いでいきたいです。

(田口 朝菜)

今回の和牛甲子園に参加して思ったことは3つあります。1つ目は、この和牛甲子園という舞台で私達の研究を知ってもらえたことです。自分達の研究に自信をもっているのが、本当に良い機会となりました。2つ目は他の高校の方の取り組みを見ることができたことです。3つ目は他の高校の方と交流ができたことです。名刺交換し、つながりができたことがとても良い経験となりました。

(三田 理央)

コロナ渦の中、入学当初から他校との交流ができていなかった私達にとって初めて同じ年の高校生が3年間取り組んできた取り組みをみる機会になり、自分たち以外の高校のレベルの高さに驚きました。1校1校が愛情を込めて牛を育て、熱意をもって研究に取り組んできた姿を見て良い刺激になったし、将来同じ畜産関係の仕事に就くであろう仲間たちに負けたくないよう頑張ろうと将来の目標ができた人生の良い思い出になりました。

(上田 航大)





和牛甲子園

和牛甲子園に参加して

愛知県立 渥美農業高等学校



これまでの和牛甲子園は、オンラインでの開催でしたが、最後となった今年の和牛甲子園では、実際に品川に行くことができ、本当に嬉しかったです。取組評価部門では高校牛児特別賞、枝肉評価部門では審査員特別賞をいただくことができ、どちらも驚くと共にとても嬉しかったです。取組評価部門については、過去最多となる40校からの出場となる今大会で、どの学校も素晴らしい発表をしていた中で、私たちの発表を選んでもらえたことに驚きました。枝肉評価部門については、事前の肉質診断ではわからない部分で評価をいただき、取組評価以上に想定外の結果でした。3年間、和牛甲子園を目指すことができよかったです。卒業後、私は畜産からは離れた道に進むこととなりますが、来年の後輩たちにも、頑張っていってほしいです。(清水 梨里菜)

昨年は、先輩たちの努力が実り、総合評価部門で最優秀賞をいただくことができました。とても嬉しかった一方で、とても大きなプレッシャーとなりました。今年の大会は参加校も過去最多となり、入賞は難しいと考えていたため、2つの特別賞をいただけたことはとても嬉しく、ほっとした結果となりました。優秀な先輩と、優秀な後輩に助けられた和牛甲子園でした。来年は、もっと良い賞をいただけるように頑張ってもらいたいです。

(得丸 大心)

昨年から和牛甲子園に参加し、今年の大会を経て、確実に大会全体のレベルが上がっていると感じました。取組評価では、地域ごとの和牛肥育のレベルの高さと、それを自分たちの活動に落とし込む方法など、考えさせられるような内容ばかりで勉強になりました。また、実開催となったことで、全国から集まった高校牛児と交流を深めることもでき、とても貴重な体験でした。驚くことばかりで、学びが多い第6回大会となりましたが、来年の和牛甲子園は私たちにとって最後の大会となります。全てを出し切って終わるように、今大会での反省を生かしてこれからも頑張っていきたいです。

(奥田 里紗)

今年度は、後悔が大きい結果となりました。「もっと発表練習をすればよかった」「牛にもっとブラシをかけてあげればよかった」と、大会までのこれまでの時間を思い返すと悔しい気持ちになりました。それでも、両部門で賞をいただくことができました。全て、今回出品したみお号ともも号のおかげです。次の和牛甲子園では「牛も、私たちががんばった！」と自信を持って思えるように、今回の悔しい気持ちを忘れることなく、進んでいきたいです。次の大会では、特別賞ではなく、しっかりと実力で入賞することを目標に頑張っていきます。

(稲垣 帆風)

滋賀県立 長浜農業高等学校



和牛甲子園へは前から来たかったので来てとても良かったです。惜しくも入賞はできませんでしたが、初めて見聞きすることも多くあって大変勉強になりました。東京食肉市場に行った際、枝肉のセリを初めて見ました。枝肉がつり下げられて次から次へと流れてくる光景は圧巻でした。また本校の枝肉のBMSが12点ついたのはとても嬉しかったです。

今回の大会は3年生だけで行きました。自分たちの目で見て感じた枝肉を2年生に伝えるのはかなり難しいと思います。2年生

も参加する中で、2年生自身で見てどのように改善すると良いのかを考える機会にもなればと思います。

(大森 悠誠)

今回初めての和牛甲子園に参加してみて、他道府県からたくさんの方々が来て、みんなプレゼンがとても上手でした。それに、クラウドファンディングやおからの飼料としても導入など、自分たちの高校では出来ないようなことに取り組んでいてとてもすごいなと思いました。

自分たちは今回、入賞することができませんでした。でもBMSとオレイン酸の数値はとても良い結果になりました。あとは枝肉重量を増やせば入賞できる可能性はとても上がったと思います。

今回は、とっても面白く、ためになった話が多く、とても良い勉強になりました。ありがとうございました。

(徳田 大海)

初めて参加をし、大変勉強になりました。1日目の体験発表を聞いていて、やはり皆、現在の畜産業界の事情を考え、エサに着目して取り組んでいることがわかりました。中には地域の小中学校で肉を提供する学校もあって、正しい食の情報を広めたい意志を強く感じました。2日目の枝肉のセリも興味深かったです。この共励会で「優良」の評価を受けていなかった学校の枝肉が1kgあたり4,000円台を出したりしていたので、肉質にだけでははかれないところでいっぱい努力をされたのだなと思いました。

(儀貝 誠生)

京都府立 農芸高等学校



僕は3年間「和牛甲子園」を目指し、「直久隆」号と頑張ってきました。出荷前はすごくドキドキして、どんなお肉になっているのだろうと不安と期待でいっぱいでした。結果こそ入賞とはなりませんが、ここまで取り組んできたプロジェクトや、直久隆やほかの和牛と過ごしてきた高校生活は僕にとって宝物です。後輩たちには今回の結果を超えてほしいと思います。

(松島 実音)

3年間努力してきたことが、取組評価部門「優良賞」という結果につながって、達成感を感じ、畜産というものがより好きになりました。

しかし、自分たちは総合評価で最優秀賞、三冠を本気で狙っていたので悔しさも学びました。後輩たちには自分達よりもいい結果を残して欲しいので、頑張ってください。(荒井 遼雅)

目指していた結果通りにはならなくて悔しい思いをしました。優良賞という結果が残せたので良かったです。和牛甲子園を目指してやれることは全てやったと思っていますので、この活動のすべてが思い出です。色々な経験が沢山でき、そこから得られるものが沢山ありました。和牛甲子園という大会に感謝していますし、東京に行けたこともいい思い出となりました。

(竹田 陸人)

直久隆と畜産流通コース8人みんな揃って大会に挑めて嬉しかったです。また、大会では他校の様々な取り組みを見ることができ、とても良い経験になりました。会場に進学先が同じ人も数人いたので、親交を深める良い機会になったと思います。この経験を活かして、今後も目標をもってがんばってまいります。

(岸本 竣)

「和牛甲子園で最優秀賞を目指そう!」。この言葉を1年次に聞き、最初は戸惑いもありましたが、この言葉が、結果として、私の高校生活の原動力になりました。初出場で優良賞に入れた事が自信となり、チャレンジすることの楽しさを知ることができました。3年間頑張ってきて良かったなと思いますし、枝肉となつた直久隆を見て、「努力の結晶」だと感じる事ができました。

(富田 沙織)

島根県立 出雲農林高等学校



私は和牛甲子園に参加して私たちと同じように和牛のために青春を捧げた高校生たちがこんなにも多いのかと驚きました。コロナにより行動を制限されてきた高校生活で初めて県外の高校生と交流し意見を交換した時間は、畜産に対しての新しい考え方を与えてくれる大切な時間になりました。参加しただけでなく、出品した百合久坊号が優良賞を獲得し和牛甲子園の歴史に名を刻めたことは私たちの大きな自信につながりました。この経験を生かし、将来に役立てていけるようにこれからも努力していきます。

(石飛 結衣)

和牛甲子園に出場して、1番に感じたのは他県のレベルの高さです。どの学校も和牛甲子園に向けて取り組んできた内容を発表しており、とても勉強になりました。2日目の東京食肉市場において出品した百合久坊の枝肉を見ました。サシがきれいに入っていて美味しそうな牛肉になった姿を確認出来て良かったです。百合久坊は他校の牛と比べて皮下脂肪が薄く、枝肉のバランスが良いのが分かりました。そして今回の和牛甲子園の枝肉部門で優良賞を獲得する事が出来ました。この大会を機に、少しでも畜産に興味を持ってくれる人が増えたら嬉しいなと思います。

(大野 麻央)

私は和牛甲子園に参加し、他校の取り組みのレベルの高さに衝撃を受けました。どの高校も地域や牛のために様々な工夫を凝らした取り組みで、とても勉強になりました。また、私たちが出品した百合久坊は枝肉評価部門において優良賞をいただくことができました。喜びとともに大きな達成感を感じることができました。今回学んだことを生かし、これからも畜産業の発展に向けて頑張っていきます。

(津森 日和)





和牛甲子園

和牛甲子園に参加して

岡山県立 瀬戸南高等学校



私は、和牛甲子園への参加は今大会が初めてで、前年の先輩方が取り組まれていた"ぬか床"を引き継ぎました。先輩方の課題から尿結石に気をつけ、基礎的なことに力を入れ、取り組みました。取組発表では、残念な結果に終わりましたが、今考えると他の高校牛児達の取り組みなど聞けて貴重な機会であり、勉強になりました。そして、出品牛を出荷する数日前に、出品牛が体調を崩してしまい、出品を断念することになりました。出品できなかったのは残念でしたが、先延ばしにした出荷日まで手をかけて育てることができている今、とても良い思い出となっています。

先輩方に比べると私が経験できたことは少ないかもしれませんが、卒業後も牛に関わる職に就く私にとって、とても価値のある経験させて頂きました。後輩たちには、研究の引き継ぎとか、成功や失敗などの結果にとられず、自分たちが研究したいことをとことん研究して欲しいと思っています。そして、他の高校牛児たちとさらにレベルの高い大会を築き上げられるよう、互いに力を伸ばして欲しいと思います。(勝山 沙央里)

今回の第6回和牛甲子園に参加して感じたことは、最初はどうすれば良い枝肉が作れるか、受賞するような意見発表をするには、どのような伝え方、話し方、資料の作り方など、悩むところが多々ありました。

本校の取組発表の撮影で感じたことは、ネット上に残る動画のため、部屋の響きと映像の映し方や人の移動の仕方、役割と色々協力しながら考え、何度も練習を重ねました。練習の中では嫌になることやめんどくさいと思うこともありましたが、撮影終了時の達成感ややり切った感があり、仲間と共に嬉しい感情を分かち合いました。

そして、大会直前に先生から突然の報告がありました。それは出品牛の体調不良でした。その報告を受けたときは悲しい感情と悔しい感情がありました。そのような中、甲子園当日になりました。本校はオンラインでの参加で1日目は個人的な用事のため参加ができませんでした。2日目は他校の枝肉の評価も聞け、今後の参考になりました。枝肉の評価ポイントやさしの入り具合、赤身の状態、重量などの専門用語なども学びました。

今回の甲子園では体験発表と和牛出品を完璧にして、入賞を目指したいです。(神田 陸)

初めて和牛甲子園へ参加して思うことは、他校の発表を聞いてみると、それぞれの地域の特性を生かした研究で、とても勉強になりました。発表方法もとても堂々としていて、声の強弱や表現力が素晴らしい高校がたくさんあったので、ぜひ今後の参考にしたいと思いました。

私は今回の取り組み発表の中では、あまり関りを持ってなく、先輩からの引継ぎの役割が大きかったのですが、実際に参加して和牛甲子園がどのようなものか知れて良かったと思います。次の取り組みには、今回の経験と得たことを活かせるよう頑張っていきたいと思いました。(島村 優奈)

広島県立 西条農業高等学校



私たちの高校は和牛甲子園4回目の出場で、今年、出品牛2頭の中総合部門での最優秀賞を目指してこの研究に取り組んできました。

結果、総合部門での最優秀賞には入れなかったものの、この研究には誇りを持っています。また、全国の農業高校の研究内容を知ることができ、とても勉強になりました。

来年の和牛甲子園では総合部門での最優秀賞獲得に向けてより一層頑張っていきたいと思っています。(小林 佳奈)

今回の研究は今までの課題を解決できるように先輩方の研究を引き継いできて、自信があった研究内容でしたが取り組み評価部門で最優秀賞を取ることができなくてとても悔しかったです。

今後の研究ではもっと素晴らしい内容の研究を行って、総合部門で最優秀賞を取れるようにより一層気を引き締めてこれからも頑張っていきます。(徳永 心香)

山口県立 大津緑洋高等学校



和牛甲子園に出場して、多くのことを経験することができました。特に、「ちろるみどり」がセリにかけられるところが印象に残っています。単価が2,400円と平均くらいの価格で少し悲しかったけれど、おいしく食べてもらえたらいいなと思いました。全国の和牛を育てている高校生と交流し、普段の学習の様子を知ることができて楽しかったです。高校生活の最後に、いい思い出になりました。

(木本 美佐希)

和牛甲子園に出場して、多くのことを経験することができました。特に「ちろるみどり」がセリにかけられるところが印象に残っています。単価2,400円で前回と同じくらいの結果でしたが、念願のA5ランクという成績を残せて嬉しかったです。一年間「ちろるみどり」の飼育を頑張ってきたと思います。普段、経験できないことも数多く経験でき、とても貴重な時間を過ごすことができました。

(寺戸 愛陽)

和牛甲子園に参加し、多くの気づきと学びがありました。二年八カ月ともに過ごした「ちろるみどり」に「命をつなぐ感謝の気持ち」を教えてくださいました。ご指導いただいた先生方、一緒に学んだ仲間にも感謝しかありません。A5ランクと格付けされた「ちろるみどり」は最高に美味しいお肉でした!!この味を忘れることなく、これからも「和牛道」を突き進みたいと思います。

(西山 陽菜)

私は、和牛甲子園に参加することで多くの人に笑顔を届けることができたと思う。私たちが育てた「ちろるみどり」の肉が山口県内のスーパーで販売されていた。その肉を、お客様が笑顔でカゴに入れる姿を見て私も幸せな気持ちになった。「ちろるみどり」を育てるうえで多くの苦勞をしたが、育ててきてよかったと思えた。卒業後は畜産とは別の職に就くが、和牛甲子園をはじめ、多くのことを体験できたので、今後に生かしていきたい。(松田 翔大)





和牛甲子園

和牛甲子園に参加して

佐賀県立 唐津南高等学校



取組部門では、他校がどのような取り組みをしているかを知る良い機会になりました。「地元」を活かした活動内容、科学的根拠を研究し、それに基づき自分たちなりに研究していくことは、初めてのことで挑戦していく大切さを学びました。枝肉部門では評価の高い枝肉を見ることができ、説明してもらえたことでいい経験になりました。今回学んだことを今後の活動に活かしていきたいと思いました。(宮崎 小雪)

和牛甲子園に参加して、たくさんの学校がいろんな活動をしていることを知ってすごいなと思いました。取組部門での発表では、その地域の特性を生かした活動や、その結果を出しているすごいなと思いました。発表の仕方なども色々工夫されているところもあって、とても聞きやすかったです。枝肉評価部門では評価の高い枝肉の説明を詳しく聞けて良かったです。これからの活動に取り入れられるようになりたいです。(高木 みなみ)

今回の和牛甲子園で私たちが参加したのは3回目になりました。毎年いい牛をどこの農業高校さんも出荷されていると感じました。また、他の高校の人たちがどのような取り組みをされていたかがよくわかりました。私たちの牛は、賞は取れませんでした。とてもいい牛を育てることができました。この体験をこれからの人生に活かしていきたいと思います。(伊藤 慧)

和牛甲子園はで自分たちで愛情込めて育てた牛を評価いただき、頑張ってきたことが結果として出てよかったです。また、最優秀賞の学校、その他多数の学校が出品されている牛や、各学校の取り組みはどれも素晴らしく感銘を受けるものばかりで大変勉強になりました。2年間畜産に携わることができてよかったです。(井上 真歩)

和牛甲子園に出場したことで他の高校の牛などを見ることができ、またとても大きい牛も見ることができると、面白かったです。難しい話もあったけれど、更に牛たちのことについて知ることができました。1年生のころからリモートで参加してきました

たが、3年生になり自分たちの番になったことで学んだことが多かったです。また命のありがたさを改めて実感しました。とてもいい経験ができました。(立川 詠楽)

自分は今回の和牛甲子園で全国のレベルの高さを感じました。出荷した歩美は体重があまり乗っていませんでしたが、血統が良かったので賞は取れると思っていました。実際は全国のレベルは高く、入賞できませんでした。しかし、A5ランク・BMS12という最高の肉に育ってくれてよかったです。悔しい気持ちと嬉しい気持ちを味わった和牛甲子園でした。将来は佐賀牛になるような牛を育てたいです。(谷河 伶音)

今まで2回先輩たちの和牛甲子園を見てきて、今回初めて自分たちが出場しました。2年前から牛を可愛がってきました。結果はA5・BMS12でした。体重は少し軽かったです。肉質はよかったです。嬉しかったです。これからも後輩たちに頑張ってもらいたいです。(早瀬 圭悟)

1年生のころから和牛甲子園を見てきて、今回3年生になった自分たちの牛を出すことになりました。最初はあまり大きくなかったですが、和牛甲子園に出すときは大きくなり、病気になる回数も減ってきて嬉しかったです。結果はA5・BMS12という素晴らしい結果で嬉しかったです。しかし、賞が取れなかったのが残念でした。次は後輩たちに頑張ってもらいたいです。(平田 賢介)

今回の和牛甲子園はリモートでの参加でしたが、せりの動画がなく、とても残念でした。今回は話を聞いているだけだったのでもっとリモートの方にも楽しめるようにしてほしいです。自分たちの牛はA5・BMS12ととても高い肉質で、入賞も狙えるかと思いました。しかし、体重とのバランスがとれておらず、逃してしまいました。来年は南高の牛が入賞できるように、ぜひ後輩たちに頑張ってもらいたいです。(牧山 怜生)

歩美くんがA5・BMS12で最高ランクだったので、基本管理をずっと頑張ってきてよかったなと思いました。栃木県や鹿児島県が多く賞を取っていて、やはり朝から夕方まで牛を世話し、肉質や品質を良くするために研究しているところがすごいなと思いました。将来は和牛甲子園出場や南高で基本管理を経験したことを活かしながら、動物に関わる仕事に携われるよう専門学校で頑張りたいです。(新 佳恋)

今回の和牛甲子園に自分たちの牛を出場させてみて、子牛のころから胃腸が弱く常に軟便で、更に毎年皮膚病を発症するくらい体が弱く、今年も不安でしたが、早期発見早期治療に努めたことで、大きく成長し、体調も改善してくれました。そして心配なく出荷することができ、肉質も最高ランクで評価してもらえたので良かったです。次は入賞できるように後輩の牛たちにも頑張ってもらいたいと思います。(川口 心平)

長崎県立 諫早農業高等学校



私たちの学校は今回で3回目の出場で、今年こそは「A5」をというプレッシャーと、また全員が運動部に所属していたこともあり、牛の肥育と部活動の両立という点でとてもたいへんでした。無事に「A5」を取れたことでお世話になったたくさんの方々に恩返しのできたことをとても嬉しく思っています。今回の貴重な経験をこれからの進路に生かしていきたいと思っています。

(藤田 理)

私が入学した当初に生まれた「息吹」は、体重840キロで和牛甲子園に出場しました。最高の肉質の評価を受け、私は「息吹」のことを誇らしく思いました。「息吹」は杵ノ川酒造さんの酒粕が大好きで、ケガをして殺処分が検討された時も、体重減少を最小限に抑えることができました。「息吹」はたくさんの人の愛情と想いを受けながら飼育されました。和牛甲子園での貴重な経験を通して、私たちは大切な命をいただいて生きているんだと改めて実感しました。

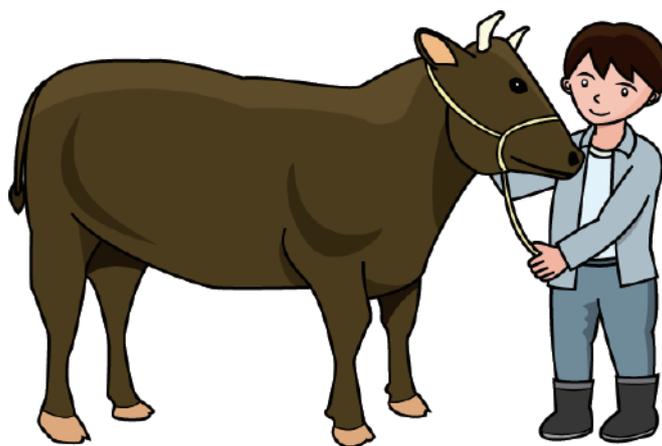
(木下 愛海)

今回は和牛甲子園に出場してとてもいい思い出や経験ができました。私は卒業後、牛関係の仕事に就く予定はありませんが、和牛甲子園を経験して、将来的には牛をするのもいいなと思いました。今回は目標の「A5」ランクを取ることができ、とても嬉しかったです。今後も後輩たちが「A5」ランク受賞を目標として頑張ってほしいものです。

(上野 優羽)

今回初めて和牛甲子園に出場して、肥育についてたくさんのことを勉強させていただきました。私は将来、肉用牛の繁殖肥育の一貫経営をしていくので、今回和牛甲子園に出られたことはほんとうによかったです。この経験を将来に活かしていきたいです。卒業後は農業大学校に進学してさらに実践的知識や技術を学び、長崎県の肉用牛の担い手として頑張りたいと思っています。

(吉崎 蒼太)





和牛甲子園

和牛甲子園に参加して

熊本県立 南稜高等学校



今回、和牛甲子園に参加して得た一番の収穫は、他校の皆さんの取組みを学べ、自分たちの取組みと比較できたことです。給与する飼料の工夫は私たちも考えましたが、その給与量の決め方や提供元との連携方法、データの採取方法など、勉強になることばかりでした。私は、卒業後は酪農家の従業員として牛に携わります。出品した2頭と過ごした日々を忘れずにいたいのです。そして、早く仕事を覚え、農場の中核を担う人材になりたいです。

(谷口 朱里)

参加者全員が、本当に牛が好きなのだということが強く伝わる大会でした。出荷するまでにそれぞれの学校が「自分たちの大切な牛を、よりよく育てたい」と思っていることが分かりました。黒毛和牛の肥育と、SDGsの実現には距離があるように思います。しかし、エコフィードの活用や敷料の節減など、身近に取り組みめることも多くあることを学びました。入賞できなかったことは残念ですが、これまでの取組みを後輩に引き継いでいきたいです。

(黒木 樹里)

取組み発表で入賞していた学校のプレゼンテーションの技術に圧倒されました。研究に自信を持ち、思いを伝えようとする姿に感動するとともに、「自分たちももっとできたのではないかと悔しさも感じました。枝肉評価部門についても、出品した2頭のうち「南稜姫」号はBMS12・A5を獲得しましたが、瑕疵も見られ課題が残りました。卒業後は熊本県立農業大学校に進学しま

す。家業の黒毛和牛の繁殖農家を継ぐために、今後も勉強を続けます。

(大石 翼)

取組み発表部門では、各学校の特色を活かした発表を見ることができ興味深かったです。これまでの課題をきちんと整理し、今年度の取組みを決めていることが分かりました。自分たちもよい研究をしたと思いますが、入賞するには、さらに地域との連携や視野を広く持った飼育環境の改善、発表技術の向上が必要だと学びました。2年間世話をしてきた「南稜姫」号と「定家」号には感謝の気持ちでいっぱいです。この気持ちを忘れず、将来に活かしたいです。

(小倉 京丸)

今回出品した牛2頭は、以前から実習や当番で世話をしていました。運動部を引退したあとは「牛部」にも入部し、放課後や休日にも友人と管理に取り組みました。毎日観察する中で、食欲や排尿など些細な変化に気づけるようになりましたが、それでもビタミン欠乏症や瑕疵など課題が残りました。これまで以上に牛や畜産に対する関心が高まり、卒業後は牛に携わる仕事をしたいと志すようになりました。畜産を取り巻く環境は厳しいですが、地域を盛り上げていきたいです。

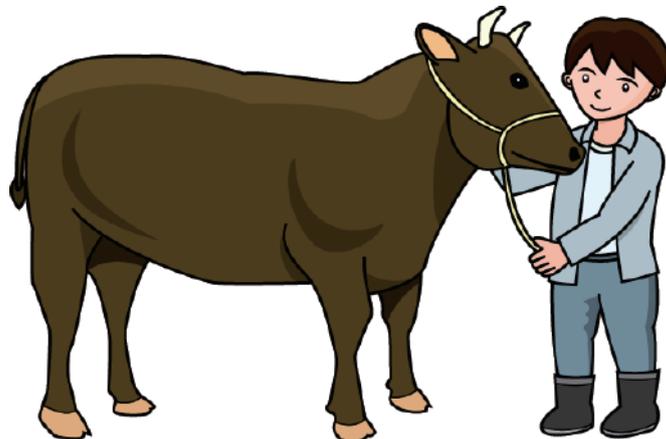
(佐藤 大河)

私は将来、家業の黒毛和牛繁殖農家を継ぎたいと考え、南稜高校に進学しました。肥育牛の世話をするのは初めてで、「和牛甲子園」という大会があることも初めて知りました。本校の先輩方はもちろんですが、全国の高校生の皆さんがよりよい飼育環境でより高品質な牛肉を作ろうと切磋琢磨されている姿に圧倒されました。肥育農家の方々が競って買ってくださるような子牛を生産できるように技術を身につけたいと強く思いました。

(池上 姫梨)

南稜高校に入学して、肥育牛を初めて見たときは、その大きさと迫りに驚きました。しかし、「南稜姫」号と「定家」号の目は優しく、なでると柔らかくとてもかわいく感じました。出荷の日には先輩がトラックに乗せるのを見ていましたが、さびしく切なく感じました。取組み発表では他の学校の生徒の皆さんも、私たちと同じように牛を大切に世話をしていたことが分かりました。これからもっと勉強をしたいと思える貴重な体験ができました。

(加江 竜之輔)



宮崎県立 高鍋農業高等学校



今回和牛甲子園に参加して良かったことは、全国の色々な学校の取り組み方などを知ることができたことです。自分たちが気づけなかったところなども知ることができました。私たちは、入賞できませんでしたが、とても良い経験になりました。

将来は、このような貴重な経験を活かして、自分が育てた牛で日本一をとれるように頑張りたいです。(山下 陽侶)

私の家では和牛繁殖をしているので、肥育に関わる機会が学校でしかありませんでした。そのため、今回和牛甲子園に参加をして、枝肉を見たり講話を聞いたりして、より肥育について知ることができました。また、他の学校の取り組んでいたことや枝肉のセリを、直接セリ場でみることができたのは、貴重な経験となりました。セリを見ていると、必ずしも重量や部位の大きい牛が高いわけではなく、色々な角度から評価されていることを知り、それが難しさであり、面白さでもあると思いました。(船ヶ山 穂香)

昨年はオンラインでの参加だったため、画面越しでしか見ることができませんでしたが、今回は、他県や他校で生産された様々な枝肉を間近で見ることができ、とても興味深かったです。枝肉

を比較すると、色味や大きさ、腿の充実度、全体のバランス感などが一つ一つ違っており、こんなにも個体差があるものかと感じました。

本校では60頭ほどの和牛を飼育しています。命に感謝の気持ちを持って、1頭1頭の特徴を明確にしながら、これからも大切に育てていきたいです。(花田 麻央)

和牛甲子園に参加して良かったことは、一生懸命育てた2頭の牛がセリで落札されるのを、生で、しかも間近で見ることができたことです。肉用牛部のメンバーの多くの中から自分が選ばれて東京に行き、全国の様々な学校の生徒に会い、名刺交換をして興味深く話をすることができました。非農家の私には全てのごとが新鮮でした。

将来は動物関係の仕事に就きたいと思っていますが、畜産のような命と絆が溢れる職業に就いて仕事をしたいと思いました。

(内田 妃華莉)

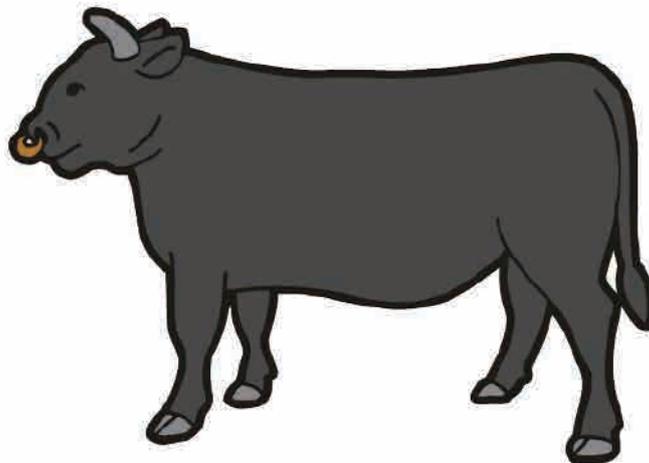
私は、和牛甲子園に参加し、肥育への興味が深まりました。なぜなら、ロース芯100㎖超えや、オレイン酸60%超えなどの肉を生産している高校があり、本校の数値をはるかに上回る結果であったからです。

私の家は和牛繁殖経営をしています。私は将来一貫経営をしたいと考えており、肥育でもたくさんの結果を出せるように頑張りたいです。今回参加してその気持ちがより強くなりました。

(坂藤 大地)

私は、この大会をとおして自分と同じ和牛に情熱をかける高校生がこんなにもいるのだと背中を押されたように感じました。私はまだ高校1年生で、さらに非農家です。今まで畜産にすら触れてこなかった自分が、東京という場所でレベルの高い和牛を見られたことがとても光栄です。会場にいた高校生の皆さんは、一人一人が高い志とエネルギーを持っていて、キラキラして見えました。私も和牛の魅力に染まった一人として頑張ります。

(足立 英加)





和牛甲子園

和牛甲子園に参加して

宮崎県立 都城農業高等学校



初めて和牛甲子園に参加し、全国の農業高校が育てた肉牛を見ることができよかったです。私たちが育てた「輝真」も目標としていたA5ランクに格付けされ、一生懸命管理して良かったと思えました。後輩たちにも、また和牛甲子園に出場するときは頑張っ
てほしいです。卒業後は大学に進学予定ですが、この経験を活か
したいです。 (大段 晶翔)

鹿児島県立 市来農芸高等学校



えています。そのために、高校三年間畜産部として経験を積んで
きました。今大会で様々なことに触れさせていただいたこともよ
い学びとなりました。心から感謝しています。 (森川 裕介)

今回、和牛甲子園に参加し、他校の取り組みを知ることができ
とても興味深く、楽しかったです。また、先輩牛児の方々の異な
る立場で畜産業界に携わり活躍されているお話を聞くことが
でき、自分の進路を考える良い機会にもなりました。他校の牛児
である仲間と牛について語ることができ、とてもよかったです。こ
のような大会を開催してくださり、ありがとうございました。
(吉野 由桜)

三度目の和牛甲子園に参加し、たくさんの思い出をつくること
ができました。総合優勝を逃し、悔しい結果となりましたが、取
組評価部門で最優秀賞を獲得でき、嬉しかったです。三年間、仲
間と共に頑張った日々が結果へと繋がったと感じています。今回
の大会は、他校との交流もでき有意義な学びの場となりました。
この経験をいかしこれからも頑張りたいと思います。開催にご尽
力くださった方々、本当にありがとうございました。(佃 隆太)

今回、和牛甲子園でとてもつもない緊張感を味わいました。取組
評価部門で日頃の活動に対して、最高の賞をいただくことができ、
本当にうれしかったです。また枝肉に関して、丁寧な説明や改善
点を教えていただけ、とても勉強になりました。和牛甲子園に参
加されたOB・OGの方のお話も今後の参考になりました。ありが
とうございました。(野添 祥輝)

今年は東京で和牛甲子園が開催出来て、とても嬉しかったです。
昨年、一昨年とオンライン開催で他校との交流ができませんでした
が、全国の高校牛児である仲間と話をすることができ、とても
勉強になりました。私は将来、実家の肥育牛経営を継ぎたいと考

私の高校へ入学してからの目標であった和牛甲子園に参加でき
たこと。取組評価部門で最優秀賞をいただけたこと。この二つの
喜びを今大会で味わうことができました。しかし、枝肉評価部門
において悔しさも味わい、一から頑張ろうという思いが芽生えま
した。全国の牛児と交流もでき、牛に対する愛情の深さや意識の
高さに刺激を受けました。これからも目標とする牛をつくれるよ
うに頑張ります。ありがとうございました。(宮脇 優)



鹿児島県立 鶴翔高等学校



今年は、実際に東京へ行くことができ、全国の高校牛児の方々と交流することができ、情報交換やコミュニケーションなどをすることができたので、いい機会になりました。また、枝肉のせりを見ることができたので、とても勉強になりました。枝肉となっ

た牛がつるされ順番に競られていくところが特に印象深く、値段がつくところでいつも「あと一歩、あと一歩」と高値がつくのを願って心の中で叫んでいました。
(脇田 翔太)

去年はリモート開催でしたが、今年は東京に行くことができ、全国の高校牛児の方々と、直接話すことができました。名刺交換などをして交流を深めることができとてもよかったです。人見知りをしがちな自分としては、このような機会に知らないことを知ることができ、よかったです。これからも自分が成長できるように頑張っていきたいと思います。
(徳留 陸人)

私が今回和牛甲子園に参加して思ったことは、いろいろな学校の取り組み発表が聞けてよかったです。次の発表に向けて参考にしました。来年の和牛甲子園では是非入賞できるように頑張っていきたいと決意を新たにしました。また、名刺交換では他校との名刺を交換することができ、とてもよい経験になりました。全国のライバルたち、全国高校牛児に負けないよりよい牛を育てていこうと思います。
(田淵 翔太)

鹿児島県立 鹿屋農業高等学校



今回、和牛甲子園には全国40校の農業高校からたくさんの人たちが参加して、その土地ならではの取組や飼育方法が発表され、とても勉強になりました。また、他校との交流では、あまり時間が無い中でもたくさんの人達と話をすることが出来ました。そして、枝肉のせりは初めて見ましたが、迫力があり本当に参加出来て良かったです。今回、出品した2頭はどちらもA5（BMS No.12）でしたが枝肉評価部門での入賞は出来なかったため、次回の和牛甲子園では入賞できるよう後輩達には頑張してほしいです。最後に、コロナ禍でも大会を開催していただいた関係者の方々、本当にありがとうございました。
(外園 龍斗)

私は、今回の和牛甲子園に参加して、今まで以上に肥育について関心を持つことが出来ました。肥育体験の取組発表では、各校

それぞれの肥育に対して工夫した点などを知ることができとても勉強になりました。また、枝肉勉強会では枝庫内で少しの時間でも見られなかったのが残念でしたが、実際に自分達が育てた肥育牛の枝肉のせりを見ることができたのは本当に良かったです。この2日間で他県の多くの農業高校生と交流をすることもでき、高校生活最後にとっても良い体験が出来ました。枝肉評価部門では入賞することができず悔しい思いはありますが、後輩達には来年以降の大会でも頑張してほしいです。
(福元 好誠)

和牛甲子園に参加して、初めて枝肉のせりの様子を実際に見たことや、取組評価部門や枝肉評価部門で入賞した学校の評価された点など、多くのことを学ぶことができました。私はまだ1年生なので、これから先輩達の農場を引き継ぎ、今回学んだことを活かして肥育牛の飼育に全力で取り組んでいきたいと思っています。そして、来年以降も和牛甲子園に参加して、他校の生徒達と交流をさらに深めて、参考にできる工夫は自分達でも実践し、さらなる肥育牛の肉質向上に努力し、総合評価部門で優勝できるよう頑張っていきたいです。
(森元 陽哉)

今回、和牛甲子園に参加して、全国の農業高校が取り組んでいる肥育牛への活動や出品された枝肉について知ることの出来る、とても良い機会になりました。東京食肉市場では、自分達が出品した牛の枝肉の他にも、他校の枝肉や一般の枝肉も目の前で取引されるの場所を見ることができ、貴重な経験になりました。私はまだ1年生なので、今回学ばせていただいたことを活かして、これからの肥育牛の飼育を頑張っていきたいと思っています。そして、将来は鹿児島黒牛の肥育経営ができればいいと考えています。
(山口 蒼真)



和牛甲子園

和牛甲子園に参加して

鹿児島県立 曾於高等学校



第6回和牛甲子園に参加して、他校の取り組み発表や交流などを通して、とても貴重な体験ができたと感じました。

各校の取り組み発表を拝見して、同じ高校生が取り組んできたとは思えない程の詳しい研究内容に圧倒され感心しました。他にも、他校との交流なども深める事が出来てとても楽しかったです。

今後の和牛甲子園では、より良い結果が出せるよう後輩達に受け継いでもらい、これからも頑張りたいです。(川畑 穂花)

私は第6回和牛甲子園に参加してみて、受賞した高校の取り組み発表や名刺交換が印象に残っており、二日間とても楽しかったです。第五回和牛甲子園のときも参加したのですが、そのときは、新型コロナウイルスでリモート開催でしたが、今年は東京での開催で実際に枝肉を見れたので嬉しかったです。曾於高校は取り組み部門でも枝肉部門でも受賞できませんでしたが、二日間という短い期間でしたが貴重な体験ができ、よかったです。(坂元 渚)

鹿児島県立 加世田常潤高等学校



今回4回目の参加で初めて賞をもらうことができ、とてもいい思い出になりました。リモートでの参加で他校の方々と話すことができませんでしたが、他校の取り組みや枝肉評価など同じ境遇の農高生徒たちと切磋琢磨できたことが良かったです。

日常の高校生活では経験できないことを体験して、多くの方々にご指導・ご協力いただき今回の受賞に繋がったと思います。感謝の気持ちを忘れずこれからの経験に生かしていきたいです。(斉藤 真凜)

枝肉部門で「優秀賞」をいただくことができ、先輩方が達成できなかったことを私たちの代で成し遂げることができたことがとても良い経験となりました。後輩に技術や知識の継承をしっかり行い、【常潤牛】全国一位を目指し取り組んでほしいと思います。

今後も、この経験を生かして自信を持って、畜産に関わっていき将来の糧にしたいと思います。この大会に携わった多くの関係者に感謝します。ありがとうございました。(森田 光晴)

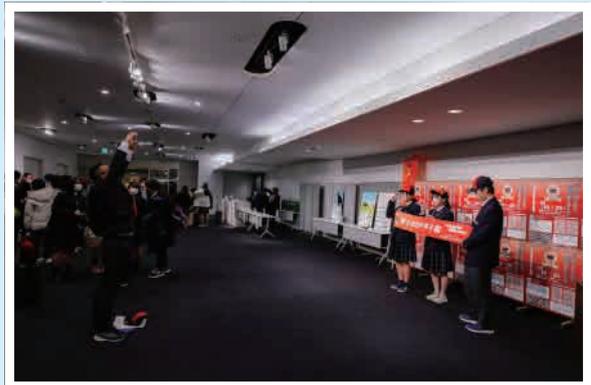




和牛甲子園

大会風景

開会前～開会式





大会風景

和牛甲子園

開会前～開会式



和牛飼育体験発表会



北海道 倶知安農業高等学校



酪農学園大学附属
とわの森三愛高等学校



青森県立 三本木農業高等学校・
青森県立 三本木農業恵拓高等学校



岩手県立 水沢農業高等学校



岩手県立 盛岡農業高等学校



岩手県立 花巻農業高等学校



宮城県 農業高等学校



福島県立 会津農林高等学校



福島県立 磐城農業高等学校



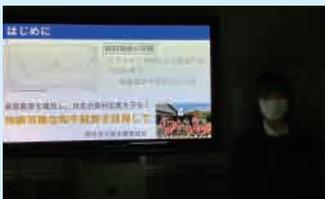
茨城県立 水戸農業高等学校



栃木県立 宇都宮白楊高等学校



栃木県立 鹿沼南高等学校



栃木県立 栃木農業高等学校



栃木県立 那須拓陽高等学校



栃木県立 真岡北陵高等学校



栃木県立 矢板高等学校



群馬県立 利根実業高等学校



群馬県立 吾妻中央高等学校



神奈川県立 中央農業高等学校



富山県立 中央農業高等学校



岐阜県立 大垣養老高等学校



岐阜県立 加茂農林高等学校



岐阜県立 飛騨高山高等学校



愛知県立 渥美農業高等学校



和牛甲子園

大会風景

和牛飼育体験発表会



滋賀県立 長浜農業高等学校



京都府立 農芸高等学校



島根県立 出雲農林高等学校



岡山県立 瀬戸南高等学校



広島県立 西条農業高等学校



山口県立 大津緑洋高等学校



佐賀県立 唐津南高等学校



長崎県立 諫早農業高等学校



熊本県立 南稜高等学校



宮崎県立 高鍋農業高等学校



宮崎県立 都城農業高等学校



鹿児島県立 市来農芸高等学校



鹿児島県立 鶴翔高等学校



鹿児島県立 鹿屋農業高等学校



鹿児島県立 曾於高等学校



鹿児島県立 加世田常潤高等学校



先輩“高校牛児”講話





枝肉共励会



枝肉共励会





和牛甲子園

大会風景

特別授業（講演）



褒賞式～閉会式





和牛甲子園

第6回和牛甲子園 開催要領

第6回和牛甲子園 開催要領

全国農業高等学校和牛飼育体験発表会および和牛枝肉共励会開催要領

制定 令和4年11月17日

第1章 和牛甲子園 開催概要（趣旨・主催・後援・事務局等）

（趣旨）

第1条 全国の農業高等学校で飼育された和牛を対象に、全国の農業高等学校の生徒を集めて和牛飼育体験発表会（以下、「体験発表会」とする）および和牛枝肉共励会（以下、「枝肉共励会」とする）を開催することで、将来の畜産業の後継者たる農業高等学校の生徒に情報交換・交流の場を提供し、参加者の飼育技術と生産意欲の向上を図るとともに、わが国の農業の後継者・担い手の育成に資することを目的とする。

（主催）

第2条 全国農業協同組合連合会（以下JA全農という）が主催する。

（後援）

第3条 文部科学省、農林水産省、独立行政法人農畜産業振興機構、独立行政法人家畜改良センター、東京都中央卸売市場食肉市場、東京食肉市場株式会社、全国農業高等学校長協会、日本学校農業クラブ連盟、公益財団法人全国学校農場協会、公益社団法人全国食肉学校、一般社団法人全国農業協同組合中央会、JA全農ミートフーズ株式会社の後援とする。

（事務局）

第4条 この事務局はJA全農畜産総合対策部に設置する。また、JA全農ミートフーズ株式会社東日本営業本部内に開催事務局を設置して、開催時等の対応をおこなう。但し、会期中はともに東京都中央卸売市場食肉市場内に置く。

第2章 体験発表会

（開催日時・場所）

第5条 第1条の目的を達成するため、令和5年1月19日にグランドホールで行う。

（出場校の資格）

第6条 出場校は日本国内の高等学校で、「枝肉共励会」への出品予定者であること。但し、「出品予定牛のへい死等」もしくは、「第6回和牛甲子園に出品予定の牛がいるが、出荷適齢期ではないため枝肉共励会には出品できない」といった止むを得ない理由で枝肉共励会に出品が出来ない場合に限り、事務局長の承諾の上、体験発表会のみ参加を認める。

（発表内容）

第7条 発表内容は、主に「枝肉共励会」の出品牛を対象とした取組内容（飼養、研究取組、飼育体験その他）とする。

(提出方法)

第8条 発表内容の提出については別表1 第6回和牛甲子園 体験発表会動画規定に留意して応募すること。

(出場校数)

第9条 出場校は40校を予定する。但し事情により変更することもある。

(出場登録)

第10条 出場校は事務局に別紙様式の体験発表会事前審査資料提出表（出場登録用）と事前審査資料の提出を令和4年11月25日までにこない、出場登録をおこなう。

第3章 枝肉共励会

(開催日時・場所)

第11条 枝肉共励会は第1条の目的を達成するため、令和5年1月20日に東京都中央卸売市場食肉市場において開催し、同日に褒賞授与式をグランドホールで行う。

(出品資格)

第12条 出品牛は審査において、次の条件に適合するものでなければならない。

- (1) 日本国内の高等学校から出品されたものであり、かつ、最長飼養地・最終飼養地が出品高等学校であること。
- (2) 黒毛和種飼育牛（去勢・雌）であること。
- (3) 子牛登記証または血統証明書を具備し、生産履歴証明書を有していること。
- (4) 1校につき2頭まで出品可能とする。

(出品頭数)

第13条 出品頭数は57頭を予定する。但し事情により変更することもある。

(出品登録)

第14条 出品校は別紙様式の枝肉共励会出品申込書（出品登録用）を令和4年11月25日までに事務局に提出し、出品登録をおこなう。

(出品牛および枝肉)

第15条 出品牛は令和5年1月18日の13時までに東京都中央卸売市場食肉市場に搬入するものとする。

第16条 出品牛及び枝肉には、主催者が指定する標識を付するものとする。

第17条 枝肉の販売は冷と体で、ロース芯および周囲筋の状態がわかるように、第6、第7肋間筋を切開したものとし、出品者は販売を拒むことはできない。

第18条 出品牛及び枝肉の事故による損害、ならびに予見できない瑕疵については、主催者ならびに事務局はその責をおわない。





和牛甲子園

第6回和牛甲子園 開催要領

第4章 和牛甲子園開催日程・審査委員・審査方法・褒賞等

第19条 行事日程はおおむね次の順序に従っておこない、詳細日程は別途に定める。

- (1) 生体搬入（測定・計量） : 令和5年1月18日 13:00
- (2) と畜解体 : 令和5年1月19日 9:00～
- (3) 枝肉セリ販売 : 令和5年1月20日 9:00～
- (4) 枝肉共励会 : 令和5年1月20日 10:30～
- (5) 褒賞授与式他 : 令和5年1月20日 13:30～

(審査委員)

第20条 審査委員は、学識経験者および全農職員等から和牛甲子園事務局長が選出・委嘱する。

(審査方法)

第21条

- (1) 審査は、体験発表会を審査する「取組評価部門」と、公益社団法人日本食肉格付協会の牛枝肉取引規格に基づき枝肉審査をする「枝肉評価部門」とし、審査方法は別途定める。
- (2) 総合評価部門の審査にあたり、2頭出品されている高校においては、成績が優良な方の枝肉1頭を審査対象とする。なお、枝肉評価部門においては、2頭とも入賞の対象となる。
- (3) 原則、採点結果については公表をしない。

(褒賞)

第22条 褒賞は審査の結果、別表1定めるとおりとする。

第5章 出品者に対する補助

(出品牛の運搬に対する補助)

第23条 出品校は出品牛の運搬を全国農業協同組合連合会各県本部、および各県経済農業協同組合連合会、各県農業協同組合（以下「県組織」という）に委託し、積込の場所については、別途指示するものとする。また、事務局は運搬にかかる費用を別表3に従い、出品校に補助する。

(参加に要する旅費・宿泊費の出品校の生徒・引率教員に対する補助)

第24条 事務局は出品校の和牛甲子園参加のために要する旅費・宿泊費を、別表4に従い、出品校に補助する。

(23条・24条以外の経費の出品校負担)

第25条 前23および24条で定めた以外の出品に要する経費は出品校の負担とする。

(対策費の受入・支出および手続き)

第26条 対策費（出品牛の運搬、その他大会経費）の受入・支出および手続き

- (1) 対策費（協賛金等）の受入 : 雑収入
受入科目 : 雑収入－雑収入－その他
科目コード : 913-913-88

- (2) 生体運搬費、およびその他大会経費の支出:事業促進費
支出科目 : 事業促進費 - 情報宣伝費 - 催事開催費
科目コード : 551 - 617 - 04
- (3) 支出申請期日: 参加校は令和5年1月末までに、事務局指定の様式にもとづき、事務局に支出申請をおこなう。
- (4) 支出時期: 本会は県組織・各学校の申請にもとづき、令和5年2月末までに各学校等への支出を完了する。

第6章 役職員・その他

(役職員)

第27条 和牛甲子園には次の役職をおく。

会長1名、事務局長1名、事務委員 若干名。

なお、会長には主催者であるJA全農の畜産担当常務理事がその職務にあたる。また、事務局長はJA全農の畜産総合対策部長がつとめる。

(その他)

第28条 その他

- (1) 広報活動を目的として、和牛甲子園に関する写真及び映像を印刷物やWEB・SNS・テレビ番組上で掲載をおこなう場合があるものとする。
- (2) 開催要領の解釈その他疑義、および必要な事項は事務局長がこれを決定する。

第29条 この開催要領の期限は、次回和牛甲子園開催要領の制定までとする。

以下余白





第6回和牛甲子園 開催要領

別表1. 第6回和牛甲子園 体験発表会動画規定

体験発表会動画の作成・提出においては、以下の点に留意して応募すること。

1 発表時間

(1) 計測の開始と終了

- ① 発表者が発声を始めた時点から計測を開始し、「終了します」を言い終えた時点までとする。
- ② 開始から終了までの時間は、7分前後とすること。

(2) 注意事項

- ① 発表時間が7分20秒を超過した場合は、1点減点とする。その後30秒超過するごとに1点減点とする。

2 撮影場所

- (1) 動画の撮影場所は、学校施設の屋内で行うこと。
- (2) 発表者の声聞き取りやすい場所での撮影が望ましい。
- (3) 発表者の身振りや表情が分かりやすい光量の場所で撮影が望ましい。
- (4) 撮影後に音声聞き取れるか確認を行なうこと。

3 撮影機材

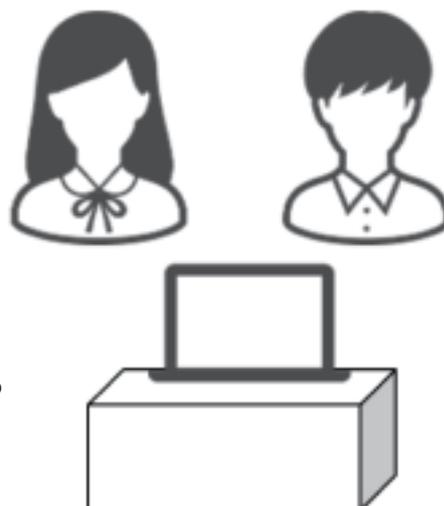
- (1) 撮影機材はビデオカメラ、タブレット端末 (ipad) 等を用いて撮影する。
- (2) 撮影機材は手持ちではなく、三脚など機材を固定する方法を用いて撮影すること。
- (3) 加工は行なわないこと。

4 撮影画面構成

- (1) 登壇する人数に制限は設けないが、発表者含め登壇者は全員顔まで含め上半身以上は必ず映るようにすること。
- (2) 発表者の表情や身振り手振りが分かるような大きさとで撮影すること。
- (3) カメラのピントは発表者に合わせること。
- (4) 発表資料はパワーポイントをスクリーンに映すこと。
- (5) プロジェクターの明るさは一定以上が望ましい。
(目安として2,000ルーメン以上とする。)
- (6) 撮影画面構成は以下の図を参考にすること。



- ・発表者が全員映るようにすること
- ・発表者の表情や身振り手振りが分かるような大きさに撮影すること
- ・ピントは発表者に合わせる



- ・スライド画面の切り替えが見えるようにする
- ・細かい文字は読めない大きさでも可
(※手元でも資料を確認するため)

(7) 第5回大会の体験発表動画を参考にし、作成すること。

第5回体験発表動画 (You Tube)

URL:<https://wagyukoushien.com/2021/main/koushien04/torikumi/>

5 編集・加工について

- (1) アプリやソフトによる映像・音声加工は禁止する。
- (2) タイトルやテロップ、クレジットの表記は不要とする。

6 動画ファイルの仕様とフォーマット (FHD推奨)

- (1) 解像度 : 1080 p
- (2) 動画アスペクト比 : 16 : 9 (ワイド比率)
- (3) ファイル形式 : MOV または MP4
- (4) フレームレート : 30fps

7 動画提出締切日

- (1) 令和4年12月16日当日消印有効とし、事務局へ送付する。
- (2) 動画データ提出方法は事務局より別途案内する。





第6回和牛甲子園 開催要領

別表2. 第6回和牛甲子園褒賞一覧

総合評価部門		体験発表会 取組評価部門		枝肉共励会 枝肉評価部門	
最優秀賞	1点	最優秀賞	1点	最優秀賞	1点
奨励賞	最優秀賞以外 全参加校	優秀賞	2点	優秀賞	2点
		優良賞	3点	優良賞	3点
合計	全参加校	合計	6点	合計	6点

別表3. 和牛甲子園「枝肉共励会」生体運送に要する経費の補助

項目	使用基準	備考																		
生体運送に要する経費の補助	事務局は学校の所在地から開催地（東京都中央卸売市場食肉市場）までの実距離を基準とした別記1の基準金額か、実経費のいずれかの低い金額を出品校に補助する。	提出書類 (支出を証明する書類)																		
	別記1. 生体輸送に要する補助金額基準表（税抜価格）	①運送業者の見積り・請求書と いった金額が明記されたもの ②あるいは①にかわるもの																		
	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>基準</th> <th>生体運搬費補助</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>出品校から開催地（品川）までの距離</td> <td>生体運搬費補助 (単価) / 1頭あたり</td> </tr> <tr> <td>100キロまで</td> <td>11,000</td> </tr> <tr> <td>200キロまで</td> <td>15,000</td> </tr> <tr> <td>400キロまで</td> <td>17,000</td> </tr> <tr> <td>600キロまで</td> <td>19,000</td> </tr> <tr> <td>800キロまで</td> <td>21,000</td> </tr> <tr> <td>1,000キロまで</td> <td>23,000</td> </tr> <tr> <td>1,000キロ以上</td> <td>25,000</td> </tr> </tbody> </table>	基準	生体運搬費補助	出品校から開催地（品川）までの距離	生体運搬費補助 (単価) / 1頭あたり	100キロまで	11,000	200キロまで	15,000	400キロまで	17,000	600キロまで	19,000	800キロまで	21,000	1,000キロまで	23,000	1,000キロ以上	25,000	上記①または②を参加学校毎に事務局に提出すること。
	基準	生体運搬費補助																		
	出品校から開催地（品川）までの距離	生体運搬費補助 (単価) / 1頭あたり																		
	100キロまで	11,000																		
	200キロまで	15,000																		
	400キロまで	17,000																		
	600キロまで	19,000																		
	800キロまで	21,000																		
1,000キロまで	23,000																			
1,000キロ以上	25,000																			
		※この書類等の添付がない場合、補助しない。																		

別表4. 和牛甲子園参加（旅費・宿泊費）に要する経費の補助

項目	使用基準	備考	
参加旅費・宿泊費の補助	<p>事務局は出品校の生徒および引率教員等により下記の基準に従い支出し、参加旅費・宿泊費を補助する。</p> <p>また、出品校は、補助金の申請にあたり、事務局に支出を証明する書類を提出する。</p>	<p>提出書類 (支出を証明する書類)</p>	
	<p>(1) (補助対象の範囲)</p> <p>参加1校あたりの補助範囲は、生徒・引率教員等を含め、最大3名までとする。</p>	<p>①利用した交通機関、宿泊施設の領収書 (裏面に利用者氏名と押印をすること)</p>	
	<p>(2) (旅費・宿泊費に対する補助の基準)</p> <p>旅費と宿泊に対する補助の基準は別記2のとおり。</p>	<p>②または①に代わるもの</p>	
<p>別記2. 参加旅費・宿泊費の補助基準 (税抜価格)</p> <table border="1" data-bbox="252 1070 1024 1218"> <tr> <td data-bbox="252 1070 1024 1128">生徒・引率教員等の参加旅費・宿泊費の補助</td> </tr> <tr> <td data-bbox="252 1128 1024 1218"> <p>往復にかかる旅費と宿泊費の合計金額の半額</p> <p>(注) 円未満は切捨て</p> </td> </tr> </table>	生徒・引率教員等の参加旅費・宿泊費の補助	<p>往復にかかる旅費と宿泊費の合計金額の半額</p> <p>(注) 円未満は切捨て</p>	<p>上記①または②を参加学校毎に事務局に提出すること。</p> <p>※この書類等の添付がない場合、宿泊費、参加旅費は補助しない。</p>
生徒・引率教員等の参加旅費・宿泊費の補助			
<p>往復にかかる旅費と宿泊費の合計金額の半額</p> <p>(注) 円未満は切捨て</p>			
<p>注1. 宿泊費は1人1泊12,000円(消費税抜)までを目安とする。</p>			

別表5. 和牛甲子園大会運営における新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた対応
【新型コロナウイルス感染防止規定】

1. 開催方針

- (1) 第6回和牛甲子園（以下「今大会」と略）は会場であるグランドホールの定める「新型コロナウイルス感染症対策施設利用ガイドライン [ビジネスイベント版]」に則り進める。
- (2) なお「新型コロナウイルス感染症対策施設利用ガイドライン [ビジネスイベント版]」の根拠である東京都が示す「集会場・貸し会議室」及び「イベント」に対する要請内容は都度変更されるため、事務局は今大会が実施される令和5年1月19日および20日時点の東京都が示す内容について適宜確認を実施する。
- (3) 事務局はすべての大会参加者に対して「新型コロナウイルス感染症対策施設利用ガイドライン [ビジネスイベント版]」を遵守するよう誓約書の事前提出を求める。
- (4) 上記(3)で定める誓約書の未提出者の第6回和牛甲子園への参加は原則として認めない。





第6回和牛甲子園 開催要領

(注)「新型コロナウイルス感染症対策施設利用ガイドライン[ビジネスイベント版]」について

- ①当ガイドラインは、東京都が示す「集会場・貸し会議室」及び「イベント」に対して示す要請内容に沿って策定され新型コロナウイルス感染症の感染状況によって変更され、「イベント」当日の東京都の要請内容が適用される。
- ②また、当ガイドラインは「東京都の要請内容」の他に、「関連業界団体ガイドライン」「コロナ禍イベント開催時に一般的になっている対策」を踏まえた基準が設定された包括的な内容で、感染対策に配慮した総合的な観点から作成されている。
- ③それに加え、当施設は質の高い感染症対策を担保するため国際的な衛生基準「GBAC STAR™ 認証」を取得している国内でも数少ない施設である。

以下グランドホールの新型コロナウイルス感染症への取組について⇒下記参照

<https://tg-hall.com/wordpress/wp-content/uploads/2021/11/6731c5c5201c9dc4633cdbc9e-c79d1fc.pdf>

2. 大会会場での対応

- (1) 大会会場では、「新型コロナウイルス感染症対策施設利用ガイドライン[ビジネスイベント版]」に則った3密（密集、密接、密閉）を回避した設営をおこなうこととする。
- (2) 合わせて、3密（密集、密接、密閉）回避に資するため、希望する学校には web 会議システム ZOOM によるリモート参加を認めるものとする。
- (3) 以下に該当する方の来場の入場制限をする（大会関係者含む全参加者）
 - ① 37.5 度以上の発熱（入場時に検温実施）や下記の症状がある方、咳、呼吸困難、全身倦怠感、咽頭痛、鼻汁、鼻閉、味覚・嗅覚障害、関節・筋肉痛、下痢、嘔気・嘔吐等の症状
 - ② 新型コロナウイルス感染症陽性と PCR 検査で判定された者との濃厚接触がある方
 - ③ 過去 2 週間以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国・地域への訪問歴及び当該在住者との濃厚接触がある方

3. その他の感染予防策の徹底

- (1) 来場者・大会関係者全員の連絡先の取得管理を行う。
- (2) 来場者・大会関係者は入場時に検温を実施する。
- (3) 来場者・大会関係者はマスクを着用し、手洗い・アルコール消毒を徹底する。
- (4) 咳エチケットの実施：咳やくしゃみをする場合に口や鼻をティッシュ等でおさえて飛沫の拡散防止を徹底する。
- (5) 消毒液の設置（会場への入口や受付など接触が想定される場所）および共用部分等の定期的な消毒を実施する。
- (6) 昼食時等は対面で座らない等できるだけ距離を取って個別に飲食し、食事中の会話は控えて黙食に努める。
- (7) 会場にはマスク・ティッシュ・アルコール等の衛生用品を常備し、衛生管理の徹底に資する。

以上



審査基準・褒賞について

1. 評価部門・褒賞

(1) 取組評価部門

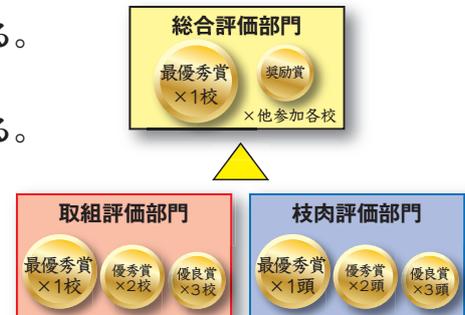
最優秀賞1点、優秀賞2点、優良賞3点の計6点とする。

(2) 枝肉評価部門

最優秀賞1点、優秀賞2点、優良賞3点の計6点とする。

(3) 総合評価部門

取組評価50点+枝肉評価50点の合計100点で評価する。
(最優秀賞1点のみで、他は奨励賞)



2. 審査基準

(1) 最優秀賞の決定

取組評価部門（体験発表会）の得点（50点満点）と、枝肉評価部門の得点（50点満点）との合計点数（100点満点）で、総合評価部門の最優秀賞を決定する。

(2) 取組評価部門（体験発表会）

体験発表会の発表は、審査委員が【表1】の基準により点数評価し、5項目×5点満点／項目×審査委員5名（審査委員6名のうち最低得点者を除く5名）の125点満点を2.5で除した50点満点とする。

(3) 枝肉評価部門

出品牛は、公益社団法人日本食肉格付協会の牛枝肉格付規格に基づく肉質審査をおこない、格付結果を【表2】の基準により点数評価した、50点満点とする。

【表1】

	評価項目	体験発表会評価ポイント
1	チャレンジ・挑戦	前年と比べてどのような新しい取組みを行ったり、困難に直面したときどのように問題解決を行ったりしたかなど、高校生のチャレンジ・挑戦を評価出来る発表であったか？
2	資料	発表資料はわかりやすく、起承転結がしっかりした内容で、誤字脱字がなく、構成・図表等を含め読み手に対して取組内容が的確に伝わるものであったか？
3	内容1（表現）	発表は、論理的・客観的で分かりやすく、かつ明瞭簡潔で聞き取りやすく、チームワーク等も伝わる意欲溢れた内容であったか？
4	内容2（目的・創意工夫等）	取り組むべき目標を計画的に進め、高校生らしい創意工夫や独自性がある目的意識を持った取組内容であるか？
5	総合	全体を通して評価すべき内容があれば加点。（加点部分0～5点）





審査基準・褒賞について

【表2】

和牛甲子園：審査基準

			枝肉評価の得点		取組評価の得点		合計100点満点					
			合計50点		合計50点							
			+0~7点		審査委員5名(審査委員6名のうち、最低得点者を除く5名)×25点/2.5のポイント付与		総合評価100点					
追加基準	ロース芯面積		令和3年度全国平均(去勢・雌別)より上	+2								
			100cm ² (去勢)以上 90cm ² (雌)以上	上記+1								
	ばら厚さ		令和3年度全国平均(去勢・雌別)より上	+1								
		10cm(去勢)以上 9cm(雌)以上	上記+1									
	脂肪酸(オレイン酸)		55%以上	+2								
等級	BMS	基準点	+5点		-5点							
5等級	12	38	①歩留まり ②肉の色沢 ③脂肪の色沢と質 ④肉の締まり及びきめ ⑤肉付・体形 ⑥その他(周囲筋の状態等)	①歩留まり ②肉の色沢 ③脂肪の色沢と質 ④肉の締まり及びきめ ⑤肉付・体形 ⑥その他(周囲筋の状態等)								
	11	36										
	10	34										
	9	32										
8	30											
8	25											
4等級	7	23										
	6	21										
	5	19										
5	15											
3等級	4	13										
	3	11										
2等級	3	5										
	2	3										
	1	1										

上記①~⑥の内容の良
好な項目を加点する
(全+5点)

上記①~⑥の内容の劣
る項目を減点する
(全-5点)

※(25点/審査委員)×5名/2.5

○枝肉部門の配点は、50点満点とする。

○ロース芯面積について、令和3年度全国平均(去勢・雌別)を越えたら2点加点

○ばら厚さについて、令和3年度全国平均(去勢・雌別)を越えたら1点加点

○脂肪酸(オレイン酸)の数値について、55%以上は2点加点

【加点基準】

令和3年度 令和3年4月-令和4年3月	ロース芯面積 (胸最長筋面積)	ばら厚さ	脂肪酸 (オレイン酸)
黒毛去勢牛 全国平均	67.2cm ²	8.3cm	
黒毛めす牛 全国平均	60.4cm ²	7.5cm	
加点基準	①平均を越えたら 2点加点 ②去勢牛 100cm ² めす牛 90cm ² 以上で更に1点加点	①平均を越えたら 1点加点 ②去勢牛 10cm めす牛 9cm 以上で更に1点加点	55%以上で2点加点

参考資料：公益社団法人日本食肉格付協会

3. 褒賞一覧

褒賞名	総合評価部門			取組評価部門			枝肉評価部門		
	最優秀賞	奨励賞	参加賞	最優秀賞	優秀賞	優良賞	最優秀賞	優秀賞	優良賞
1 全国農業協同組合連合会会長賞	1		※						
2 農林水産省畜産局長賞	1								
3 独立行政法人農畜産業振興機構理事長賞	1			1			1		
4 東京都中央卸売市場食肉市場長賞	1			1			1		
5 東京食肉市場株式会社社長賞	1		※				1	2	3
6 全国農業高等学校長協会賞	1	39		1	2	3			
7 公益財団法人全国学校農場協会賞	1	39		1	2	3			
8 公益社団法人全国食肉学校賞	1	39							
9 くみあい飼料工場会長賞	1								
10 公益社団法人日本食肉格付協会会長賞							1		
11 JA全農ミートフーズ株式会社社長賞							1		
12 JA全農ミートフーズ株式会社 東日本営業本部長賞								2	3
13 全農畜産サービス株式会社社長賞	1		40						
14 三洋貿易株式会社			40						

※…全出場校に記念品贈呈





和牛甲子園

協力者一覧

和牛枝肉共励会への出品にあたり、全国の高校からの
集荷・運搬について、以下の方々にご協力をいただきました。

(※敬称略)

- 協力：○株式会社昌栄（群馬県佐波郡）
○株式会社松永牧場（島根県益田市）
○有限会社福原運送（島根県益田市）
○有限会社尾嶋運送（鹿児島県出水市）
○有限会社新和農産（群馬県利根郡）
○一般財団法人畜産ニューテック協会（東京都港区）
○一般社団法人広島家畜改良事業団 広島産肉能力検定場（広島県東広島市）
○有限会社原牧場（神奈川県伊勢原市）
○多久島運送有限公司（佐賀県伊万里市）

ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

世界の技術とともに。

YPTECH will proceed with the dairy and livestock.



PRODUCTS LINEUP

牛用製品

- 乾燥菌体入り混合飼料

ファイブラーゼ

- パーム油脂脂肪酸カルシウム

マグナパック®

- パーム油脂脂肪酸カルシウム + メチオニン

マグナパック プラス®

- バイパスコリン

スターコル60

- バイパスビタミンC

テクノコートV70

- 硫酸亜鉛メチオニン

バイオメットジンク

- ハーブ入り混合飼料

アクティフォー

牛豚用製品

- 活性型酵母

アクティサフ® Sc 47

- 植物性粉末油脂

パームファット

- 消化吸収性に優れた

MCT

(中鎖脂肪酸トリグリセリド)

- 牛・豚床用マット

ボビレックス

- リグノセルローズ

アーボセル

牛豚鶏用製品

- 酪酸ナトリウム・硬化油混合飼料

ガスター-BP70WS

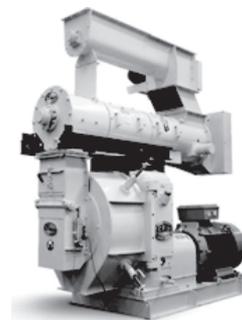
- カビ毒吸着材

ミズカバインダー® 

三洋貿易は世界のペレットミルメーカー・CPM社の
総代理店です。

日本市場で60年以上の実績。

飼料・堆肥用造粒設備をトータルコーディネートします。



ワイピーテックは三洋貿易グループです

 **株式会社ワイピーテック**

<https://www.yptech.co.jp/>



 **三洋貿易株式会社**

<https://www.sanyo-trading.co.jp/>



共栄火災

大切な笑顔のために。

1942年7月の創業から80年。

ありがたい気持ちとともに、
創業の理念「共存同栄」「相互扶助」を受け継ぎ、
これからも皆様の大切な笑顔のために
歩んでまいります。



一緒にずっと。安心をもっと。

共栄火災海上保険株式会社

〒105-8604 東京都港区新橋 1-18-6

<https://www.kyoeikasai.co.jp/>



背負型動力噴霧器「オルサスライト」



- 主要部品をステンレス化し、過酢酸系除菌剤の使用に最適
- 付属のスプレーガンで直射と広角射出を自在に調整可能
- 畜舎から事務所までの除菌に広く利用可能

品番	CH-0610
外寸	高さ 623 × 幅 360 × 奥行 220 mm
乾燥重量	4.8 kg
タンク容量	17 ㍓
ポンプ方式	特注ダイヤフラム式
モーター出力	60W (12V-2.1Ah)
稼働圧力	0.45Mpa
バッテリー	リチウム電池 12V-6Ah
AC/DC充電器	入力 110V (50/60Hz)、出力 12V-1Ah
シガー充電器	12V (普通車)、24V (トラック等) 両用
持続時間	最大充電240分
使用温度	5~40℃
射出量	1.62L/分
射出距離	直噴5m

非常用可搬型LPガス発電機「エルソナ」

S-5500



**単相 100V、200V を出力
ベストセラーモデル！**

- ワンプッシュスタート
(5回の自動リトライで確実に始動)
- バッテリー切れでも手動でスタート (リコイル付き)
- 一般家庭に設置の50kgボンベ1本で約30時間稼働 (S-5500の場合)
- パソコンやスマホも安心して使える安定した出力
- ディーゼル等に比べて低濃度の排ガス
- オイル切れ時はエンジンが自動停止 (焼付防止)
- ガソリンも使えるハイブリッド式

型式	S-5500	T-7500
定格出力 (kVA)	5.0kVA (50Hz) / 5.5kVA (60Hz)	7.0kVA (50Hz) / 7.5kVA (60Hz)
出力	単相 AC100	○
	単相 AC200	○
	三相 AC200	×
	DC12V-8.3A	○
	同時出力	×
乾燥重量 (kg)	86	90
サイズL,W,H(mm)	780 × 680 × 690	780 × 680 × 690

お問合せはお近くのJAへ(発売元:全農畜産サービス株式会社)

祝 第6回全国農業高等学校 和牛枝肉共励会

科飼研の提供する和牛用製品ラインナップ



繁殖牛

商品名	特長	包装単位
E繁殖	繁殖に必要なビタミン補給	10kg袋
とまるちゃん	受胎に必要なアミノ酸補給	10kg袋



子牛

商品名	特長	包装単位
さいしょのミルク	免疫グロブリン強化	250g × 8
ネオドリンクHG	速やかなエネルギー補給 (液剤)	30mL × 100、18L
ネオドリンクパウダーBOX	速やかなエネルギー補給 (粉末)	2kg × 5、20kg
ニューケアフルメイト	脱水時のイオンサプライ	630g × 10、2.5kg × 2
ミラクルメイト	食物繊維(オオバコ粉末) 強化	2.5kg × 2



肥育牛

商品名	特長	包装単位
くみあい起き上がりこぼし	肥育時のビタミンB群補給	20kg袋
ミネビタさじかげん	肥育後期のビタミンA補強	10kg紙袋
くみあい喝牛	食い止まり対策時に	10kg紙袋
くみあい快食快尿さん	雄牛の快尿快食に	10kg紙袋



防疫・衛生

商品名	特長	包装単位
ロンテクト	畜舎、車両、踏込槽、真菌の消毒	1L × 10、18LBIB、180L
201プラスR	堆肥の発酵促進	20kg
デオマジックHG	糞便臭の対策に	1Lパック、16kg缶



株式会社 **科学飼料研究所**
<http://www.kashiken.co.jp/>

動薬部
 札幌事業所
 東北事業所
 関東事業所

TEL:027-347-3223 FAX:027-347-4577
 TEL:011-214-3656
 TEL:019-637-6050 北九州事業所 TEL:096-294-8322
 TEL:027-346-9091 南九州事業所 TEL:099-482-3044

徹底した品質管理と全国ネットワークで 日本の『食生活』を支えることが使命です。



鶏・豚・牛に与える飼料や、食用油・ウイスキー・コーンスターチなど食品の原料となるトウモロコシ・大豆などの穀物は、日本の食生活に欠かすことができませんが、これらはアメリカ・ブラジル・カナダ・豪州など世界各国から輸入されています。

私たち「全農サイロ」は、全国の農業協同組合（JA）が組織する全農グループの一員として、輸入穀物を高い安全性と最新設備を備えたサイロに保管し、飼料メーカーや食品メーカーにお届けしています。

「全農サイロ」は輸入穀物の徹底した品質管理と全国ネットワークで日本の毎日の「食生活」を支えています。



全農サイロ株式会社

No.

Date

JAグループの

くみあい配合飼料会社

JAグループは、原料購入から農家供給まで一貫して取り組み、
配合飼料の安定供給の責務を果たします。



ホクレンくみあい飼料株式会社



JA全農北日本くみあい飼料株式会社



JA東日本くみあい飼料株式会社



JA西日本くみあい飼料株式会社



ジェイエイ北九州くみあい飼料株式会社



南日本くみあい飼料株式会社





No. _____

Date _____



 JA 全農グループ

祝

第6回 和牛甲子園

くみあい配合飼料

私たちの使命は、
高品質で安全・安心な飼料を
安定的にご提供することです。



 **ホクレンくみあい飼料株式会社**

本 社	北海道札幌市中央区北4条西1丁目1番地	TEL 011-222-3301
釧路西港工場	北海道釧路市西港2丁目101番地3	TEL 0154-53-2411
十勝工場	北海道河東郡士幌町字士幌西1線147番地1	TEL 01564-5-4111

当社製品のご紹介



高蛋白質の肥育前期用
配合飼料



バイパス蛋白質強化用の
サプリメント配合飼料



肥育後期のエネルギーと
ビタミン補給に

お問い合わせ先

支店名	住所	TEL
北東北支店・岩手営業所	岩手県紫波郡矢巾町流通センター南2-5-2	019-638-7910
青森営業所	青森県八戸市大字川原木字海岸24番7	0178-21-3320
秋田営業所	秋田県秋田市寺内字大小路207-28-1	018-845-0452
南東北支店・宮城営業所	仙台市宮城野区宮城野1-12-1	022-792-2823
山形営業所	山形県東根市大字蟹沢字下縄目1863-19	0237-41-2670
庄内営業所	山形県鶴岡市藤浪3丁目11-1	0235-78-2711
福島営業所	福島県郡山市田村町金屋字川久保23 JA全農福島郡山ビル2F	024-941-0825

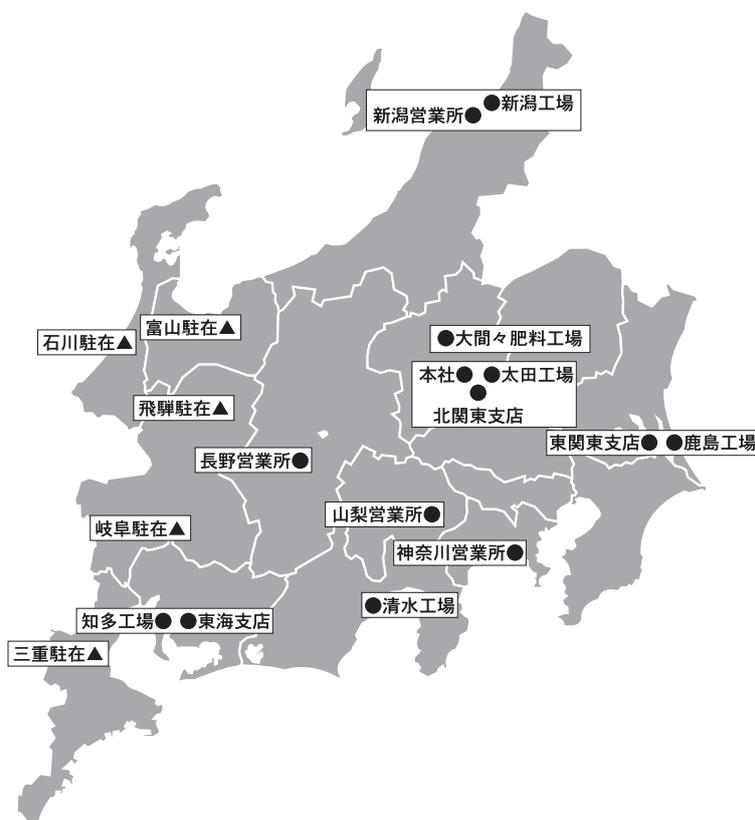
 JA全農北日本くみあい飼料株式会社

お届けします。
一歩すすんだ、安全・安心・信頼。

日本の豊かな食文化の向上に貢献します

ISO9001・抗菌剤GMP・FSSC22000の管理手法に基づき、安全・安心で高品質な飼料をお届けします。

また、衛生・防疫管理を徹底し、工場の入・退場口の完全洗浄・消毒の自動化による万全な衛生対策を実施しております。



農家生産者と地域に密着した企業としてご期待に応え得るよう努力してまいります。

 JA全農グループ
JA東日本くみあい飼料株式会社



JA西日本くみあい飼料株式会社

「食」の安心は、安全な飼料から

西日本を駆けめぐる養牛営業マンたちのご紹介

“にくみ”の営業マンたちは、皆様のさまざまなニーズにお応えできるよう、農場に足を運び、コミュニケーションを通じて、より身近なパートナーとして、皆様と共に歩んでまいります。

- ①ヨネさん
- ②中国支店山陰営業所
- ③誠実第一！安心安全な飼料をお客様に提供します。

- ①ニックネーム
- ②所属
- ③意気込み

- ①まっちゃん
- ②中国支店営業課
- ③課題の特定と解決に心がけています。大切に育てられる一頭一頭をぜひサポートさせていただきます。

- ①歩く食べログ
- ②近畿支店営業課
- ③美味しいお肉で、みんなが笑顔に！一緒に頑張ってください！

- ①紫の勇者たち
- ②近畿支店京滋営業所
- ③～つながる“全ての人々”が笑顔で生き生きと～スローガンにサポートします！！



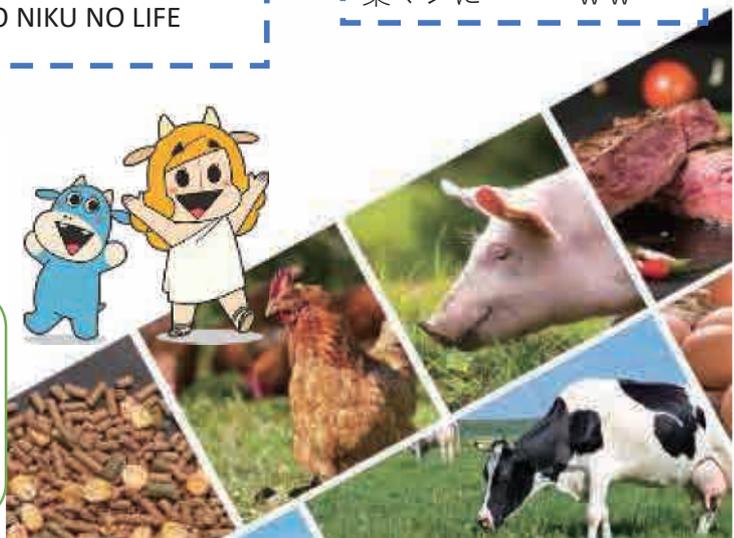
- ①モノトーンサイコパスめがね
- ②中国支店西中国営業所
- ③牛肉を食べたい一心で日々皆様のために頑張っております。サスティナブルな畜産で持続調和を目指します！



- ①suggestionの錬金術師
- ②近畿支店営業課
- ③困ったときにふと相談したくなるような営業マンに・・・ww

- ①1129 (いいにく)
- ②四国支店営業課
- ③NO NIKU NO LIFE

- ①GOさん
- ②四国支店西四国営業所
- ③日本の畜産物を応援します！おいしい牛乳・お肉を生産していただけるように頑張ります！



JA西日本くみあい飼料株式会社 本社
 〒651-0083
 兵庫県神戸市中央区浜辺通5丁目1-14
 神戸商工貿易センタービル 15F
 TEL:078-251-2493
 FAX:078-251-2490

機敏に! 地域に根ざして— ジェイエイ北九州くみあい飼料です



福岡工場・福岡県域営業部



本社



大分工場



長崎工場



熊本工場

生産者にもっとも近い工場からお届けします。

くみあい配合飼料は、畜産農家の皆様へ 『安全・安心な飼料』

をお届けします

製品の供給エリア / 工場配置図



南日本くみあい飼料株式会社

いのちをいただき、未来につなげる。



豊富なカリキュラムと
実習教材



充実した設備



行事ごとに深まる絆



令和5年度学生募集中

科・コース	総合養成科	総合養成科 前期コース	食肉販売科
募集人員	30名		20名
修学期間	入学4月4日(火) 卒業3月1日(金) 1年	入学4月4日(火) 卒業9月29日(金) 6カ月	入学4月4日(火) 卒業6月30日(金) 3カ月
出願 受付期限	令和5年3月10日(金)まで ただし、募集定員に達し次第締め切ります。		

※入学・卒業日については都合により変更する場合があります。



公益社団法人 全国食肉学校

Federal Meat Academy

〒370-1103 群馬県佐波郡玉村町大字樋越1794

お問合せ先 TEL0270(65)2571

FAX0270(65)9274

詳しくはホームページをご覧ください

<http://www.fma.ac.jp>

Eメール / fma@fma.ac.jp



JAチキンは、
JAPANチキンなり。

榮鶏画下

わたしたちは、ニッポンのおいしいチキンに
産地のまごころを込めて、
ニッポンの食卓に幸せをお届けします。

鹿
見
島

JAチキン
国産
まごころ
鶏



健康
味鶏

さつま
岩見島

宮
崎

JAチキン
国産
まごころ
鶏



岩
手

みちのく
清拭
味わい
みちのく
清拭
味わい

ZC 全農チキンフーズ

全農チキンフーズ株式会社
〒108-0075 東京都港区港南2-12-33 品川キャナルビル4F
TEL: 03-6864-0210 www.ja-zcf.co.jp

詳しい情報はコチラ



グループ会社 **MC** 宮崎くみあいチキンフーズ株式会社 **KC** 鹿見島くみあいチキンフーズ株式会社 **Sumita Foods** 住田フーズ株式会社 **asahi** 株式会社 アサヒフーズ

TAMAGO LIFE

～たまごは今日も、家族を支える～

「たまご」にはどんな栄養が入っているのでしょうか？
なんとなく「たんぱく質が多いかな？」くらいのイメージかもしれませんが、実は「命のカプセル」と呼ばれるくらい、たまごには様々な栄養が詰まっており、食べる人それぞれのライフステージに合わせて健康をサポートします。



① ビタミンE 美肌を保ちたい方

ビタミンEには強い抗酸化作用があります。この抗酸化作用により肌荒れの原因となる過酸化脂質の発生を抑制。肌荒れ防止や血行を良くする働きもあります。



② タンパク質 高齢者

加齢にともない筋肉量は減少し、60歳をすぎるとその減少は加速します。「フレイル予防」の観点から、一定量の筋肉を保つことが大切です。筋肉の材料となるタンパク質をしっかり摂取して、健康寿命を延ばしましょう。

③ 鉄分 貧血気味の方

偏食やダイエットによる「鉄分の摂取不足」、成長期や妊娠など「鉄分の需要増加」により鉄分が不足すると、貧血を起こしやすくなります。たまごは鉄分を含むだけでなく、鉄分の吸収を高める働きがあります。

④ 葉酸 妊婦さん

葉酸は赤ちゃんの神経管閉鎖障害という先天異常の予防や、貧血の予防に大切な栄養素です。ほうれん草などにも多く含まれていますが、たまごなら調理による損失が少ないというメリットがあります。

⑤ ビタミンD 骨を作る

カルシウムは吸収率が低い栄養素のひとつ。そこで力を発揮してくれるのがビタミンDです。ビタミンDは腸管からのカルシウムの吸収をサポートするだけでなく、骨の形成をサポートする役目も持っています。

⑥ タンパク質 筋肉を作る

人間の体内で合成できず、食事から必要量をとる必要がある必須アミノ酸。たまごはすべての必須アミノ酸が人間のからだに必要なとされる量を満たし、「アミノ酸スコア100」と評価される、たんぱく質の優等生です。

⑦ コリン 赤ちゃん

新生児は脳を形成するのに大量の脂質を使います。コリンが不足すると十分に脳を大きくすることができません。たまごはコリンの含有量が多く、吸収効率も良い食材です。



1日2個以上 食べてOK

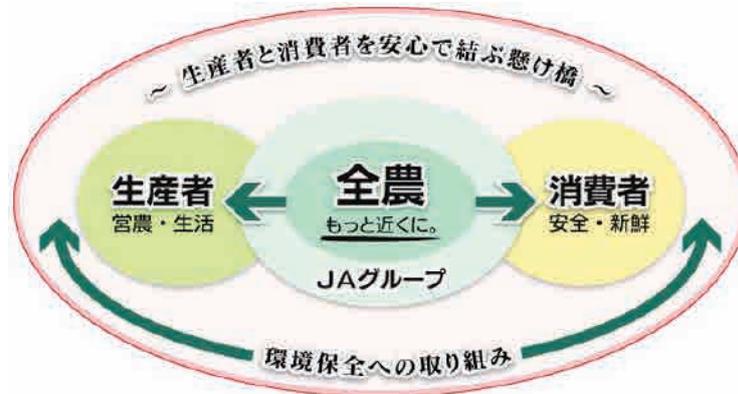
「たまごは1日1個まで」は本当？
答えは…ウソ！100年以上前のロシアで、草食動物のうさぎに高コレステロール食を与える実験がその誤解のもとでした。その後の研究においてもたまごの1日の摂取量とコレステロール値、あるいは心筋梗塞のリスクとの因果関係はないことが確認されています。



たまごの栄養・味・調理特性・文化など、
知られざる「たまごのチカラ」を紹介。
紹介ページはこちら▶



「食」に関わることすべてが、
私たちJAグループの仕事です。



JA全農ミートフーズ株式会社の事業

日本の農業と農家を、さまざまな事業や活動でサポートしているJAグループ。
その中でJA全農ミートフーズ株式会社の事業は、
畜産農家が育てた畜産物を新鮮な状態で、安心して食べていただけるよう、
消費者にお届けすることや畜産農家のために貢献することです。

全農

JA全農ミートフーズ株式会社

〒108-0075 東京都港区港南2-12-33 品川キャナルビル2階 TEL03-5783-9711 FAX03-5783-9716

全国の高校牛児たちが描く冬の熱闘。

ドラマ



開催日
2023

1 | 19 | UET | 20 | ERI

1日目 和牛飼育体験発表・ 2日目 和牛枝肉共励会

開催場所 東京都中央卸売市場食肉市場・
品川グランドホール (THE GRAND HALL)

つなげ、ひろがれ！
君たち
高校牛児のおもい！



第6回の和牛甲子園ホームページ
大会の様子はこちらでも
ご覧いただけます。



和牛甲子園について

和牛甲子園は、和牛を飼育する全国の農業高校の生徒、高校球児ならぬ「高校牛児」たちの大会です。育てた和牛の肉質と、飼育に関する日頃の取り組み内容を競います。全農は(1)将来の担い手候補である高校生の就農意欲の向上(2)日本各地で同じ志を持つ高校生同士のネットワークを創出し、意欲と技術の向上を図る—の2点を目的に、和牛甲子園を開催しています。

史上最多！全国23道府県40校から黒毛和牛56頭がエントリー！

No.	参加校	No.	参加校
1	北海道 北海道倶知安農業高等学校	21	岐阜県 岐阜県立大垣養老高等学校
2	北海道 酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校	22	岐阜県 岐阜県立加茂農林高等学校
3	青森県 青森県立三本木農業高等学校 青森県立三本木農業専修高等学校	23	岐阜県 岐阜県立飛騨高山高等学校
4	岩手県 岩手県立水沢農業高等学校	24	愛知県 愛知県立渥美農業高等学校
5	岩手県 岩手県立盛岡農業高等学校	25	滋賀県 滋賀県立長浜農業高等学校
6	岩手県 岩手県立花巻農業高等学校	26	京都府 京都府立農芸高等学校
7	宮城県 宮城県農業高等学校	27	島根県 島根県立出雲農林高等学校
8	福島県 福島県立会津農林高等学校	28	岡山県 岡山県立瀬戸南高等学校
9	福島県 福島県立磐城農業高等学校	29	広島県 広島県立西条農業高等学校
10	茨城県 茨城県立水戸農業高等学校	30	山口県 山口県立大津緑洋高等学校
11	栃木県 栃木県立宇都宮白楊高等学校	31	佐賀県 佐賀県立唐津南高等学校
12	栃木県 栃木県立鹿沼南高等学校	32	長崎県 長崎県立諫早農業高等学校
13	栃木県 栃木県立栃木農業高等学校	33	熊本県 熊本県立南校高等学校
14	栃木県 栃木県立那須拓陽高等学校	34	宮崎県 宮崎県立高鍋農業高等学校
15	栃木県 栃木県立真岡北陵高等学校	35	宮崎県 宮崎県立都城農業高等学校
16	栃木県 栃木県立矢板高等学校	36	鹿児島県 鹿児島県立市来農芸高等学校
17	群馬県 群馬県立利根実業高等学校	37	鹿児島県 鹿児島県立鶴翔高等学校
18	群馬県 群馬県立吾妻中央高等学校	38	鹿児島県 鹿児島県立鹿屋農業高等学校
19	神奈川県 神奈川県立中央農業高等学校	39	鹿児島県 鹿児島県立首於高等学校
20	富山県 富山県立中央農業高等学校	40	鹿児島県 鹿児島県立加世田常潤高等学校



主催 **全農** 全国農業協同組合連合会 (JA全農)

後援 文部科学省、農林水産省、独立行政法人農畜産業振興機構、独立行政法人家畜改良センター、東京都中央卸売市場食肉市場、東京食肉市場株式会社、全国農業高等学校長協会、日本学校農業クラブ連盟、公益財団法人全国学校農場協会、公益社団法人全国食肉学校、一般社団法人全国農業協同組合中央会、JA 全農ミートフーズ株式会社

